

イラスト目次	イラストから検索
1 安全・安心のために	お客様に必ずお読みいただきたいこと
2 メーターの見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3 各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4 運転	運転に必要な操作やアドバイス
5 オーディオ	オーディオの使い方など
6 室内装備・機能	室内装備の使い方など
7 お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法
8 万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
9 車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
さくいん	症状から検索
	音から検索
	アルファベットで検索
	五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
 本書の見方 10
 検索のしかた 11
 イラスト目次 12

1 安全・安心のために

1. 安全にお使いいただくために
 運転する前に 20
 安全なドライブのために 22
 シートベルト 24
 SRS エアバッグ 29
 お子さまの安全のために 35
 子供専用シート 36
 チャイルドシートの
 取り付け 42
 排気ガスに対する注意 45

2 メーターの見方

2. 計器の見方
 警告灯／表示灯 48
 計器類 52
 マルチインフォメーション
 ディスプレイ 54

3 各部の操作

3-1. キー
 キー 64
 3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
 ドア
 (フロントドア・リアドア) ... 66
 バックドア 70
 3-3. シートの調整
 フロントシート 75
 リアシート 76
 ヘッドレスト 82
 3-4. ハンドル位置・ミラー
 ハンドル 84
 インナーミラー 86
 ドアミラー 88
 3-5. ドアガラスの開閉
 パワーウインドウ 90

4 運転

- 4-1. 運転にあたって
 - 運転にあたって 94
 - 荷物を積むときの注意 104
- 4-2. 運転のしかた
 - エンジン（イグニッション）
スイッチ 105
 - オートマチックトランス
ミッション（CVT） 108
 - 方向指示レバー 111
 - パーキングブレーキ 112
- 4-3. ランプのつけ方・
ワイパーの使い方
 - ランプスイッチ 113
 - リアフォグランプスイッチ 116
 - ワイパー&ウォッシャー
（フロント） 118
 - ワイパー&ウォッシャー
（リア） 120
- 4-4. 給油のしかた
 - 給油口の開け方 122
- 4-5. 衝突回避支援パッケージ
 - 衝突回避支援パッケージ 126
 - ブリクラッシュ
セーフティシステム
（レーザーレーダー＋
単眼カメラ方式） 131
 - レーンディパーチャーアラート
（車線逸脱警報） 146
 - オートマチックハイビーム 151
 - 先行車発進告知機能 155
- 4-6. 運転支援装置について
 - アイドリングストップ機能 157
 - 運転を補助する装置 165
- 4-7. 運転のアドバイス
 - 寒冷時の運転 173

5 オーディオ

- 5-1. オーディオの基本操作
 - オーディオの種類 178
- 5-2. オーディオの使い方
 - 快適に聞くために 179
- 5-3. ラジオの使い方
 - ラジオの使い方 180
- 5-4. 外部入力接続機器の使い方
 - AUX 端子（外部入力接続）
の使い方 182
- 5-5. アンテナの取り扱い
 - アンテナ 184

1

2

3

4

5

6

7

8

9

6 室内装備・機能

6-1. エアコン・デフォグガーの
使い方
マニュアルエアコン 186

6-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 192
・フロントルームランプ・
リアルームランプ 193

6-3. 収納装備の使い方
収納装備一覧 194
・センタートレイ
(ドリンクホルダー付) 196
・マルチホルダー 198
・インパネトレイ 201
・開閉式
ワイドフリーラック 202
・センターボックス 202
・カップホルダー・
ボトルホルダー 203
・オープントレイ・
ポケット 205

6-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 206
・サンバイザー 206
・時計 207
・12V 電源ソケット 208
・インパネテーブル 209
・コートフック 211
・デッキサイドポケット 211

7 お手入れのしかた

7-1. お手入れのしかた
外装の手入れ 214
内装の手入れ 217

7-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 219
ガレージジャッキ 221
ウォッシャー液の補給 222
タイヤについて 223
タイヤ空気圧について 227
エアコンフィルターの
交換 229
リモコンキーの電池交換 232
ヒューズの点検・交換 234
電球 (バルブ) の交換 237

8 万が一の場合には**8-1. まず初めに**

- 故障したときは248
- 非常点滅灯
(ハザードランプ)249
- 発炎筒250
- 車両を緊急停止するには252

8-2. 緊急時の対処法

- けん引について253
- 警告灯がついたときは260
- パンクしたときは265
- エンジンが
かからないときは276
- バッテリーが
あがったときは277
- オーバーヒートしたときは281
- スタックしたときは284

9 車両情報**9-1. 仕様一覧**

- メンテナンスデータ
(指定燃料・
オイル量など) 288

9-2. カスタマイズ機能

- ユーザーカスタマイズ
機能一覧 295

さくいん

- こんなときは
(症状別さくいん) 298
- 車から音が鳴ったときは
(音さくいん) 301
- アルファベット順さくいん 302
- 五十音順さくいん 304

1

2

3

4

5

6

7

8

9

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

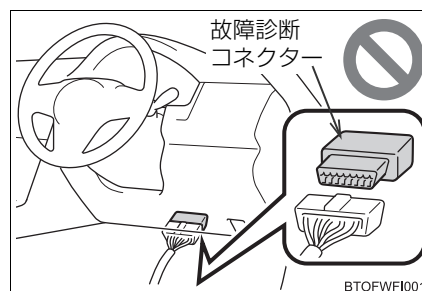
本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
マツダ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。
イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- マツダが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱えば、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はマツダ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクタなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクタなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けしないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数
- ・ アクセルの操作状況
- ・ ブレーキの操作状況
- ・ 車速
- ・ シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

マツダはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、マツダは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー (EDR) が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態 (SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など) が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報 (例：氏名・性別・年齢・衝突場所) は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせ使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。マツダにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、マツダは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意 (リース車は借主の同意) がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ マツダが訴訟で使用する場合

ただし、マツダは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- 4 輪アンチロック・ブレーキ・システム (4W-ABS)
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー
- 衝突回避支援パッケージ

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずマツダ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をマツダ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

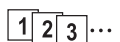
本書の見方



お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



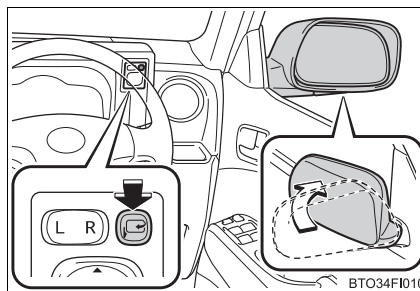
操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。



押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。



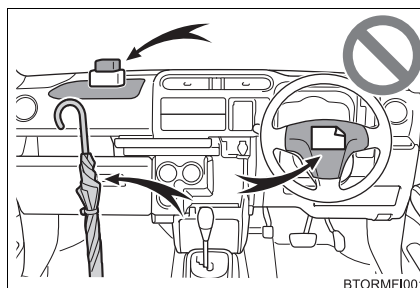
フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。



“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。

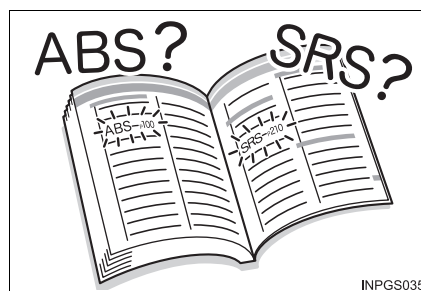


機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

- ・ 五十音順さくいん304
- ・ アルファベット順
さくいん302



■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次12



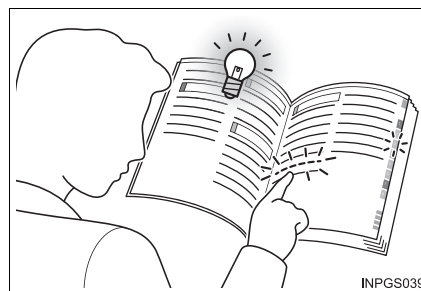
■ 症状や音から探す

- ・ こんなときは
(症状別さくいん)298
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)301



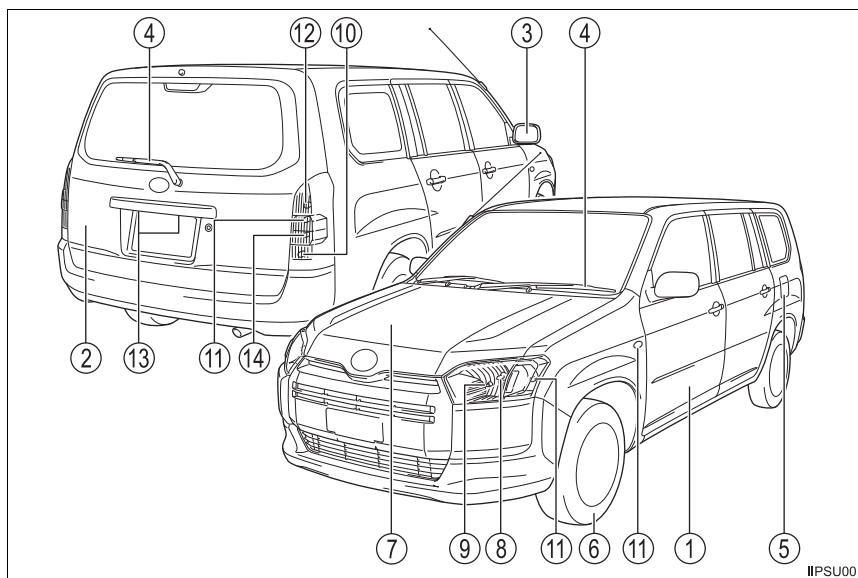
■ タイトルから探す

- ・ 目次2



イラスト目次

■外観



① ドア	P. 66
施錠／解錠	P. 66
ドアガラスの開閉★	P. 90
警告灯	P. 263
② バックドア	P. 70
施錠／解錠	P. 70
警告灯	P. 263
③ ドアミラー	P. 88
鏡面の角度調整	P. 88
ミラーの格納	P. 88
曇りを取る (ヒートドドアミラー) ★	P. 188
④ ワイパー	P. 118, 120
冬季の注意	P. 173

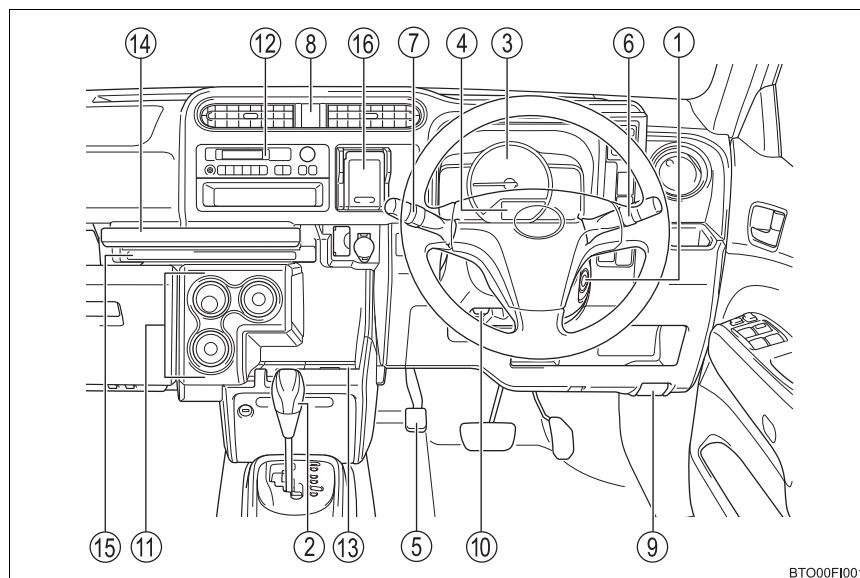
- ⑤ 給油口.....P. 122
 - 給油方法.....P. 122
 - 燃料の種類・燃料タンク容量.....P. 288
- ⑥ タイヤ.....P. 223
 - サイズ・空気圧.....P. 293
 - 冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 173
 - 点検・ローテーション.....P. 223
 - パンク時の対処.....P. 265
- ⑦ ボンネット.....P. 219
 - 開け方.....P. 219
 - エンジンオイル.....P. 289
 - オーバーヒート時の対処.....P. 281

走行に関わる外装のランプバルブ
(交換要領：P. 237, ワット数：P. 294)

- ⑧ ヘッドランプ.....P. 113
- ⑨ 車幅灯.....P. 113
- ⑩ リアフォグランプ★.....P. 116
- ⑪ 方向指示灯.....P. 111
 - 緊急ブレーキシグナル.....P. 166
- ⑫ 制動灯／尾灯.....P. 113
 - ヒルスタートアシストコントロール.....P. 165
- ⑬ 番号灯.....P. 113
- ⑭ 後退灯
 - シフトポジションをRにする.....P. 108

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル

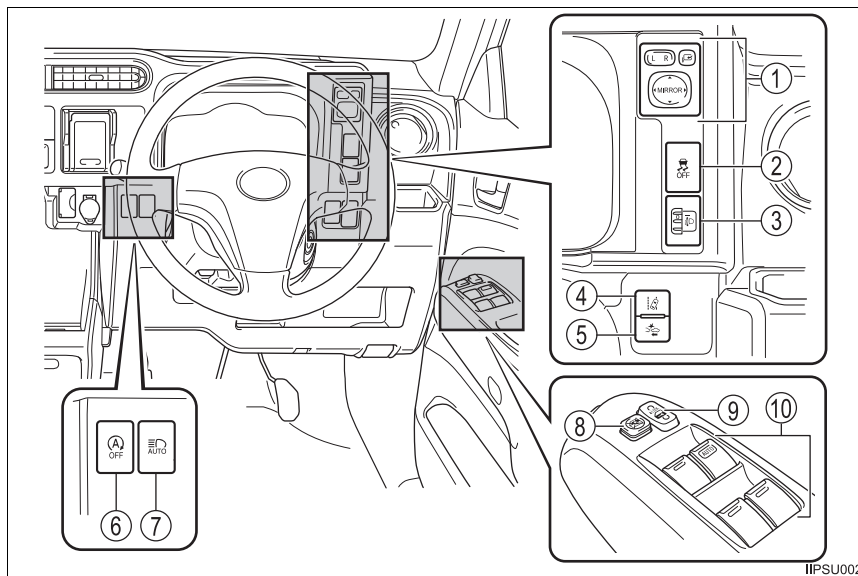


① エンジンスイッチ	P. 105
エンジンの始動・位置の切りかえ	P. 105
エンジンの緊急停止	P. 252
エンジンが始動できないときの対処	P. 276
② シフトレバー	P. 108
シフトポジションの切りかえ	P. 108
けん引時の注意	P. 253
シフトレバーが動かないときの対処	P. 110
③ メーター	P. 52
見方・明るさの調整	P. 52, 57
警告灯／表示灯	P. 48
警告灯点灯時の対処	P. 49, 260

④	マルチインフォメーションディスプレイ	P. 54
⑤	パーキングブレーキ	P. 112
	かける・解除する	P. 112
	冬季の注意	P. 174
	警告ブザー	P. 112
⑥	方向指示レバー	P. 111
	ランプスイッチ	P. 113
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯	P. 113
	リアフォグランプ★	P. 116
⑦	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P. 118, 120
	使い方	P. 118, 120
	ウォッシャー液の補給	P. 222
⑧	非常点滅灯スイッチ	P. 249
⑨	ボンネット解除レバー	P. 219
⑩	ハンドル位置調整レバー	P. 84
⑪	マニュアルエアコン	P. 186
	操作方法	P. 186
	リアウインドウガラスの曇り取り (リアウインドウデフォグガー)	P. 188
⑫	オーディオ★	P. 178
⑬	センタートレイ (ドリンクホルダー付)	P. 196
⑭	インパネテーブル	P. 209
⑮	インパネトレイ	P. 201
⑯	マルチホルダー	P. 198

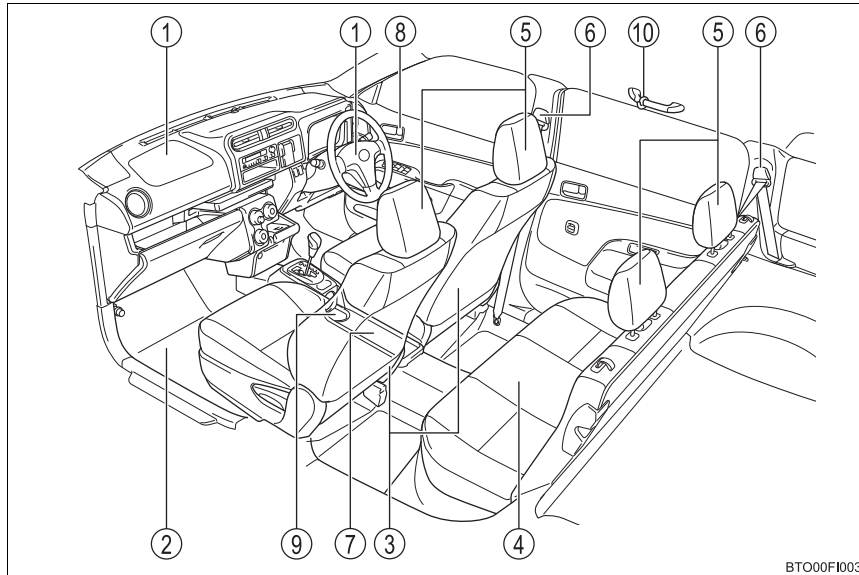
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■スイッチ類



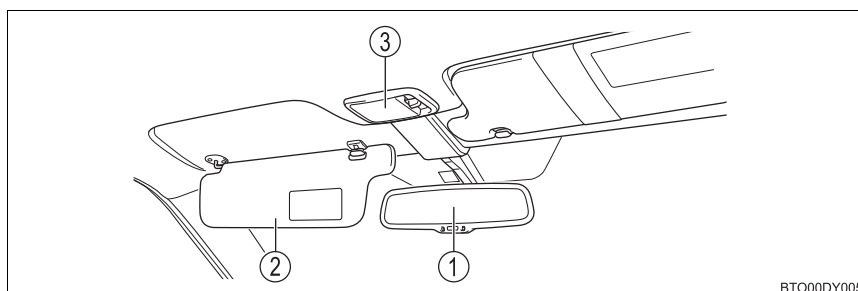
- ① ドアミラースイッチP. 88
- ② ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム
[横滑り防止機構] (DSC) OFF スイッチP. 167
- ③ 手動光軸調整ダイヤル.....P. 114
- ④ レンディパーチャーアラート (車線逸脱警報) スイッチ....P. 148
- ⑤ プリクラッシュセーフティシステム
(レーザーレーダー+単眼カメラ方式) スイッチ.....P. 135
- ⑥ アイドリングストップキャンセルスイッチ★P. 159
- ⑦ オートマチックハイビームスイッチ.....P. 151
- ⑧ パワーウィンドロックスイッチP. 91
- ⑨ ドアロックスイッチP. 67
- ⑩ パワーウィンドスイッチP. 90

■ 室内



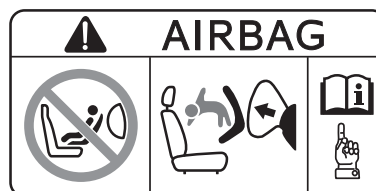
① SRS エアバッグ	P. 29
② フロアマット	P. 20
③ フロントシート	P. 75
④ リアシート	P. 76
⑤ ヘッドレスト★	P. 82
⑥ シートベルト	P. 24
⑦ センターコンソールトレイ	P. 205
⑧ ロックレバー	P. 67
⑨ カップホルダー	P. 203
⑩ コートフック	P. 211

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



① インナーミラーP. 86
 ② サンバイザー ※¹P. 206
 ③ ルームランプ ※²P. 192

※¹ : やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→ P. 44)



※² : 図はフロントですが、リアにも装着されています。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1. 安全にお使いいただくために
 - 運転する前に.....20
 - 安全なドライブのために22
 - シートベルト.....24
 - SRS エアバッグ.....29
 - お子さまの安全のために35
 - 子供専用シート.....36
 - チャイルドシートの
 - 取り付け.....42
 - 排気ガスに対する注意45

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

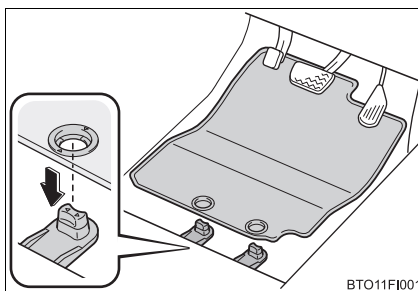
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、マツダ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

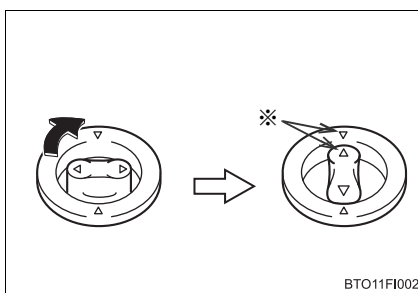
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にとしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

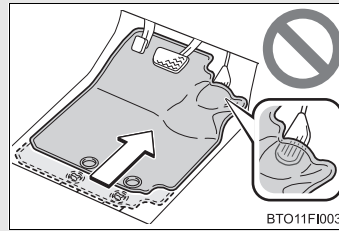
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- マツダ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

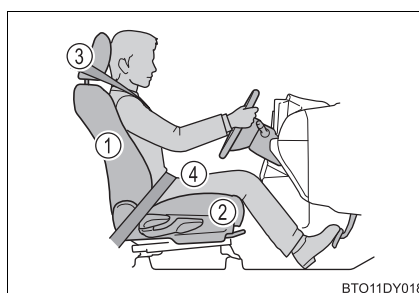


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する (→ P. 75)
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする (→ P. 75)
- ③ 分割式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする (→ P. 82)
- ④ シートベルトを正しく着用する (→ P. 24)



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→ P. 24)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 36)

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→ P. 86, 88)

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

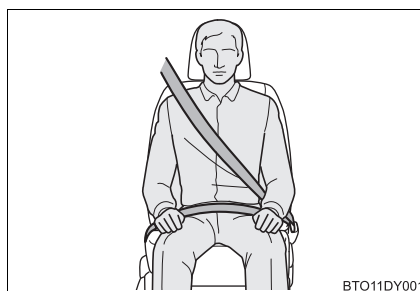
シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

◆ 3点式シートベルト

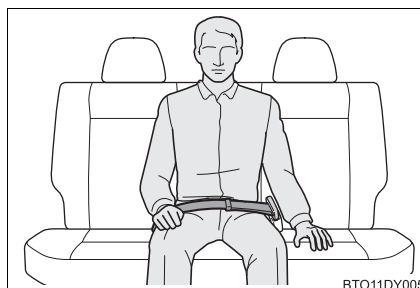
- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



BTO11DY001

◆ 2点式シートベルト

- ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させ、ベルトの長さを調整する
- 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

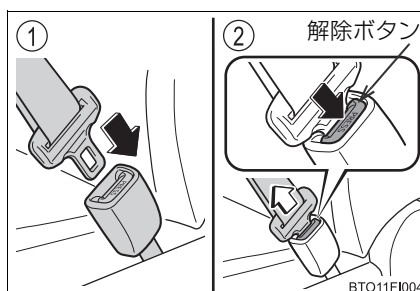


BTO11DY005

着け方・はずし方

- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

はずした2点式シートベルトを使用しないときは、プレートをバックルにはめておいてください。

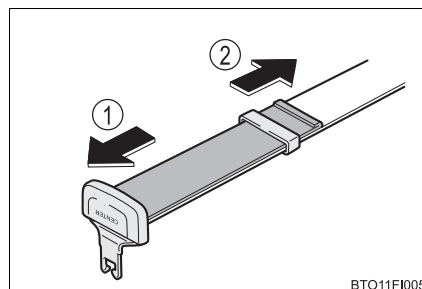


BTO11FI004

シートベルトの長さ調整 (2点式シートベルト)

- ① 伸ばす
- ② 縮める

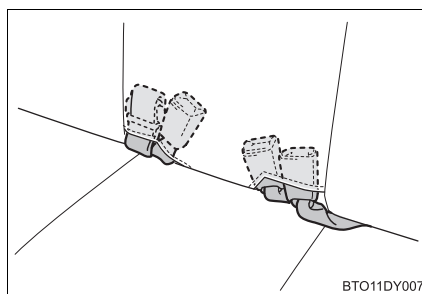
着用時は、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着するようにベルトの長さを調整してください。



BTO11FI005

格納のしかた (リア席)

シートベルトを使用しないときは、ポケットに格納しておくことができます。

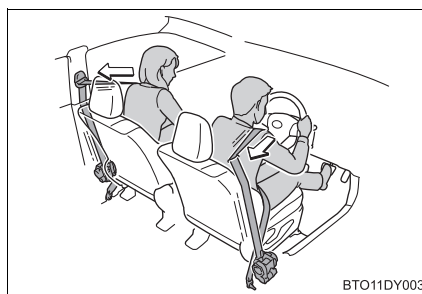


BTO11DY007

シートベルト フロントシート プリテンショナー

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確認します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



BTO11DY003

 知識**■シートベルトロックの解除方法（3点式シートベルト）**

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。（→P. 36）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→P. 24）

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリアシートに座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- リアシートベルトを格納ポケットの中に押し込んだ状態で使用しない

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 24)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告**■ 疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのようになってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ プリテンショナー付シートベルトについて

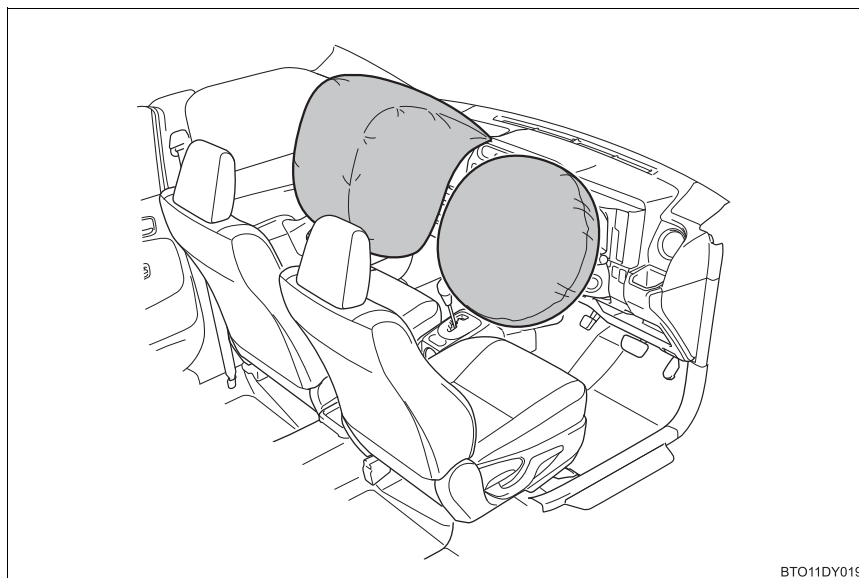
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずマツダ販売店で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにマツダ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、マツダ販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

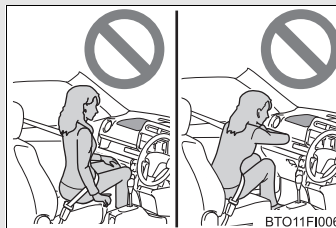
SRS エアバッグシステム 運転席&助手席
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

警告**■SRS エアバッグについて**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

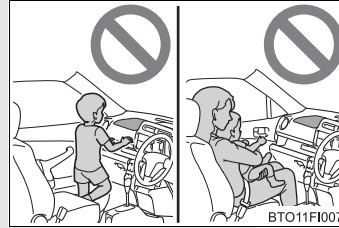
- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- SRS エアバッグシステム（助手席）は強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリアシートに乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 36）
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



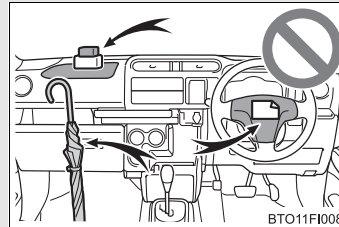
BTO11F1006

警告**■SRS エアバッグについて**

- お子さまをSRS エアバッグシステム（助手席）の前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



- マルチホルダーやインパネテーブルを引き出したまま走行しない
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。
皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずマツダ販売店で交換してください。

 **警告****■改造・廃棄について**

マツダ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパーの修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識

■ SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）が数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

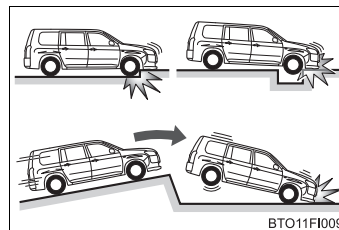
■ SRS エアバッグが作動するとき

- SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝撃の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■ 衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、SRS エアバッグが作動する場合があります。

- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

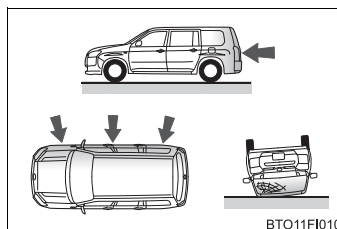


BTO11FI009

■ SRSエアバッグが作動しないとき

SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転、または低速での前方からの衝撃では、通常作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、SRS エアバッグが作動することがあります。

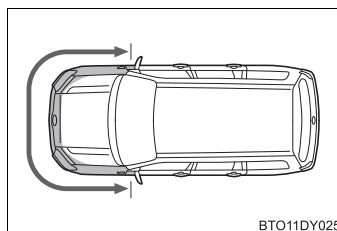
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



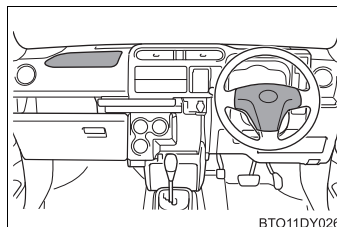
■ マツダ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くマツダ販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの SRS エアバッグシステム（助手席）付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 36)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリアシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドブローフ(→ P. 68)・パワーウィンドウロックスイッチ★(→ P. 91)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。(→ P. 42)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44[※] の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

- グループ0 : 10kg まで
- グループ0+ : 13kg まで
- グループI : 9 ~ 18kg
- グループII : 15 ~ 25kg
- グループIII : 22 ~ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

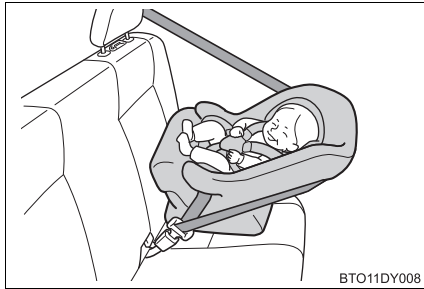
[※] ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それともなう取り付け器具の記号になります。

子供専用シートの種類

▶ ベビーシート



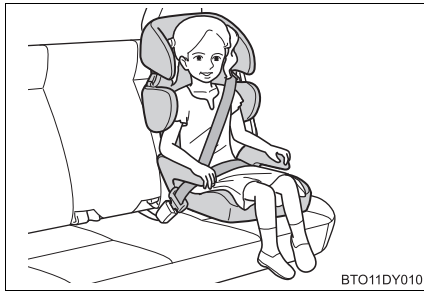
ECE R44 基準のグループ 0、0+
に相当

▶ チャイルドシート



ECE R44 基準のグループ 0+、I
に相当

▶ ジュニアシート



ECE R44 基準のグループ II、IIIに
相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

▶ クッション固定式リアシート装着車

質量グループ	着座位置（または他の位置）			
	フロントシート	リアシート		
	助手席	右席	左席	中央席
0 (10kg まで)	×	×	×	×
0+ (13kg まで)	×	×	×	×
I (9～18kg まで)	UF ^{*1}	×	×	×
II (15～25kg まで)	UF ^{*1}	×	×	×
III (22～36kg まで)	UF ^{*1}	×	×	×

● 上表に記入する記号の説明

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

×：お子さま専用シートを取り付けることができません。

^{*1} 背もたれを直立状態にしてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

子供専用シートの装着については、子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

▶ クッション引き起こし式リアシート装着車

質量グループ	着座位置（または他の位置）			
	フロントシート	リアシート		
	助手席	右席	左席	中央席
0 (10kg まで)	×	U※2	U※2	×
0+ (13kg まで)	×	U※2	U※2	×
I (9～18kg まで)	UF※1	U※2	U※2	×
II (15～25kg まで)	UF※1	U※2	U※2	×
III (22～36kg まで)	UF※1	U※2	U※2	×

● 上表に記入する記号の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

×： お子さま専用シートを取り付けることができません。

※1 背もたれを直立状態にしてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 子供専用シートを取り付ける位置側のフロントシート前後位置を前から 5 段目までの固定位置のいずれかに調整してください。
この調整により正しい運転姿勢をとれない場合は、左席に取り付けてください。

子供専用シートの装着については、子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

知識

■ 子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分に大きく、子供専用シートが不要なお子さまは、リアシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

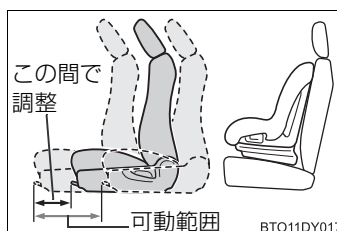
■ シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ リアシートに子供専用シートを取り付けるとき

リアシートに子供専用シートを取り付ける場合には、取り付ける位置側のフロントシート前後位置を次の位置に調整してください。

- クッション固定式リアシート装着車：
前から9段目までの固定位置のいずれか
- クッション引き起こし式リアシート装着車：
前から5段目までの固定位置のいずれか

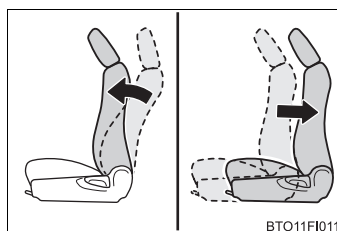


この調整により正しい運転姿勢をとれない場合は、左席に取り付けてください。

■ 助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる



警告**■子供専用シートを使用しない場合**

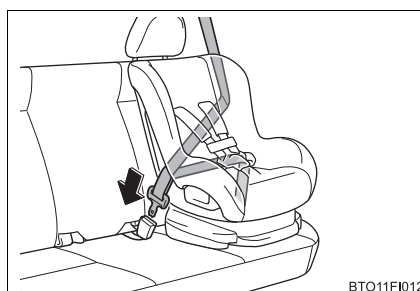
- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

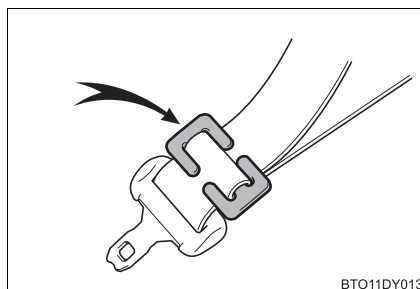
シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリアシート左右席に取り付けてください。取り付け方法は、必ず商品に付属の取り扱い説明書に従ってください。

- 1 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 2 チャイルドシートにシートベルトの固定機構が備わっていない場合は、ロックングクリップ（市販品）を使用して固定する



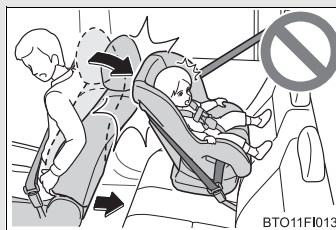
取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

警告**■チャイルドシートについて**

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リアシートに取り付けてください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるとき

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一、ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリア席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

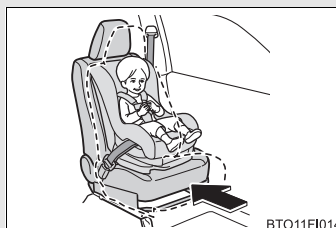


警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

SRS エアバッグシステム（助手席）はかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで SRS エアバッグシステム（助手席）がふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにマツダ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

● 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。

● 長時間エンジンをかけたままにしないでください。

やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。

● 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

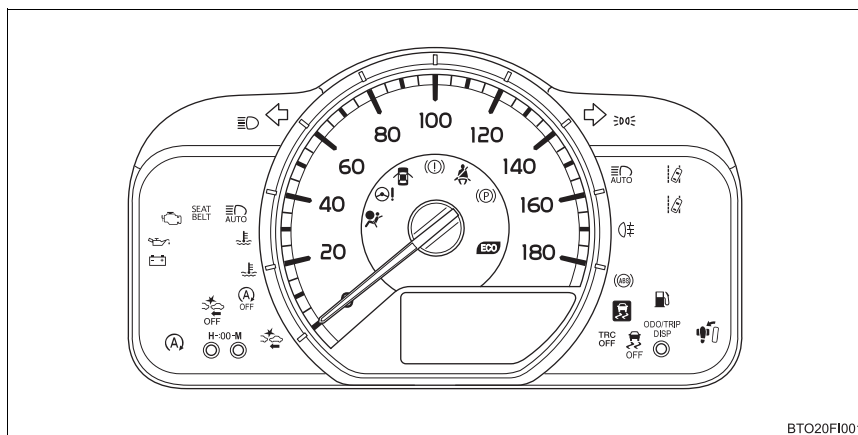
排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。

メーターの見方**2**

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯.....	48
計器類.....	52
マルチインフォメーション ディスプレイ.....	54

警告灯／表示灯

メーターの警告灯・表示灯でお車の状況をお知らせします。



警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→ P. 260)

※  ブレーキ警告灯 (→ P. 260)	※  プリクラッシュセーフティシステム (レーザーレーダー+単眼カメラ方式) 警告灯 (→ P. 262) (点滅)
※  充電警告灯 (→ P. 260)	※  オートマチックハイビーム表示灯 (→ P. 263) (黄色)
※  油圧警告灯 (→ P. 260)	※  レーンディパーチャーアラート (車線逸脱警報) 表示灯 (→ P. 263) (黄色)
※  高水温警告灯 (→ P. 260) (赤色)	※  アイドリングストップキャンセル表示灯★ (→ P. 263) (点滅)
※  エンジン警告灯 (→ P. 260)	※  ドライブスタートコントロール警告灯 (→ P. 263)
※  SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯 (→ P. 260)	※  半ドア警告灯 (→ P. 263)
※  4 輪アンチロック・ブレーキ・システム (4W-ABS) & ブレーキアシスト警告灯 (→ P. 261)	※  燃料残量警告灯 (→ P. 263)
※  パワーステアリング警告灯 (→ P. 261)	※  運転席シートベルト非着用警告灯 (→ P. 263)
※  スリップ表示灯 (→ P. 261)	

※ 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

	方向指示表示灯 (→ P. 111)		プリクラッシュセーフティシステム (レーザーレーダー+単眼カメラ方式) 作動表示灯 (→ P. 131)
	尾灯表示灯 (→ P. 113)		※1, 2 プリクラッシュセーフティシステム (レーザーレーダー+単眼カメラ方式) 警告灯 (→ P. 135)
	ハイビーム表示灯 (→ P. 113)		オートマチックハイビーム表示灯 (→ P. 151)
	リアフォグランプ表示灯★ (→ P. 116)		レーンディパーチャーアラート (車線逸脱警報) 表示灯 (→ P. 148)
	パーキングブレーキ表示灯 (→ P. 112)		※1 アイドリングストップ表示灯★ (→ P. 157)
	低水温表示灯 (→ P. 51) (青色)		※1 アイドリングストップキャンセル表示灯★ (→ P. 159)
	※1 スリップ表示灯 (→ P. 166) (点滅)		シートベルトインフォメーション表示灯 (→ P. 51)
	※1 TRC OFF 表示灯 (→ P. 167)		※1 エコドライブインジケータランプ (→ P. 96)
	※1 ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) OFF 表示灯 (→ P. 168)		

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 低水温表示灯（青色）

エンジンスイッチが“ON”のとき、エンジン冷却水温が低いと点灯します。

■ シートベルトインフォメーション表示灯

エンジンスイッチを“ON”にすると、約10秒間点滅して運転者に同乗者のシートベルト着用をうながします。

 **知識****■ シートベルトインフォメーション表示灯について**

- 停車中でエンジンスイッチが“ON”のとき、いずれかのドアを開閉すると点滅します。
- シートベルトを着用していてもエンジンスイッチを“ON”にするたび、点滅します。また、点滅中にシートベルトを着用しても、約10秒経過するまで消灯しません。

2

メーターの見方

 **警告****■ 安全装置の警告灯が点灯しないときは**

4輪アンチロック・ブレーキ・システム（4W-ABS）やSRSエアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

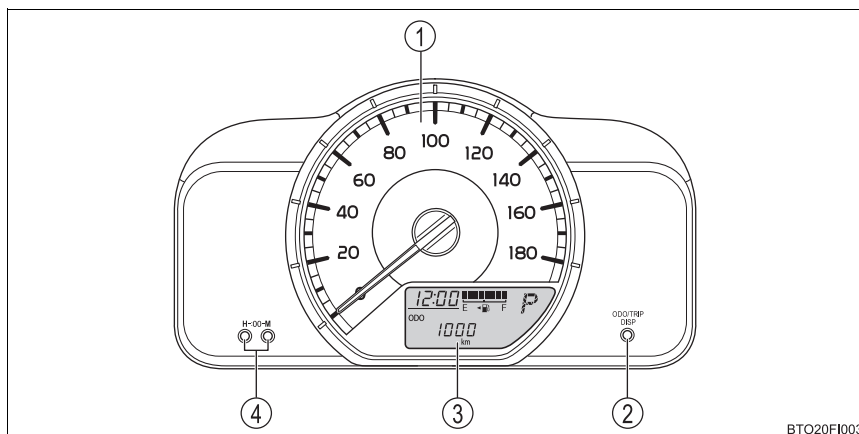
 **注意****■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

高水温警告灯（赤色）が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 281）

■ 低水温表示灯（青色）が点灯したままのときは

暖機を十分続けていても、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

計器類



- ① スピードメーター
車両の走行速度を示します。
- ② 表示切りかえボタン
オドメーター・トリップメーター・燃費表示などの切りかえができます。
(→ P. 55)
- ③ マルチインフォメーションディスプレイ
時計や外気温、走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 54)
- ④ 時計調整ボタン
時刻を調整します。(→ P. 207)

 **知識**

-
- **メーター・ディスプレイの作動条件**
エンジンスイッチが“ON” のとき

マルチインフォメーションディスプレイ

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、時計や外気温、走行に関するさまざまな情報を表示します。

- トリップインフォメーション (→ P. 56)

オドメーター、トリップメーター、航続可能距離や燃費など、走行に関する情報を表示します。

- 外気温

外気温を表示します。

– 40℃～50℃のあいだで表示します。

- メーター照度調整 (→ P. 57)

メーター照明の明るさを調整できます。

- 時計 (→ P. 207)

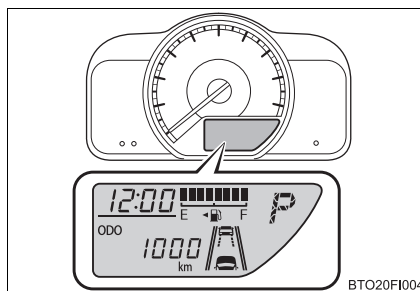
- 燃料計

燃料残量を表示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油 (約 5L 以下) を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

- シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。



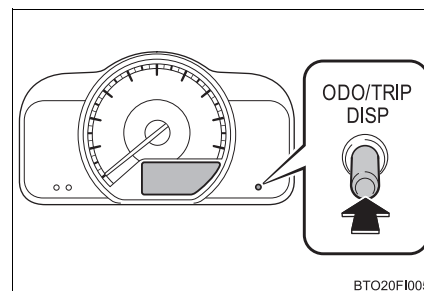
- カスタマイズモード (→ P. 58)
次のカスタマイズをすることができます。
 - ・ レーンディパーチャーアラート (車線逸脱警報)
 - ・ 先行車発進告知機能
 - ・ エコドライブインジケータランプ
 - ・ アイドリングストップ時間割り込み表示★
- プリクラッシュセーフティシステム (レーザーレーダー + 単眼カメラ方式) (→ P. 131)
システムの ON/OFF と警報タイミングを変更することができます。
- レーンディパーチャーアラート (車線逸脱警報) (→ P. 146)
- 先行車発進告知機能 (→ P. 155)
- アイドリングストップ機能★ (→ P. 163)
エアコン (冷房・除湿機能) が ON のときのアイドリングストップ時間の長さを変更することができます。

2

メーターの見方

表示切りかえ

表示を切りかえるには、表示切りかえボタンを押します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トリップインフォメーションの機能■ **オドメーター**

画面内に **ODO** と表示されます。

走行した総距離を表示します。

■ **トリップメーター**

画面内に **TRIP A** / **TRIP B** と表示されます。

リセットしてからの走行距離を表示します。

- ・ 区間距離は、トリップA・トリップB の2 種類で使い分けることができます。
- ・ 表示切りかえボタンを約 1 秒以上押すと 0 にもどります。

■ **アイドリングストップ時間 (アイドリングストップ機能装着車)**

画面内に **(A)** と表示されます。

エンジンを始動してからエンジンスイッチを“LOCK”にするまでのアイドリングストップ時間 (アイドリングストップ機能によるエンジン停止時間) を表示します。

■ **総アイドリングストップ時間 (アイドリングストップ機能装着車)**

画面内に **TRIP (A)** と表示されます。

リセットしてからのアイドリングストップ時間 (アイドリングストップ機能によるエンジン停止時間) を通算で表示します。

- リセットするには、総アイドリングストップ時間の表示中に表示切りかえボタンを約 1 秒以上押します。

■ **瞬間燃費**

現在の瞬間燃費を表示します。

■ **平均燃費**

画面内に **AVG.** と表示されます。

リセットしてからの平均燃費を表示します。

- ・ リセットするには、平均燃費の表示中に表示切りかえボタンを約 1 秒以上押します。
- ・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 航続可能距離

画面内に **RANGE** と表示されます。

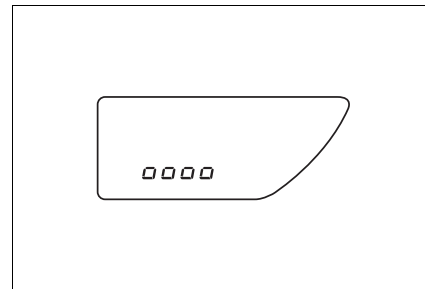
現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- ・ 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象・渋滞など）や運転方法（急発進・エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- ・ 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→ P. 60）

メーター照度調整表示

車幅灯が点灯しているとき、メーター照度調整表示に切りかえることができます。

表示切りかえボタンを約 1 秒以上押しと照度を 4 段階に調整できます。



カスタマイズモード

■ 設定変更のしかた

- 1 オドメーター表示中に表示切りかえボタンを約 1 秒以上押し、画面をカスタマイズモードに切りかえる
- 2 表示切りかえボタンを押し、設定を変更したい項目を表示させる
ボタンを押すごとに表示が切りかわります。
- 3 表示切りかえボタンを約 1 秒以上押し、設定を変更する
ボタンを押すごとに表示が切りかわります。

カスタマイズモードを終了するには、画面に *End* が表示されるまで表示切りかえボタンを押したあと、ボタンを約 1 秒以上押してください。

End が表示された状態で約 5 秒経過したときもカスタマイズモードが終了します。

■ 設定変更できる項目

表示	設定内容	
	高い 00	レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）警報感度 車線逸脱時の警報ブザーが鳴る感度を2段階から選択することができます。
	普通 0-	
	ON	先行車発進告知機能 告知機能の作動・非作動を選択することができます。
	OFF	
	遅い 0--	先行車発進告知機能の告知タイミング タイミングを3段階から選択することができます。
	普通 00-	
	早い 000	
※ 	ON	エコドライブインジケータランプ ランプの作動・非作動を選択することができます。
	OFF	
※ 	ON	アイドリングストップ時間 割り込み表示★ アイドリングストップ中の割り込み表示の表示・非表示を選択することができます。
	OFF	

※ 装備の有無により、表示される番号は異なります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 表示切りかえボタンを押してオドメーター表示に切りかえる
- 3 エンジンスイッチを“LOCK”にする
- 4 表示切りかえボタンを押したまま、エンジンスイッチを“ON”にする
- 5 そのまま約 5 秒間、表示切りかえボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手を離す

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと、通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■ バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- 平均燃費
- 航続可能距離
(再計算されるため、バッテリー端子脱着前と距離が異なることがあります)
- 車幅灯が点灯しているときのメーター照度 (最大照度になります)
- 時計 (1:00 になります)

■ 外気温度表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行 (約 20km/h 以下) のとき
- 外気温度が急激に変化したとき (車庫・トンネルの出入り口付近など)

■ 外気温度表示で“—”または“E”が表示されたときは

システム異常のおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズモードの操作について

- 走行中はカスタマイズモードに切りかえることができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 次の場合はカスタマイズモードが中断され、オドメーター表示にもどります。
 - ・ 約 30 秒間操作しなかったとき
 - ・ 走行し始めたとき

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、異常ではありません。

⚠ 警告**■ 設定を変更するとき**

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意**■ 低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

■ 設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

各部の操作

3

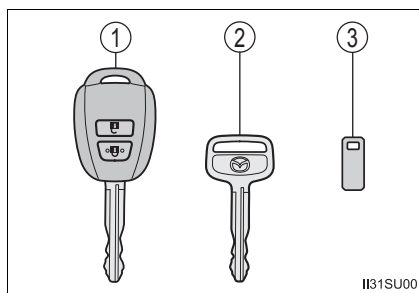
3-1. キー	
キー	64
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア (フロントドア・リアドア)	66
バックドア	70
3-3. シートの調整	
フロントシート	75
リアシート	76
ヘッドレスト	82
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	84
インナーミラー	86
ドアミラー	88
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	90

キー

キーについて

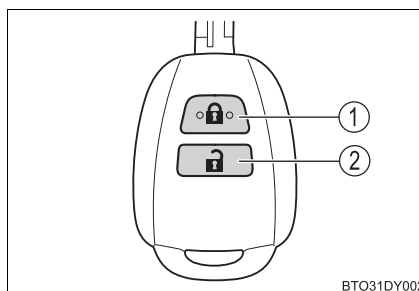
お客様へ次のキーをお渡しします。

- ① リモコン付きマスターキー
- ② スペアキー
- ③ キーナンバープレート



リモコンキー

- ① ドアの施錠 (→ P. 66)
- ② ドアの解錠 (→ P. 66)



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ キーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーから、マツダ販売店でマツダ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■ 航空機に乗るときは

航空機にリモコンキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

● 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

● リモコンキーを使用しなくても電池は消耗します。

次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→ P. 232）

- ・ リモコンキーが作動しない
- ・ 作動範囲が狭くなった

3

各部の操作

 注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない

■ キー取り扱いの注意

リモコンキーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。
- 認証ラベルをはがさないでください。認証ラベルのないものの使用は禁止されています。

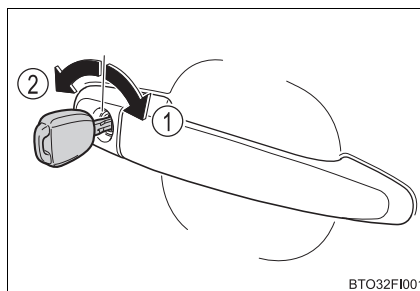
ドア（フロントドア・リアドア）

車外からの施錠・解錠

◆ キー

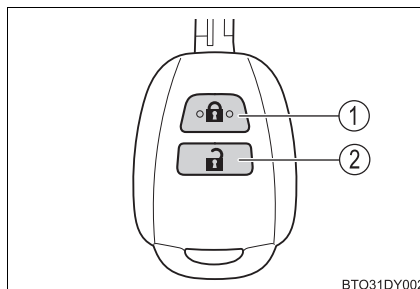
▶ 運転席ドア

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



◆ リモコンキー

- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 作動の合図

リモコンキーでのドアの施錠・解錠を非常点滅灯の点滅で知らせます。
(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ リモコンキーの作動条件

- 周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車から約 1m まで近付いて操作してください。
- エンジンスイッチにキーが挿し込まれている場合は、リモコンキーが作動しません。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

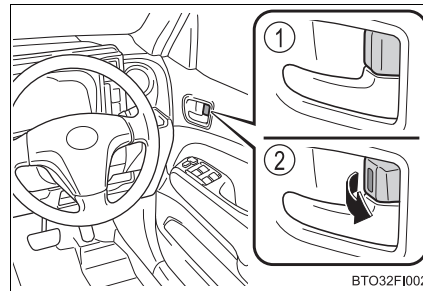
リモコンキーでの解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

車内からの施錠・解錠

◆ ロックレバー

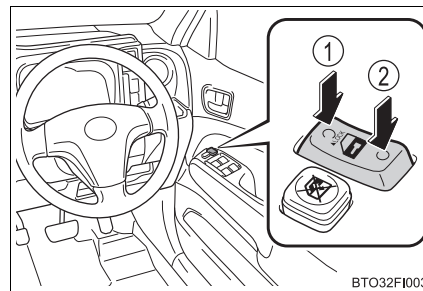
- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。



◆ ドアロックスイッチ

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

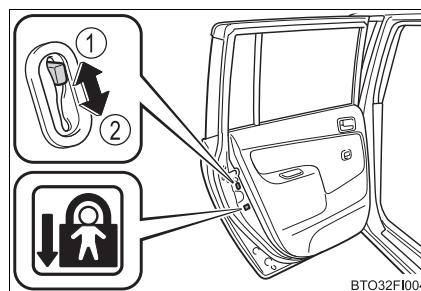
- ① ロックレバーを施錠側にする
 - ② ドアハンドルを引いたままドアを閉める
- キーがエンジンスイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

チャイルドブルーフ

施錠側になると、リア席ドアが車内から開かなくなります。

- ① 解錠
- ② 施錠

お子さまが車内からリア席ドアを開けられないようにできます。両側のリア席ドアを施錠側にしてください。



知識

■ チャイルドブルーフ使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、リアドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ リモコンキーが正常に働かないおそれのある状況

- 次のような場合、リモコン機能が正常に働かないおそれがあります。
 - ・ リモコンキーの電池が消耗しているとき
 - ・ 近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
 - ・ リモコンキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
 - ・ 近くで電波式リモコンキーを使用しているとき
 - ・ リモコンキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき
 - ・ リアウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

 **警告****■ 事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリア席に乗せるときは、チャイルドプーフを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

3

各部の操作

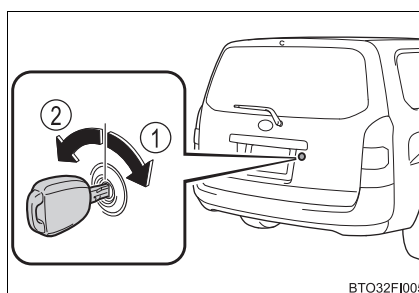
バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠、および開けることができます。

車外からの施錠・解錠

◆ キー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する



◆ リモコンキー

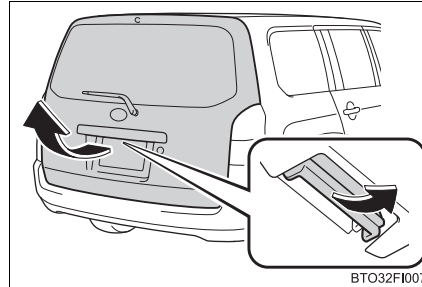
→ P. 66

車内からの施錠・解錠

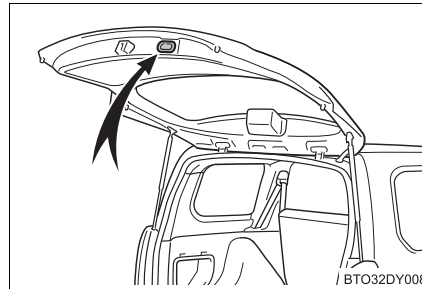
→ P. 67

バックドアを開けるには

バックドアハンドルを引いて、バックドアを持ち上げる

**バックドアを閉めるときは**

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



3

各部の操作

 **警告****■ 走行中の警告**

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていなくて、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

- 次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
 - お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

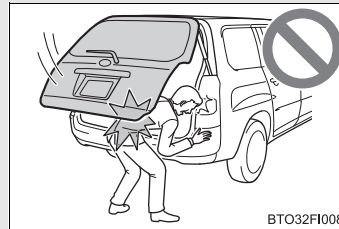
警告**■バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

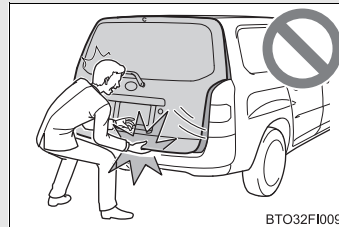
- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確認してください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



BTO32FI008

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。



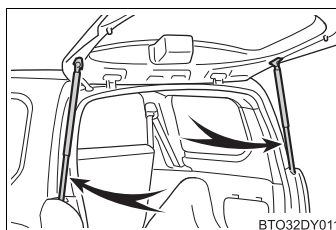
BTO32FI009

- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、マツダ純正品を使用することをおすすめします。

⚠ 注意**■ダンパーステアについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

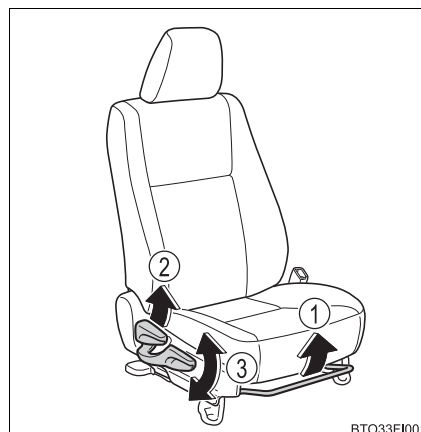
- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにマツダ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



フロントシート

調整のしかた

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ シート全体の上下調整
(運転席のみ)



3

各部の操作

⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後は、シートがきちんと固定されていることを確認してください。

⚠ 注意

■ リアシートの背もたれを前に倒して使用するとき (クッション引き起こし式リアシート装着車)

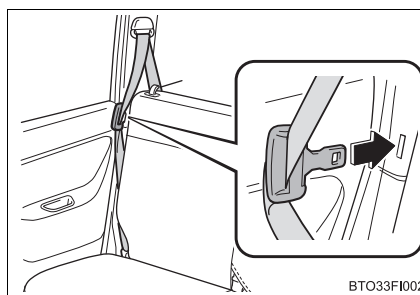
正しい運転姿勢がとれないなどでフロントシートをさらにうしろに下げたい場合は、リアシートのクッションを取りはずしてください。(→ P. 78)

リアシート

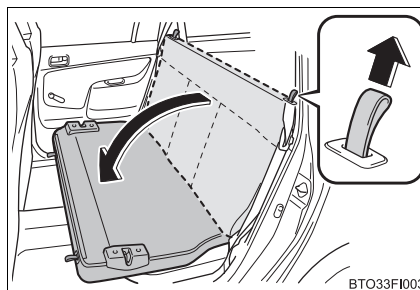
リアシートは、背もたれを前に倒して折りたたむことができます。

背もたれを前に倒す（クッション固定式シート）

- 1 フロントシートを前方に移動させる（→ P. 75）
リアシートの背もたれを倒したときに、あたらないようにします。
- 2 左右席シートベルトのバックルと中央席シートベルトを格納する（→ P. 25）
- 3 左右席シートベルトのプレート
をベルトハンガーに格納する



- 4 シート両端のストラップのいずれか片方を引いてロックをはずし、背もたれを前方に倒す

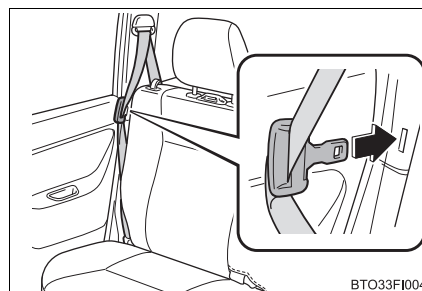


■ 背もたれをもどすときは

左右席シートベルトのプレートがベルトハンガーに格納されていることを確認してから、背もたれを起こしてロックしてください。

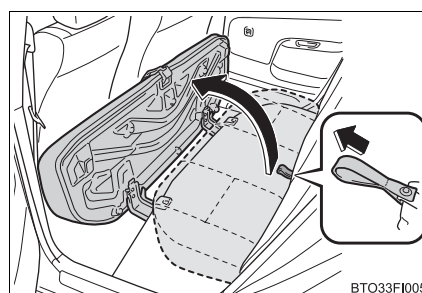
背もたれを前に倒す (クッション引き起こし式シート)

- 1 フロントシートを前方に移動させる (→ P. 75)
リアシートのクッションを引き起こしたときに、あたらないようにします。
- 2 左右席シートベルトのバックルと中央席シートベルトを格納する (→ P. 25)
- 3 左右席シートベルトのプレートをベルトハンガーに格納する

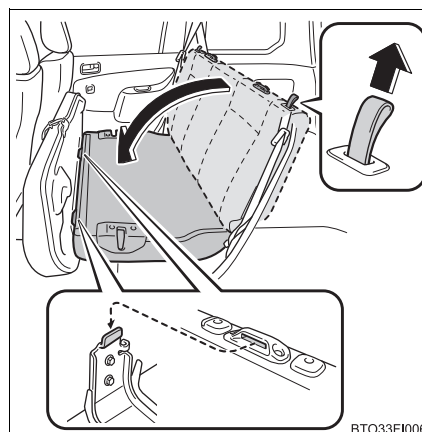


- 4 ヘッドレストをはずす (→ P. 82)
- 5 ストラップを持ったままクッションを引き起こす

クッションに手をかけず、ストラップを引いてクッションを引き起こしてください。



- 6 シート両端のストラップのいずれか片方を引いてロックをはずし、背もたれを前方に倒す
背もたれのホルダーがクッションのフックに固定されていることを確認してください。



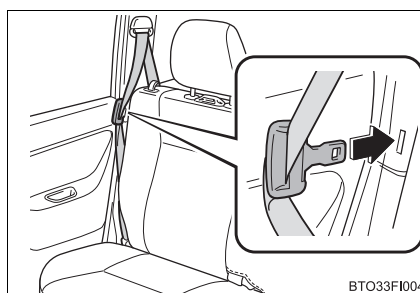
3

各部の操作

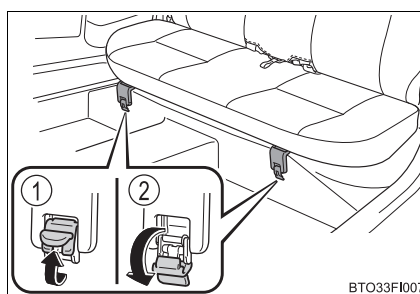
◆ クッションを取りはずすときは

必要に応じてクッションを取りはずすことができます。

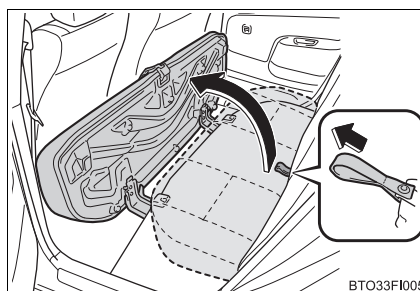
- 1 フロントシートを前方に移動させる (→ P. 75)
リアシートのクッションを引き起こしたときに、あたらないようにします。
- 2 左右席シートベルトのバックルと中央席シートベルトを格納する (→ P. 25)
- 3 左右席シートベルトのプレートをベルトハンガーに格納する



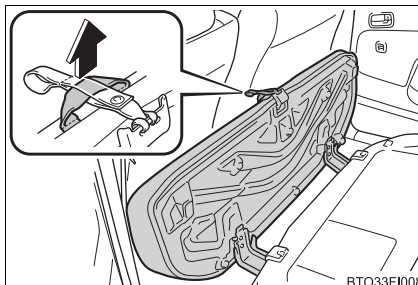
- 4 ヘッドレストをはずす (→ P. 82)
- 5 クッションヒンジ部のロックをはずす
 - ① レバーを引き上げる
 - ② フックをはずす



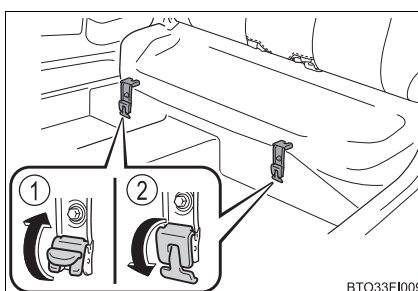
- 6 ストラップを持ったままクッションを引き起こす
クッションに手をかけず、ストラップを引いてクッションを引き起こしてください。



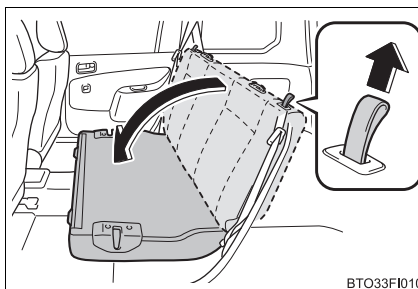
- 7 バンドを持ってクッションを引き上げ、取りはずす
ストラップではなく、バンドを持って引き上げてください。



- 8 クッションヒンジ部をロックする
① フックをかける
② レバーを下げる



- 9 シート両端のストラップのいずれか片方を引いてロックをはずし、背もたれを前方に倒す



■ 背もたれをもどすときは

左右席シートベルトのプレートがベルトハンガーに格納されていることを確認してから、背もたれを起こしてロックしてください。

■ 取りはずしたクッションを取り付けるときは

- 1 ヒンジ部のロックをはずす
- 2 クッションを取り付ける
- 3 ヒンジ部をロックする

警告**■ 背もたれを倒すときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に操作をしない
- 安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- 操作前に、周囲の安全を確認する
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

**■ クッションの引き起こし・取りはずしについて
(クッション引き起こし式シート)**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- クッションの引き起こしは、必ずストラップを持って行う
- クッションを取りはずした状態でリア席に乗車しない
- 取りはずしたクッションの上に座ったり、ものを置かない

■ シートをもとにもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後・上下に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する
- シートベルトを背もたれやクッションに挟み込まないようにする
- クッション引き起こし式シート：ヘッドレストをもとどおりに取り付ける

 **注意****■ 背もたれを倒して荷物を積むときは（クッション引き起こし式シート）**

必ずクッションを引き起こすか取りはずしてください。
クッションを引き起こさず、背もたれを倒すだけで荷物を積むと、シートが破損するおそれがあります。

■ 取りはずしたクッションを保管するときは（クッション引き起こし式シート）

再度取り付けて使用することができるように、なくしたり、破損させたりしないでください。

■ 車検の際は（クッション引き起こし式シート）

クッションを取り付けて検査を受ける必要があります。

3

各部の
操作

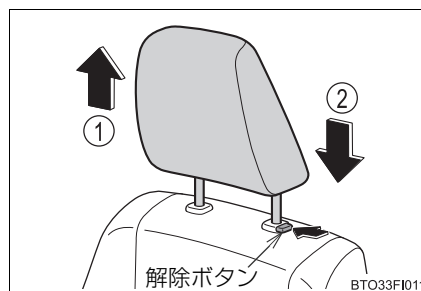
ヘッドレスト★

▶ 分割式ヘッドレスト（フロントシート）

① 上げる

② 下げる

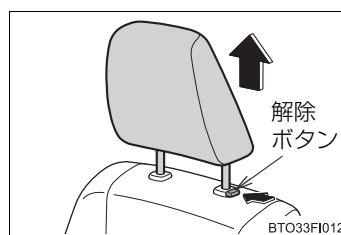
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



■ 知識

■ ヘッドレストを取りはずすとき（分割式ヘッドレスト）

解除ボタンを押しながら取りはずします。

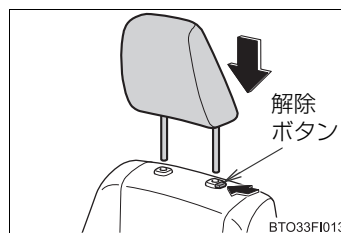


■ ヘッドレストを取り付けるとき（分割式ヘッドレスト）

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、固定される位置まで押し下げます。

フロントシート：

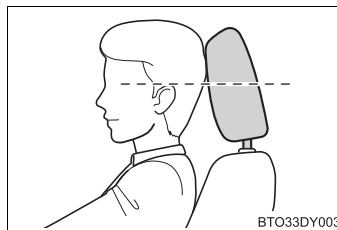
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ヘッドレストの高さについて（フロントシートの分割式ヘッドレスト）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

**⚠ 警告****■ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

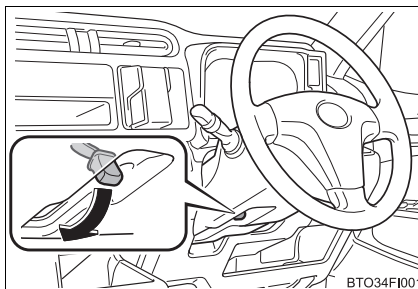
3

各部の
操作

ハンドル

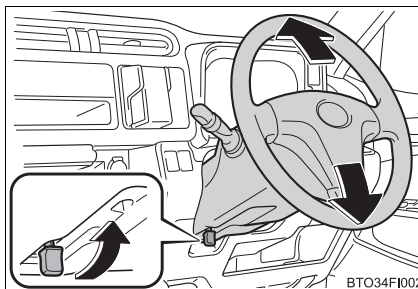
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



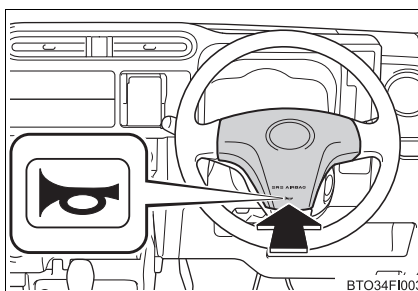
- 2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



 知識

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ホーンが鳴らない場合があります。

 警告

■ 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

3

各部の
操作

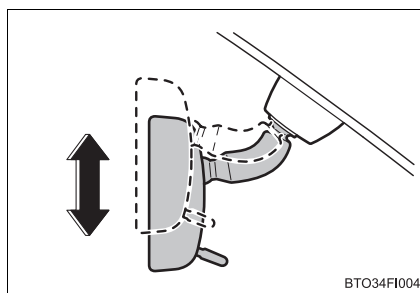
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

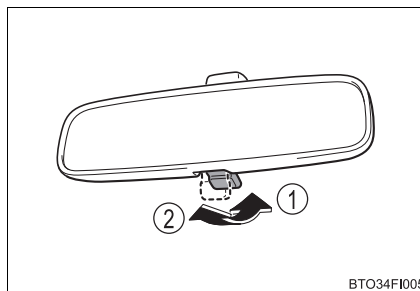
インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

- ① 通常使用時
- ② 防眩時



警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

3

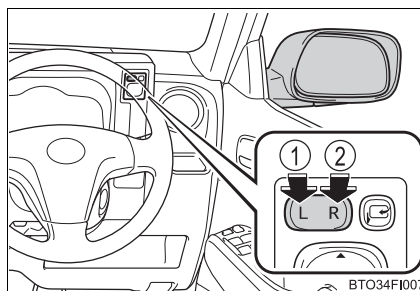
各部の操作

ドアミラー

調整のしかた

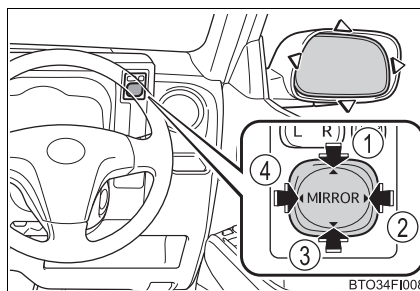
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

- ① 左
- ② 右



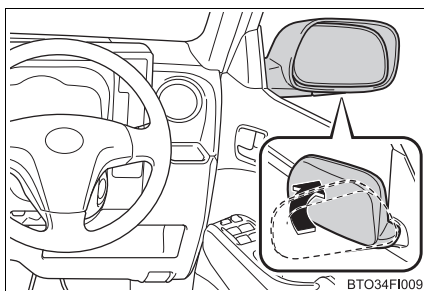
- 2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを押す

- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



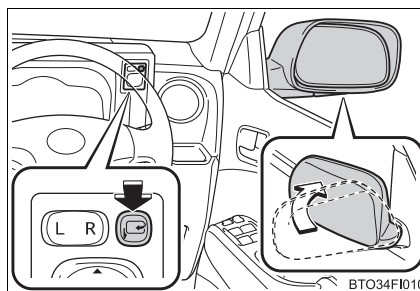
ドアミラーを格納する

▶ 手動タイプ



手で後方に押し格納する

▶ 電動タイプ



ボタンを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

 知識

■ 作動条件（手動タイプの格納を除く）

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ ミラーが曇ったとき（ヒートッドアミラー装着車）

リアウインドウデフォグガーを作動させると、ヒートッドアミラーが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P. 188）

 警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき（手動タイプの格納を除く）

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ヒートッドアミラーが作動しているとき（ヒートッドアミラー装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

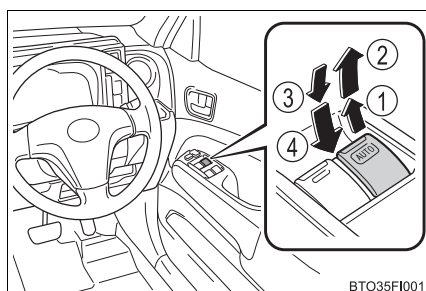
パワーウィンドウ

開閉のしかた

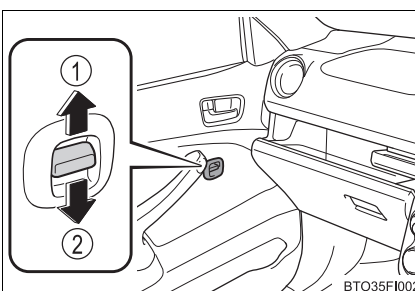
スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

▶ 運転席



▶ 運転席を除く★



- ① 閉める
- ② 自動全閉
(運転席ドアガラスのみ) ※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開
(運転席ドアガラスのみ) ※

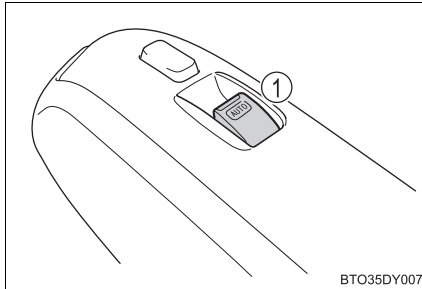
- ① 閉める
- ② 開ける

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

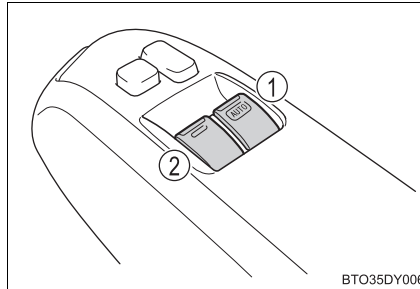
■ 運転席スイッチ

▶ 運転席パワーウィンドウ装着車



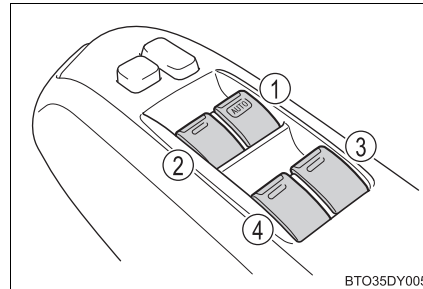
① 運転席ドアガラススイッチ

▶ 前席パワーウィンドウ装着車

① 運転席ドアガラススイッチ
② 助手席ドアガラススイッチ

▶ 前席+後席パワーウィンドウ装着車

- ① 運転席ドアガラススイッチ
- ② 助手席ドアガラススイッチ
- ③ 後席右側ドアガラススイッチ
- ④ 後席左側ドアガラススイッチ

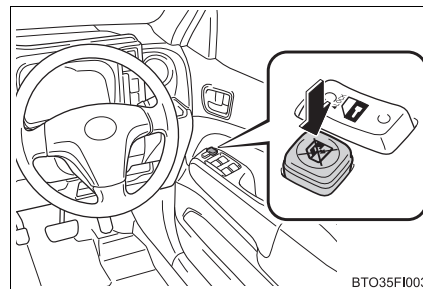


BTO35DY005

パワーウィンドウロックスイッチ★

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



BTO35F1003

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■ 挟み込み防止機能（運転席ドアガラス）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

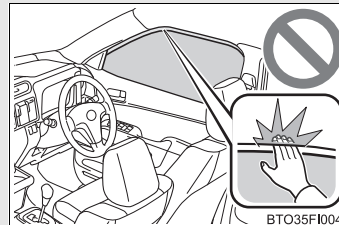
 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するときは

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはパワーウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 91）

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- 車から離れるときはエンジンスイッチを“LOCK”にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（運転席ドアガラス）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転

4

4-1. 運転にあたって		4-4. 給油のしかた	
運転にあたって	94	給油口の開け方	122
荷物を積むときの注意	104	4-5. 衝突回避支援パッケージ	
4-2. 運転のしかた		衝突回避支援パッケージ	126
エンジン（イグニッション）		ブリクラッシュ	
スイッチ	105	セーフティシステム	
オートマチックトランス		（レーザーレーダー＋	
ミッション（CVT）	108	単眼カメラ方式）	131
方向指示レバー	111	レーンディパーチャーアラート	
パーキングブレーキ	112	（車線逸脱警報）	146
4-3. ランプのつけ方・		オートマチックハイビーム ...	151
ワイパーの使い方		先行車発進告知機能	155
ランプスイッチ	113	4-6. 運転支援装置について	
リアフォグランプスイッチ ...	116	アイドリングストップ機能 ...	157
ワイパー&ウォッシャー		運転を補助する装置	165
（フロント）	118	4-7. 運転のアドバイス	
ワイパー&ウォッシャー		寒冷時の運転	173
（リア）	120		

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 105

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする (→ P. 108)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 112)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。(→ P. 108)

駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 112)、シフトレバーを P にする (→ P. 108)
- 3 エンジンスイッチを “LOCK” にしてエンジンを停止する
- 4 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め[※]を使用してください。
[※] 輪止めは、マツダ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し、発進する

 知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→ P. 165)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■ 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

- 次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。
 - ・ アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。この場合、警告灯が点灯します。(→ P. 263)
 - ・ 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。
- ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止(→ P. 167)することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■ 運転者標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■ オーバーヒートについて

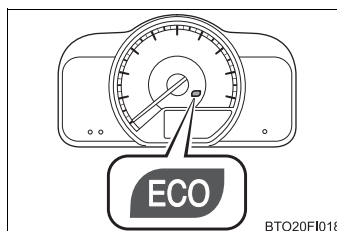
次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

■ 環境に配慮した運転

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケータランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

- 次の場合、エコドライブインジケータランプは作動しません。
 - ・ シフトポジションがD以外のとき
 - ・ 車速が約100km/h以上のとき
- エコドライブインジケータランプの作動／非作動を設定できます。(→ P. 58)



⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるように注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 252を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 108)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
また、4WD車はオンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした4WDですので、無理な運転はしないでください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効が悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ブレーキの効が悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くマツダ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあり危険です。

■ 停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。

シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 停車中に空ぶかしをしないでください。

排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを開閉式ワイドフリーラックなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止し、施錠してください。エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また、制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまう。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があります。制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したとき (4WD 車)

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 265 を参照してください。

 **注意****■ 冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずマツダ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスアクスル・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト（4WD 車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席・リア席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インstrumentパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- リアシートの背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけフロントシートの背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積みすぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これらはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

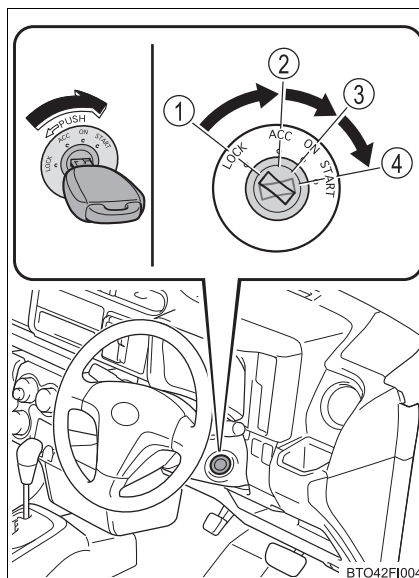
エンジン（イグニッション）スイッチ

エンジンのかけ方

- ① パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- ② シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- ③ ブレーキペダルをしっかりと踏む
- ④ エンジンスイッチを“START”の位置にまわす

エンジンスイッチの位置の切りかえ

- ① “LOCK”（OFF）
 - ・ シフトレバーの位置がPのとき、キーを抜き挿しすることができます。
 - ・ キーを抜いたとき、ステアリングロックがかかります。
- ② “ACC”
 - 12V電源ソケットなどの電装品が使用できます。
- ③ “ON”
 - すべての電装品が使用できます。
- ④ “START”
 - エンジンが始動できます。



4

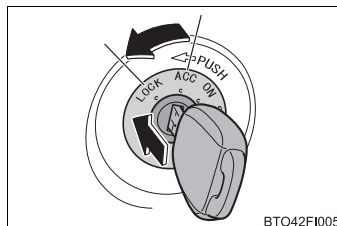
運転

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

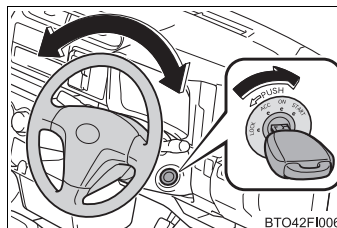
■ キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

- 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 2 キーを押し込みながら“LOCK”までまわす



■ ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。



■ キー抜き忘れ警告ブザー


キーが挿してあり、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

 **警告****■ エンジンを始動するときは**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。
緊急時、走行中にエンジンを停止したい場合には“ACC”にしてください。
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
(→ P. 252)

 **注意****■ バッテリーあがりを防止するために**

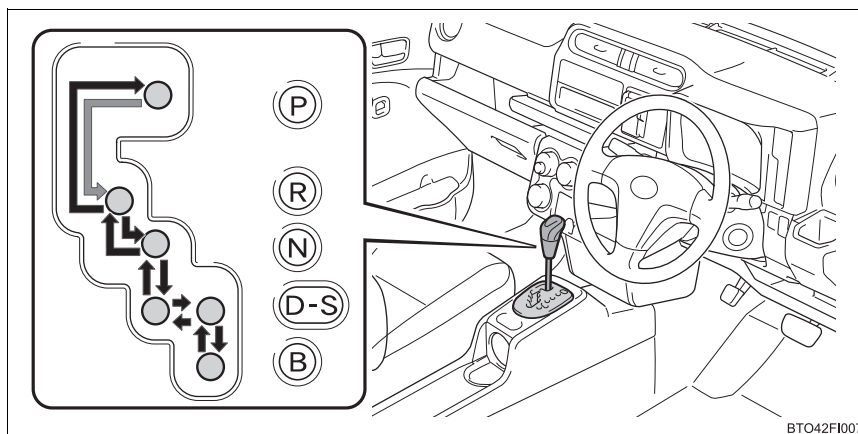
エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにマツダ販売店でエンジンの点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション (CVT)

シフトレバーの動かし方



← エンジンスイッチが“ON”の状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行*
S	坂道走行
B	急な下り坂走行

* 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

 知識

■ リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■ 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。

- アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（RからD、DからR、NからR、PからD、PからR）とき。この場合、警告灯が点灯します。（→P. 263）
- 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。エンジンスイッチが“ON”でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをPからシフトできません。

■シフトレバーをPからシフトできないとき

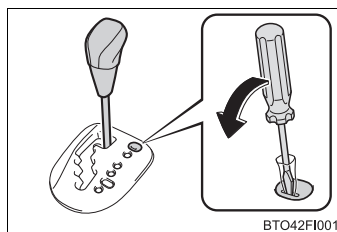
ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

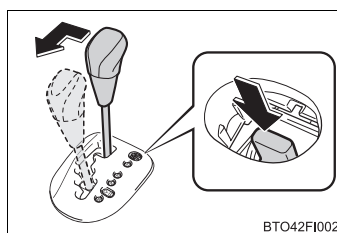
- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 エンジンスイッチを“LOCK”にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



⚠ 警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

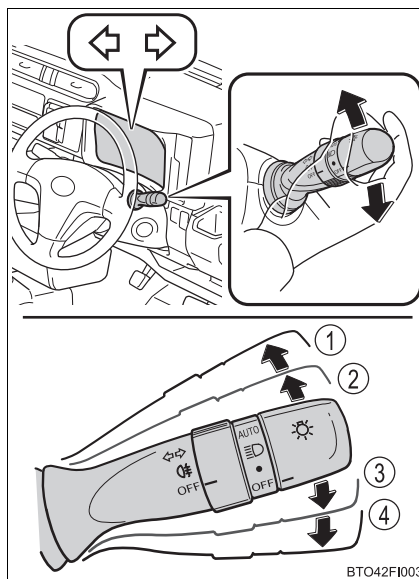
シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON” のとき

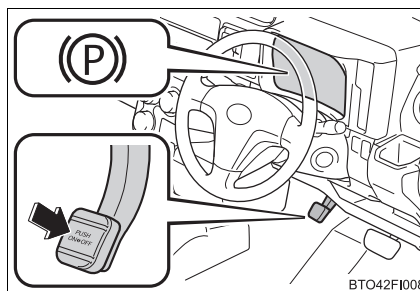
■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



知識

■ 駐車するとき

→ P. 94

■ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

警告ブザーが鳴ったときは、パーキングブレーキを解除してください。

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 174

注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。

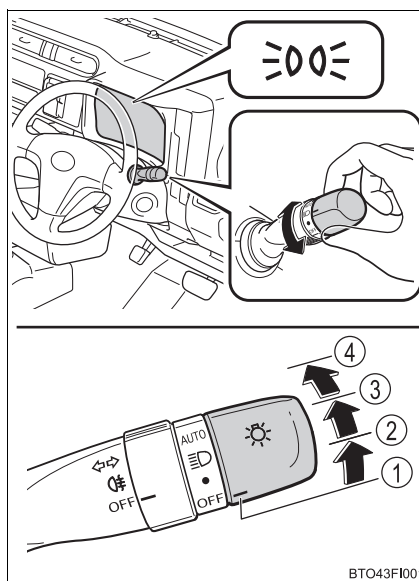
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手でヘッドランプなどを点灯できます。

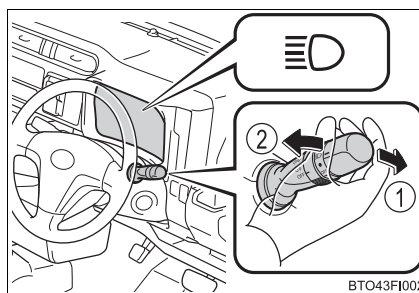
操作のしかた

- ① OFF 消灯
- ② ● 車幅灯・尾灯・番号灯を点灯
- ③ ≡D 上記ランプとヘッドランプを点灯
- ④ AUTO ヘッドランプ・車幅灯などを自動点灯・消灯
(エンジンスイッチが“ON”のとき)



ハイビームにする

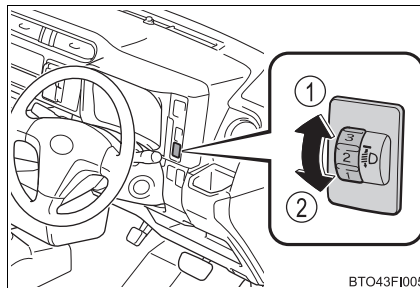
- ① ヘッドランプ点灯時、ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

- ① 上向きに調整
- ② 下向きに調整



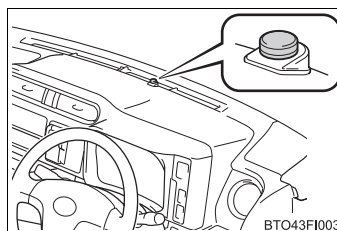
■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置	
乗員	荷物	FF車	4WD車
運転者	なし	0	
運転者	ラゲージルーム満載時	4	4.5

 知識

■ ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。


■ ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にして運転席ドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを“ON”にするか、一度ランプスイッチをOFFにもどし、再度 ● または  の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

エンジンスイッチにキーが挿さっていない状態でヘッドランプ・尾灯が点灯している場合、運転席ドアを開けるとランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ 節電機能


車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが“LOCK”の状態でもヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約20分後にすべてのランプが自動消灯します。

次のいずれかを行った場合、節電機能は解除されます。

- エンジンスイッチを“ON”にしたとき
- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■ カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 295)

 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。


リアフォグランプスイッチ★

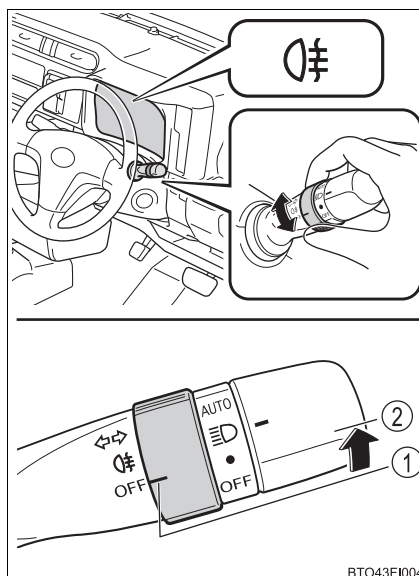
雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。

操作のしかた

① OFF 消灯する

②  点灯する

ヘッドランプ・車幅灯などのランプスイッチが OFF または ● のときは、リアフォグランプスイッチを OFF から  にまわすことはできません。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■点灯条件

- ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。
- リアフォグランプが点灯しているときにヘッドランプを消灯させても、車幅灯が点灯していれば、リアフォグランプは消灯しません。
- リアフォグランプが点灯しているときに、ヘッドランプ・車幅灯などのランプスイッチを OFF にして車幅灯を消灯させると、リアフォグランプも消灯します。(リアフォグランプスイッチが自動で OFF の位置にもどります)

■リアフォグランプについて

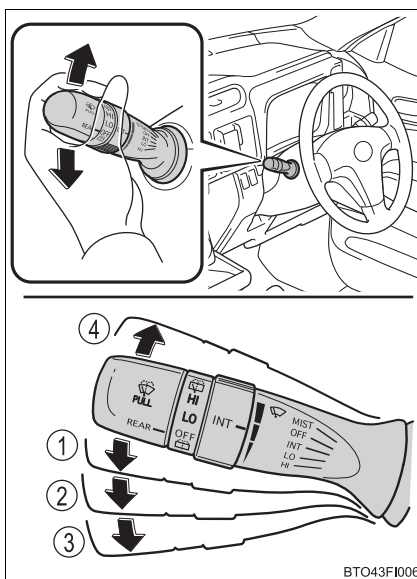
- リアフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー&ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

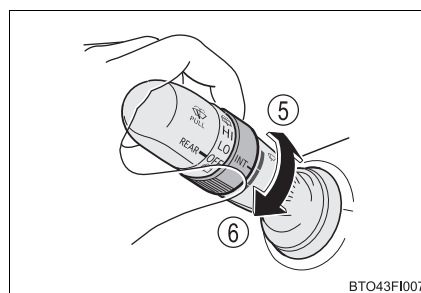
次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

- ① 間欠作動（INT）
- ② 低速作動（LO）
- ③ 高速作動（HI）
- ④ 一時作動（MIST）

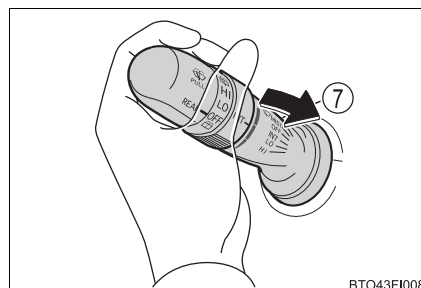


間欠作動（INT）を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。（間欠時間調整式ワイパー装着車）

- ⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（減）
- ⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）



- ⑦ ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON” のとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

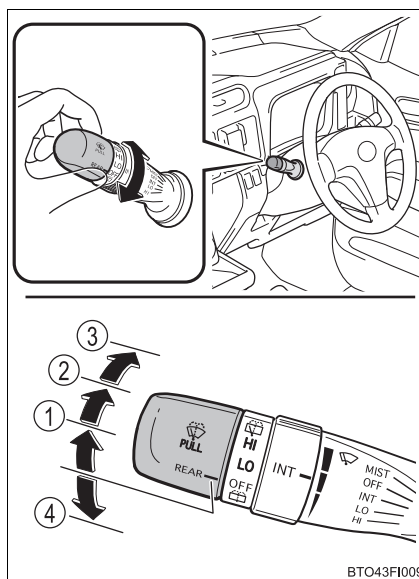
ノズルがつまったときはマツダ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー (リア) ★

操作のしかた

次のようにレバーの端をまわして、ワイパーの作動を選択します。

- ① 間欠作動 (LO)
- ② 通常作動 (HI)
- ③ ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。
- ④ ウォッシャー液を出す



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON” のとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 注意

■ リアウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはマツダ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- すべてのドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを“LOCK”にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

- 無鉛レギュラーガソリン
- バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■ バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

 **警告****■ 給油するときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはつまみ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意**■ 給油するとき**

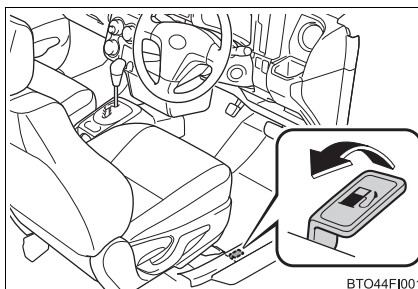
指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

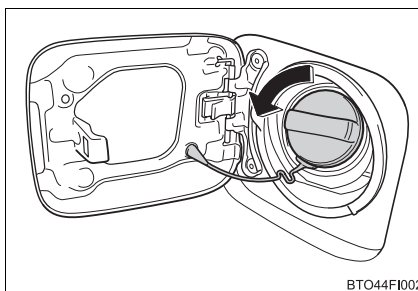
※ エタノール混合率 10%をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

給油口の開け方

- 1 オープナーを引き上げて、給油扉を開ける



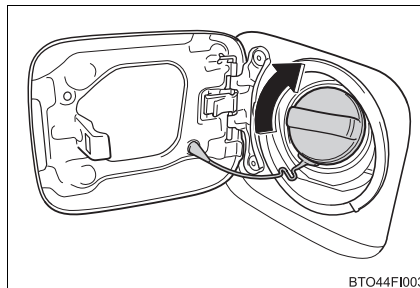
- 2 キャップをゆっくりまわして開ける



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

**警告****■キャップが正常に閉まらないとき**

必ずマツダ販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

衝突回避支援パッケージ

衝突回避支援パッケージは、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ ブリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）

→ P. 131

◆ レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）

→ P. 146

◆ オートマチックハイビーム

→ P. 151

◆ その他の運転支援機能

先行車発進告知機能

→ P. 155

警告

■ 衝突回避支援パッケージについて

衝突回避支援パッケージは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。本システムの認識性能・制御性能には限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）の各機能の作動状況
- ・ 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報

上記に加え、プリクラッシュブレーキが作動した場合、前方センサーの画像情報も記録します。なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

マツダはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、マツダは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

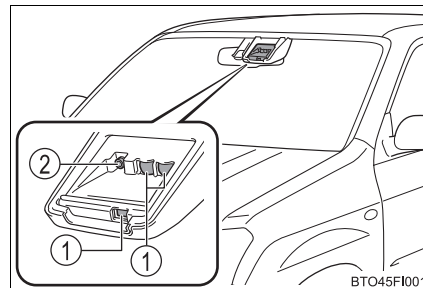
- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ マツダが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

- 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントウインドウガラス上部にある2種類のセンサーにより、各運転支援装置の作動に必要な情報を認識します。

- ① レーザーレーダー
- ② 単眼カメラ



警告

■前方センサーについて

前方センサーは、前方車両の検出にレーザー光を使用しており、IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 1M に相当します。通常の使用においてレーザー光が目には障害をおよぼす危険はありませんが、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な視覚障害におよぶか、最悪の場合失明につながるおそれがあります。

- 有害なレーザー照射を避けるため、前方センサーは絶対に分解や取りはずしをしないでください。また、分解した前方センサーは IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 3B に相当し、目に有害です。
- 光学機器（拡大鏡・顕微鏡・虫眼鏡など）を使用して、100mm 以内の距離からセンサーをのぞき込まないでください。

レーザー等級ラベル

**INVISIBLE LASER RADIATION
DO NOT VIEW DIRECTLY WITH
OPTICAL INSTRUMENTS (MAGNIFIERS)
CLASS 1M LASER PRODUCT**

レーザー説明ラベル

**Max average power: 45 mW
Pulse duration: 33 ns
Wavelength: 905 nm**

IEC 60825-1:2007
Complies with FDA performance standards for laser products
except for deviations pursuant to Laser Notice No. 50, dated
July 26th, 2001

レーザー放射仕様

最大出力（平均）：45 mW
パルス持続時間：33 ns
波長：905 nm
発散角（水平 × 垂直）：28° × 12°

警告

■前方センサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

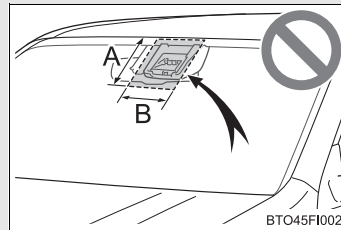
お守りいただかないと、前方センサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
フロントウインドウガラス内側の前方センサー取り付け部が汚れた場合は、マツダ販売店にご相談ください。

- フロントウインドウガラス外側の前方センサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A：フロントウインドウガラス上端から前方センサー下端より下約 10cm まで

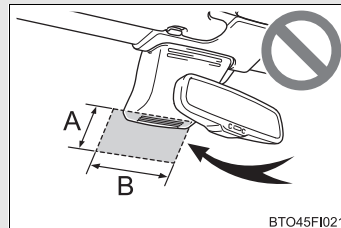
B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



- フロントウインドウガラス内側の前方センサー下部（図に示す範囲内）に何も取り付けたり、貼り付けたりしない

A：前方センサー下端から下約 10cm まで

B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



- 冬季のように、車室内と外気の温度差が大きいときなどは、フロントウインドウガラスが曇りやすくなります。フロントウインドウガラスの前方センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりすると、システムが一時的に作動しなくなることがあり、プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）警告灯が点滅します。その場合は、エアコンの除湿機能で曇りなどを取り除いてください。（→ P. 188）

- 前方センサー前部に水滴が付着したときはワイパーでふき取る
水滴のふき取りが不十分な場合、性能が低下することがあります。

警告

- フロントウインドウガラスの前方センサー前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
ワイパーブレードの交換が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。
- 前方センサーの前にアンテナを取り付けない
- 前方センサーに液体をかけない
- 前方センサーに強い光を照射しない
- 前方センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、マツダ販売店にご相談ください。
- 前方センサーに強い衝撃を加えない
- 前方センサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方センサーを分解しない
- 前方センサー付近に電子機器や、強い電波を発信する機器を取り付けない
- インナーミラー・サンバイザーなどの前方センサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方センサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはマツダ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方センサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない
- ダッシュボードには何も取り付けたり、置いたりしない

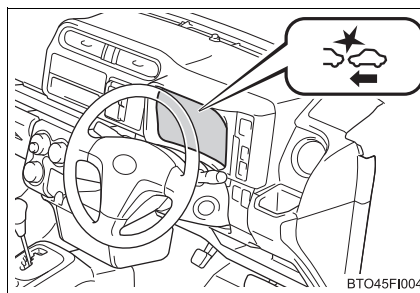
プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）

進路上の車両を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いと判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）のON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 135）

◆ 衝突警報

先行車と衝突の可能性が高いと判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）作動表示灯が点滅し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

先行車と衝突の可能性が高いと判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

先行車と衝突の可能性が高いと判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度の低減に寄与します。

 **警告****■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）を日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）は衝突の回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P. 138
 - ・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P. 142
- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）の作動テストを行わないでください。状況によってシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告**■ ブリクラッシュブレーキについて**

- ブリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、ブリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- ブリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、ブリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブリクラッシュブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。ブリクラッシュブレーキは車両が停止してから約 2 秒後に解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、ブリクラッシュブレーキの作動開始タイミングを遅らせる場合があります。
- 走行中、システムは踏切の遮断機などの前方障害物を衝突対象物と認識し、ブリクラッシュブレーキを作動させることがあります。万一踏切内に閉じ込められた場合などは、次の操作で車両を前進させ、状況に応じて安全を確保してください。
 - ・ 車両停止後に再度アクセルペダルを踏む
 - ・ 減速中にアクセルペダルを深く踏み込む (→ P. 137)
 - ・ ブリクラッシュセーフティシステム (レーザーレーダー+ 単眼カメラ方式) を OFF にする (→ P. 135)

警告**■プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）をOFFにするとき**

次のときは、システムをOFFにしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引してもらうとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの性能を発揮できないとき（→P. 223, 228）
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを取り付けているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

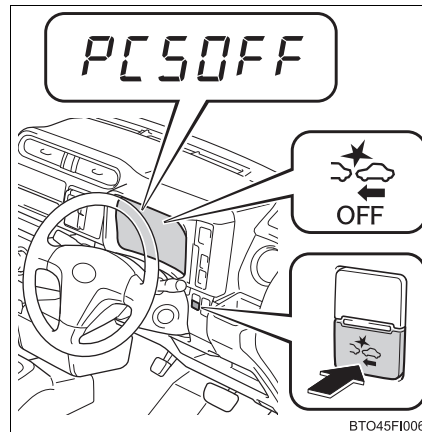
プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）の設定変更**■ プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）の ON/OFF を変更する**

システムを OFF にするには、プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）スイッチを約 3 秒以上押す

システムを OFF にすると、プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムを ON にするには、もう一度プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）スイッチを押します。

エンジンを始動するたび、プリクラッシュセーフティシステムは ON になります。

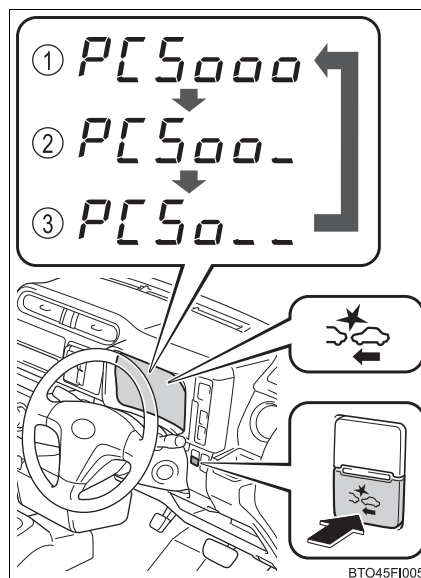


■ プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）の警報タイミングを変更する

プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）スイッチを押すとプリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに現在の警報タイミングが表示されます。表示された状態でプリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）スイッチを押すごとに、次のように警報タイミングが切りかわります。

いったん警報タイミングを変更すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

- ① 遠い
「中間」より警報タイミングが早くなる
- ② 中間
初期設定
- ③ 近い
「中間」より警報タイミングが遅くなる



 知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）が ON で、先行車と衝突の可能性が高いと判断したときに作動します。

各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

- ・ 自車速度約 15 ～ 140km/h
- ・ 自車から見た先行車との相対速度約 15km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシスト

- ・ 自車速度約 30 ～ 80km/h
- ・ 自車から見た先行車との相対速度約 30km/h 以上

● プリクラッシュブレーキ

- ・ 自車速度約 10 ～ 80km/h
- ・ 自車から見た先行車との相対速度約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

- バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーが R のとき
- ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■ プリクラッシュブレーキの作動解除

- プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む[※]
- ・ ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

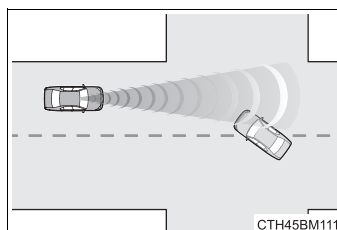
[※] 車速が約 15km/h 以下でアクセルペダルを強く踏み込んだ場合、誤発進操作とシステムが判断してプリクラッシュブレーキの作動が解除されないことがあります。

- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、車両が停止してから約 2 秒後にプリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

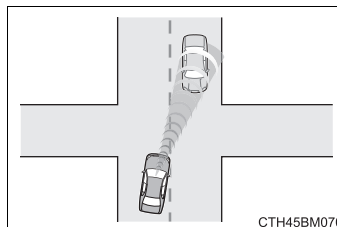
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性があると判断し、作動するおそれがあります。

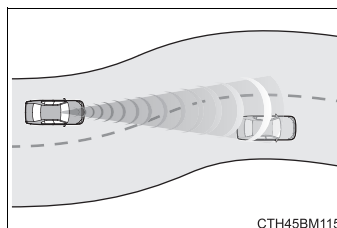
- ・ 右左折待ちの対向車とすれ違うとき



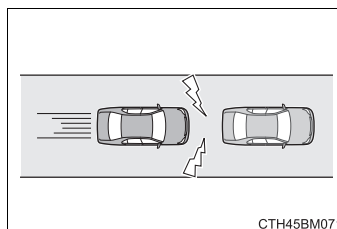
- ・ 右左折時に対向車とすれ違ったとき



- ・ 隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道（曲がりくねった道など）を走行するとき

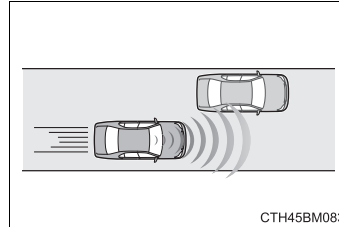


- ・ 先行車に急速に接近したとき

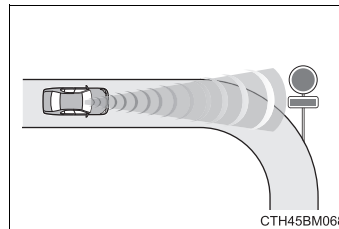


- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき

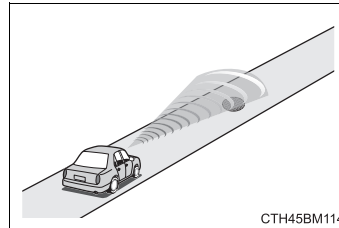
- ・ 車両や構造物のすぐそばを通過するとき



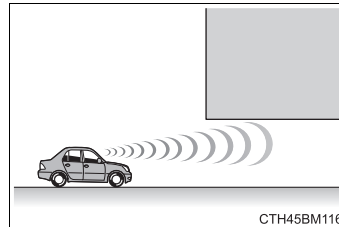
- ・ カーブの入り口の道路脇に車両・構造物が存在するとき



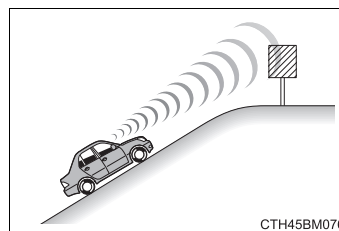
- ・ 道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋など）を走行するとき
- ・ 路上または道路脇に反射物（マンホール・鉄板など）・段差・くぼみ・突起物があるとき



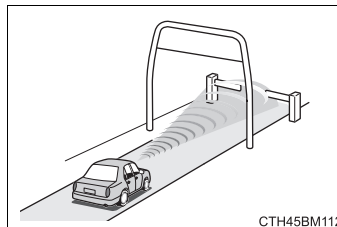
- ・ 道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識など）がある場所を走行するとき



- ・ 上り坂で進行方向の道路上方に構造物（立体交差・道路標識・看板・街灯など）があるとき

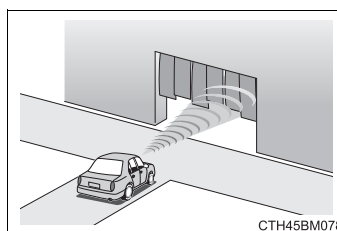


- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき



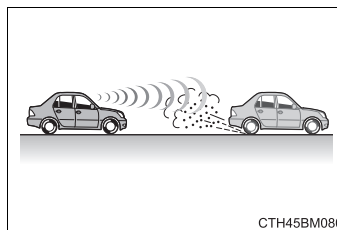
CTH45BM112

- ・ 洗車機を使用するとき
- ・ 車両に覆い被さるような障害物（垂れ幕・垂れ下がった枝・生い茂った草など）がある場所を走行するとき



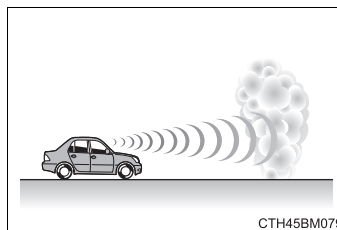
CTH45BM078

- ・ 前方車両から水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき



CTH45BM080

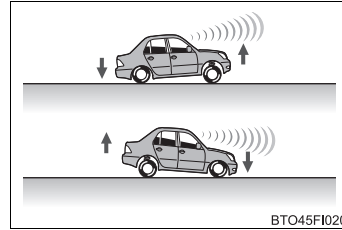
- ・ 車両前方に水蒸気や煙などがあるとき



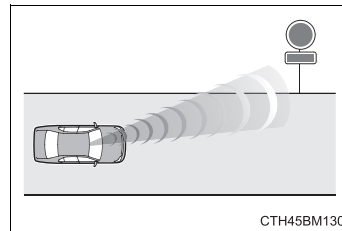
CTH45BM079

- ・ 路面または壁面に車両との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき

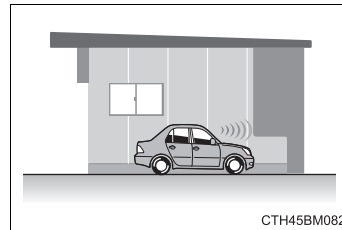
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



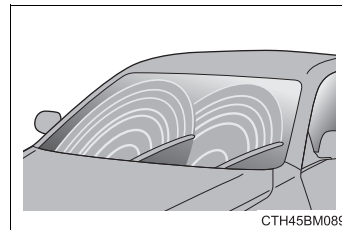
- ・ センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき



- ・ 前方センサーの高さに突き出た障害物がある場所に駐停車するとき



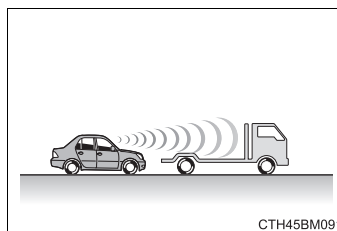
- ・ フロントウインドウガラスが雨滴などで覆われているとき



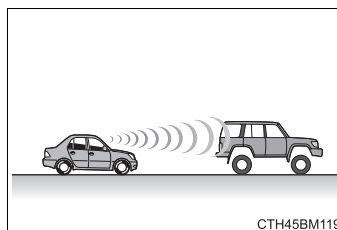
■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

● 例えば次のような状況では、前方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

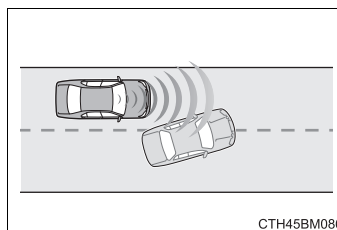
- ・ 前方から自車に向かって車両が近付いてくるとき
- ・ 前方車両が横向き、自車向きするとき
- ・ 先行車の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき

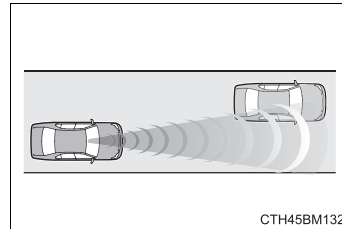


- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・ 前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
- ・ 車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき

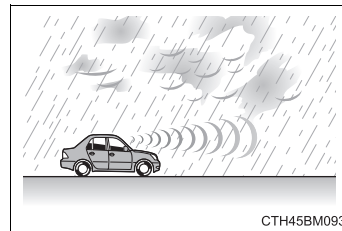


- ・ 前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき

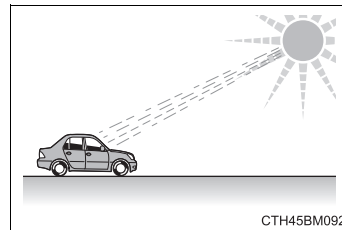
- ・ 前方車両と自車の中心がずれているとき



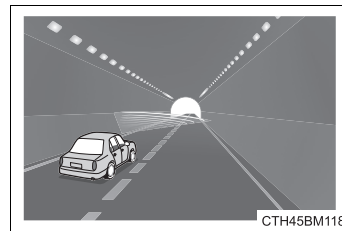
- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき



- ・ 前方車両から水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 水蒸気や煙などで前方車両が見えないとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・ 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方センサーに直接あたっているとき

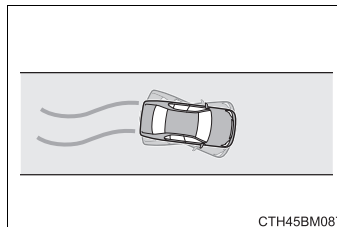


- ・ 薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内

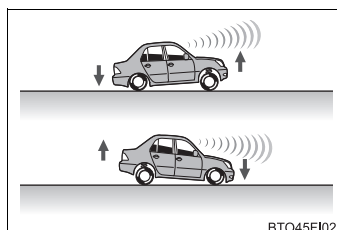


- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからしばらくの間

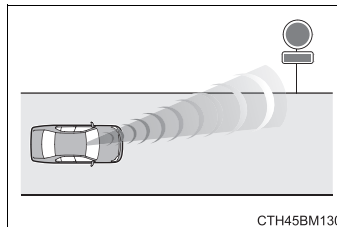
- ・ 自車が横すべりしているとき



- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
- ・ ワイパーブレードが前方センサーの視界をさえぎっているとき
- ・ ふらつき運転をしているとき
- ・ 過度な高速走行をしているとき
- ・ きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
- ・ 先行車がレーザー波を反射しにくい状態のとき
- ・ センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき



● 例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

- ・ ブレーキ性能が十分に発揮できない場合(ブレーキ部品が極度に冷えている・加熱している・ぬれているなど)
- ・ 車両の整備状態(ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など)が良好でないとき
- ・ 砂利道や滑りやすい路面を走行しているとき

■プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー + 単眼カメラ方式）警告灯が点滅したとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

- 次のときは、状況が改善されるとプリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー + 単眼カメラ方式）警告灯が消灯し、作動可能状態になります。

- ・ 炎天下に駐車したあとなど、前方センサー周辺の温度が高いとき
- ・ フロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき（→ P. 188）
- ・ 極寒の環境などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が低いとき
- ・ ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方センサー付近にシールが貼り付けられているときなど、前方センサーの前方がさえぎられているとき

- プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー + 単眼カメラ方式）警告灯が点滅したままのときは、システムに異常があるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

■ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) を停止したとき

- TRC とダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) の作動を停止（→ P. 168）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。ただし、衝突警報は作動します。

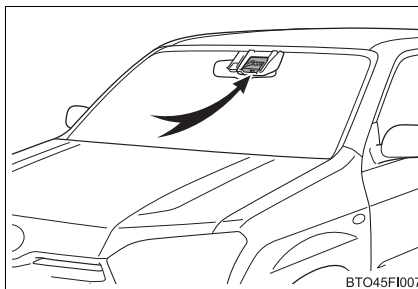
- プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー + 単眼カメラ方式）警告灯が点灯します。

レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）

機能概要

白（黄）線の整備された道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告します。

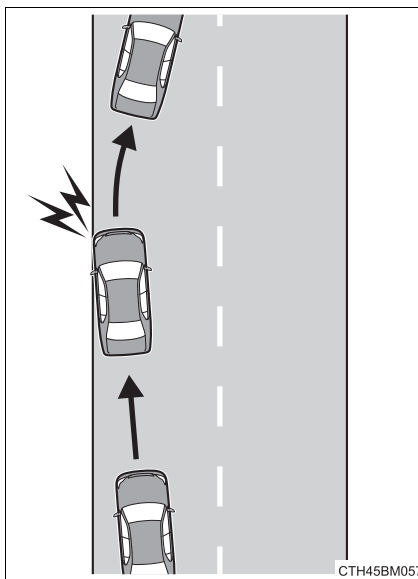
レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）は、フロントウィンドウガラス上部の前方センサーで、白（黄）線を認識します。



車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、周りの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。



警告**■ レンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）をお使いになる前に**

レンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）を過信しないでください。レンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 誤作動を防ぐために

レンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）を使用しないときは、レンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ レンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。

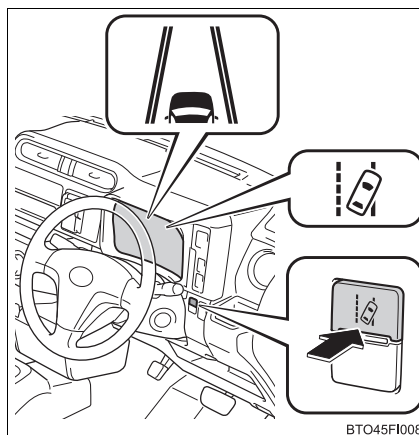
設定のしかた

レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）を使用するにはレーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）スイッチを押す

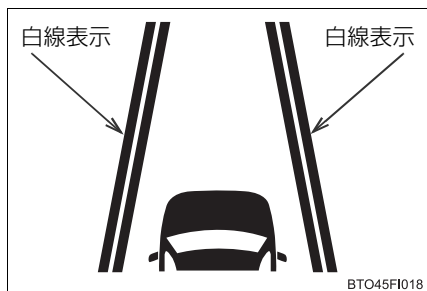
メーター内のレーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）表示灯が緑色で点灯します。

OFF には再度レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）スイッチを押します。

いったんレーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）を ON/OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

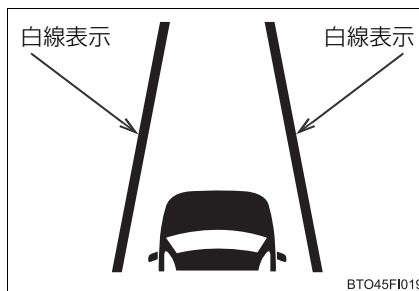


マルチインフォメーションディスプレイ表示



白線表示が 2 本線のと看：

システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が点滅します。



白線表示が 1 本線のと看：

システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

 知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）を ON にしているとき
- 車速が約 50km/h 以上のとき
- システムが白（黄）線を認識しているとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき
- システムの異常が検知されていないとき（→ P. 263）

■ 機能の一時解除

作動条件（→ P. 149）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、再び作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ 車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオ★の音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

■ 白（黄）線が片側にしかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■ 炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだレーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）は作動せず、プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）警告灯が点滅することがあります（→ P. 145）。室内温度が低下し、前方センサー周辺（→ P. 127）の温度が適温になると作動するので、いったんレーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、前方センサーが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が正しく作動しないおそれがあります。

- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路びょう）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき
- 分岐・合流路などを走行しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 急カーブを走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

■レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）表示灯が黄色で点灯したとき
システムに異常があるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

■レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）の警報感度を切りかえるには
→ P. 58

オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方センサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告


■安全にお使いいただくために

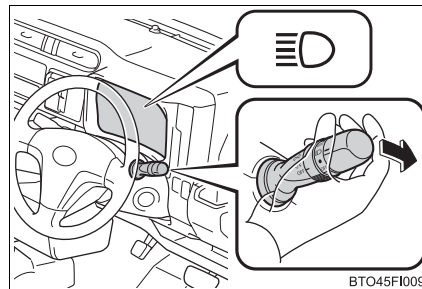
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

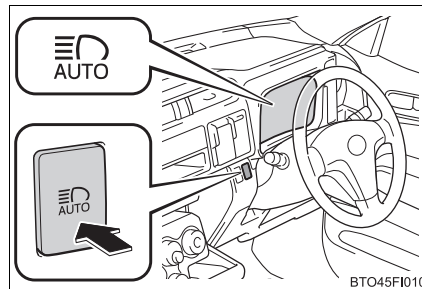
オートマチックハイビームの使い方

- 1 ランプスイッチを AUTO または  にし、レバーを前方へ押す



- 2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



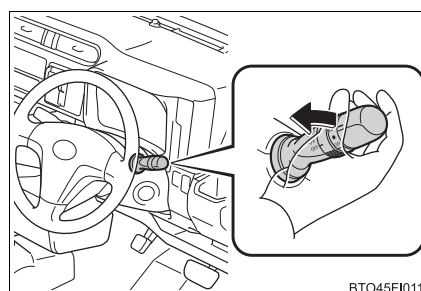
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度レバーを前方に押します。

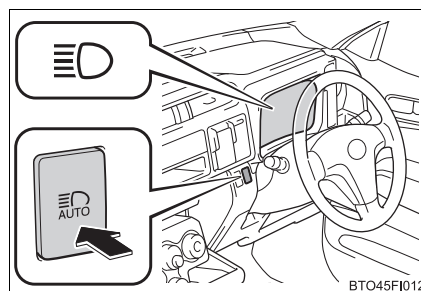


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームス
イッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯し、ハイビーム表示灯が点灯し
ます。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度スイッチを押します。



 知識

■ ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 25km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■ 前方センサーの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号機・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量

- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・ 前方センサーが変形しているときや、汚れているとき
 - ・ 前方センサーの温度が非常に高いとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があるとき、または光軸がずれているとき
 - ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
 - ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
 - ・ カーブが多い道路を走行しているとき
 - ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
 - ・ コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
 - ・ 自車のヘッドランプが破損しているときや、汚れているとき
 - ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
 - ・ ハイビームとロービームをひんばんに切りかえているとき
 - ・ ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■ オートマチックハイビーム表示灯が黄色で点灯したとき

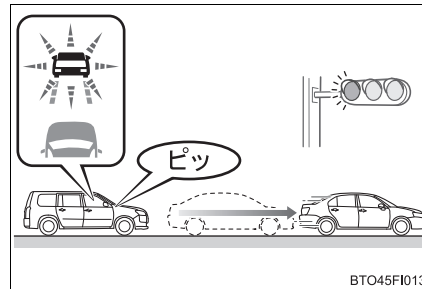
システムに異常があるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停車し続けた場合、警告ブザーと表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停車しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停車し続けた場合にお知らせします。



 知識

■ 作動条件

シフトレバーがP・R以外でブレーキペダルを踏んで停止している、またはシフトレバーがNで停止しているとき

■ 先行車が発進していても先行車発進告知機能が作動しないおそれのある状況

例えば次のような状況では、前方センサーが対象を検出できず、先行車発進告知機能が正常に作動しないおそれがあります。

- 自車と先行車の停車位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状(けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など)やボデーカラーにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車が二輪車のとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 先行車を認識できないような悪天候時(霧・雪・砂嵐・激しい雨など)
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- プリクラッシュセーフティシステム(レーザーレーダー+単眼カメラ方式)が一時的に使用できないときや、故障などによりプリクラッシュセーフティシステム(レーザーレーダー+単眼カメラ方式)警告灯が点滅しているとき
- ハンドルを大きくきいているとき

■ 先行車が発進していなくても先行車発進告知機能が作動するおそれがあるとき

例えば次のような状況では、先行車発進告知機能が、先行車が発進したと判断し作動するおそれがあります。

- 悪天候(霧・雪・砂嵐・激しい雨など)により、先行車の発進を誤認識したとき
- 坂道やカーブなどにより、間違った対象を先行車と認識しているとき
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、間違った対象を先行車と認識しているとき
- 交差点を先頭で停車時、交差点の先の車両や正面を横切る車両などを先行車と認識したとき
- 自車と先行車のあいだに、他の車両や歩行者などが割り込んだり通過したとき

■ 先行車発進告知機能を ON / OFF するには

→ P. 58

■ 先行車発進告知機能の告知タイミングを切りかえるには

→ P. 58

アイドリングストップ機能★

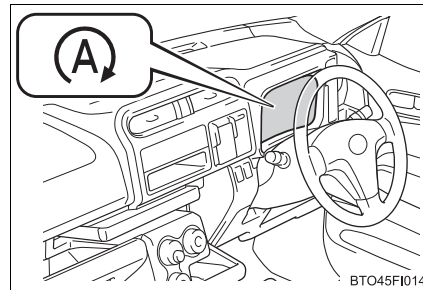
赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低下のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルまたはシフトレバーの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

D・S・Bレンジアイドリングストップ

■ エンジンが停止する

シフトレバーをD・S・Bで走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させる

エンジンが停止し、アイドリングストップ表示灯が点灯します。



■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離す

エンジンが再始動し、アイドリングストップ表示灯が消灯します。

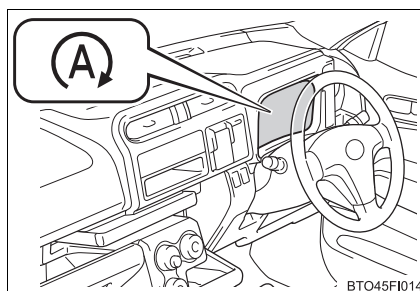
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Pレンジアイドリングストップ

■ エンジンが停止する

- 1 シフトレバーをD・S・Bで走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させる

D・S・Bレンジアイドリングストップによりエンジンが停止し、アイドリングストップ表示灯が点灯します。



- 2 シフトレバーをPにする (→ P. 108)

エンジンの停止が継続します。

■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルをしっかりと踏み、シフトレバーをP以外にする (→ P. 108)

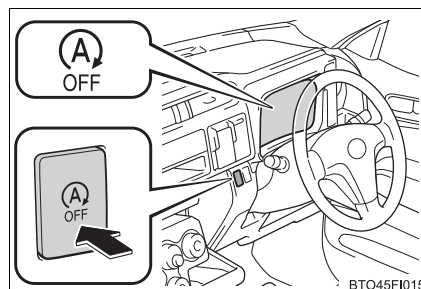
エンジンが再始動し、アイドリングストップ表示灯が消灯します。

アイドリングストップ機能を非作動にするには

アイドリングストップ機能を非作動にするにはアイドリングストップキャンセルスイッチを押す

アイドリングストップキャンセル表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、作動可能状態にもどり、アイドリングストップキャンセル表示灯が消灯します。



■ アイドリングストップ機能の自動再開

アイドリングストップ機能をアイドリングストップキャンセルスイッチによって非作動にしても、一度エンジンスイッチを“LOCK”にしてからエンジンを始動することによって、アイドリングストップ機能は自動的に作動可能状態にもどります。

■ アイドリングストップキャンセルスイッチを押したとき

- アイドリングストップ機能によるエンジン停止中、アイドリングストップキャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。
- アイドリングストップ機能が非作動のとき、もう一度アイドリングストップキャンセルスイッチを押すと、アイドリングストップ機能が作動可能状態にもどりますがエンジンは停止しません。
次に車両が停止したときに、アイドリングストップ機能によってエンジンが停止します。

坂道発進補助機能

アイドリングストップ機能によるエンジン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。

駆動力が発生すると、保持していたブレーキ力を自動的に解除します。

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。
- ブレーキペダルの踏み応えがかわったり、振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。

 知識

■ 作動条件

- 次の条件がすべて満たされたとき、アイドリングストップ機能が作動可能状態になります。
 - ・ ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき
 - ・ エンジンが十分暖まっているとき
 - ・ 外気温が -5°C 以上のとき
 - ・ シフトレバーがR・N以外のとき
 - ・ ボンネットが閉まっているとき (→ P. 219)
 - ・ 運転席シートベルトを着用しているとき
 - ・ 運転席ドアが閉まっているとき
 - ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
- 次の状況では、アイドリングストップ機能によるエンジン停止が行われない場合がありますが、異常ではありません。
 - ・ 外気温が高い、または低いときに、エアコンを使用しているとき
 - ・ バッテリーが十分に充電されていないとき (例：長期間の駐車後などバッテリーの充電量が低下・電気負荷が大きい・バッテリー温度が低い・バッテリーが劣化)、および定期的な充電中のとき
 - ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
 - ・ 勾配が急な坂道で停車したとき
 - ・ ハンドル操作をしているとき
 - ・ 渋滞などで、断続的に停車するとき
 - ・ 標高が高いとき
 - ・ エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎる
 - ・ バッテリー温度が低いとき、または高すぎる
 - ・ バッテリーを交換したあとしばらくの間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくの間

- アイドリングストップ機能によるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。(アイドリングストップ機能によるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)
 - ・ エアコンを ON にしたとき
 - ・ ハンドル操作したとき
 - ・ D・S・B レンジアイドリングストップ中に、シフトレバーを R または N にしたとき
 - ・ P レンジアイドリングストップ中に、シフトレバーを P 以外にしたとき
 - ・ 運転席シートベルトをはずしたとき
 - ・ 運転席ドアを開けたとき
 - ・ アクセルペダルを踏んだとき
 - ・ アイドリングストップキャンセルスイッチを押したとき
 - ・ 坂道などで車両が動き出したとき
- アイドリングストップ機能によるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。(アイドリングストップ機能によるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)
 - ・ ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
 - ・ エアコンを使用しているとき
 - ・ バッテリーの充電量が低下しているとき




■ ボンネットを開けたときは

- D・S・B レンジアイドリングストップ中にボンネットを開けたときは、アイドリングストップ機能によるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作 (→ P. 105) でエンジンを始動させてください。
- P レンジアイドリングストップ中にボンネットを開けたときは、エンジンが自動で再始動します。
- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めてもアイドリングストップ機能は作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを“LOCK”にし、約 30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■ アイドリングストップ機能について

- アイドリングストップ機能が作動できないときやキャンセルされたとき、またはアイドリングストップ機能に異常が発生したときには、アイドリングストップキャンセル表示灯の点滅・警告ブザーで注意を促します。(→ P. 263)
- アイドリングストップ機能によるエンジン停止中にエンジンスイッチを操作すると、アイドリングストップ機能によるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作(→ P. 105)でエンジンを始動してください。
- アイドリングストップ機能の作動によりエンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的に12V電源ソケットなどが使用できないことがあります。異常ではありません。
- 電装品・無線機の取り付け・取りはずしはアイドリングストップ機能に悪影響をおよぼす可能性がありますので、マツダ販売店にご相談ください。

■ アイドリングストップ機能によるエンジン停止中、フロントウインドウガラスが曇ったとき

 を押してエアコン(冷房・除湿機能)をONにし、 を  の位置

に合わせ、曇りを取ってください。

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、アイドリングストップキャンセルスイッチを押してアイドリングストップ機能を非作動にしてください。


■ アイドリングストップ機能によるエンジン停止中のエアコンについて

エアコンの効きをより良くしたいときは、アイドリングストップキャンセルスイッチを押してアイドリングストップ機能を非作動(→ P. 159)にしてください。

■ アイドリングストップ機能によるエンジン停止中に、エアコン吹き出し口から臭いが発生したときは

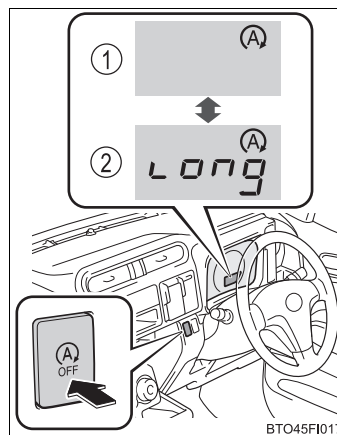
- アイドリングストップ時間の切りかえ(→ P. 163)で「通常」を選択しているとき：
アイドリングストップキャンセルスイッチを押してアイドリングストップ機能を非作動(→ P. 159)にしてください。
- アイドリングストップ時間の切りかえ(→ P. 163)で「長め(Long)」を選択しているとき：
「通常」に切りかえてください。

■ アイドリングストップ時間の切りかえについて

アイドリングストップキャンセルスイッチの操作により、 が ON のときのアイドリングストップ機能によるエンジン停止時間を切りかえることができます。

アイドリングストップキャンセルスイッチを約 3 秒以上押す

- ① 通常
- ② 長め (Long)



■ アイドリングストップ機能保護機能

- 大音量でオーディオ★を使用しているとき、バッテリーの消費を抑えるためにオーディオを自動的に OFF にする場合があります。この場合、エンジンスイッチを “LOCK” にして約 3 秒以上保持してから “ACC” または “ON” にし、オーディオを再開させてください。
- バッテリーの端子をはずして再接続したときに、オーディオ★が作動しないことがあります。この場合、エンジンスイッチを “LOCK” にし、次の操作を 2 回くり返すことでオーディオが作動します。
 - ・ エンジンスイッチを “ON” にし、再度エンジンスイッチを “LOCK” にする

■ アイドリングストップ時間などアイドリングストップ機能の作動表示

→ P. 56, 58

■ バッテリーを交換するとき

→ P. 279


■ アイドリングストップキャンセル表示灯が点滅したままのとき

システムに異常があるおそれがあります。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ アイドリングストップ機能が作動しているとき**

- アイドリングストップ機能によるエンジン停止中(アイドリングストップ表示灯が点灯しているあいだ)は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- アイドリングストップ機能によるエンジン停止中(アイドリングストップ表示灯が点灯しているあいだ)は、車から離れないでください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 換気が悪い場所では、アイドリングストップ機能を非作動にしてください。
エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ アイドリングストップ機能を正常に作動させるために**

次のようなときはアイドリングストップ機能が正常に作動しないおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内の運転席シートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内の運転席シートベルト非着用警告灯が点灯しないとき
- 運転席ドアを閉めているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯する、またはフロントルームランプのスイッチがドアポジションのときにフロントルームランプが点灯するとき
- 運転席ドアを開けているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯しない、またはフロントルームランプのスイッチがドアポジションのときにフロントルームランプが点灯しないとき

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ 4輪アンチロック・ブレーキ・システム (4W-ABS)

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC)

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC (トラクションコントロール)

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS (エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ 4WD 車

オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD です。すべりやすい雪道や上り坂などでスムーズな発進、加速に貢献します。通常の直進走行では FF (前輪駆動) に近い状態で走行します。前・後輪に回転差が生じるとビスカスカップリングにより、その回転速度の差に応じた最適なトルクを後輪へ配分します。

◆ 坂道発進補助機能（アイドリングストップ機能装着車）

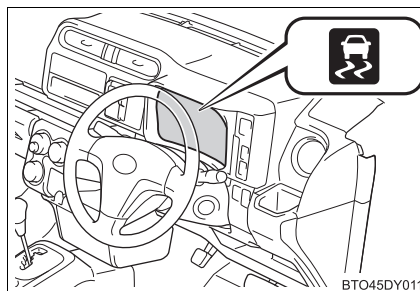
坂道での発進性を補助するため、駆動力が発生するまでのあいだブレーキ油圧（ブレーキの効き）を一時的に保持して、車両が後退するのを抑制し、坂道発進を容易にします。（→ P. 159）

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。


TRC・ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) が作動しているとき

TRC・ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。




TRC を停止するには


ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難

な場合があります。このようなときに  を押すことにより、脱出し

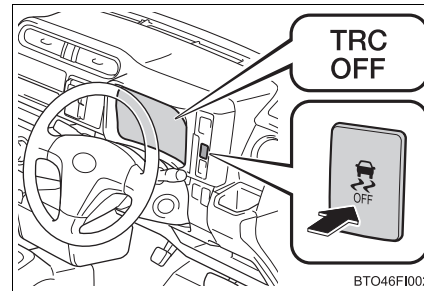
やすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度  を押すと、システム作動

可能状態にもどります。




 知識**■ TRC とダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) を停止するには**

TRC とダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構]

(DSC) を停止するには停車時に  を押し 3 秒以上保持してください。

TRC OFF 表示灯とダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) OFF 表示灯が点灯します。*

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

* プリクラッシュセーフティシステム (レーザーレーダー + 単眼カメラ方式) 装着車は、プリクラッシュセーフティシステム (レーザーレーダー + 単眼カメラ方式) 警告灯が点灯し、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。
(→ P. 145)

■ ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) OFF スイッチを押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC が作動できない状態になっています。マツダ販売店にご相談ください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外 (前進または後退での上り坂発進時)
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N の位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■ 4 輪アンチロック・ブレーキ・システム (4W-ABS)・ブレーキアシスト・TRC・ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC)・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ 4 輪アンチロック・ブレーキ・システム (4W-ABS) の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ 4 輪アンチロック・ブレーキ・システム (4W-ABS) の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ TRC やダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) の自動復帰について

TRC やダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチを“LOCK”にしたとき
- TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRC とダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速が約 55 km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルから足を離れた
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

警告**■4 輪アンチロック・ブレーキ・システム (4W-ABS) の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪で覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■4 輪アンチロック・ブレーキ・システム (4W-ABS) が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

4 輪アンチロック・ブレーキ・システム (4W-ABS) は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC やダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC やダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面では、ヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

警告**■ TRC やダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) を OFF にするときは**

TRC やダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) を作動停止状態にしないでください。TRC やダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ 4WD 車

- この車の 4WD は、オンロード専用です。
オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD です。無理な運転はしないでください。
- 脱輪などにより、いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。
前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン (溝模様) のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。(→ P. 293) 異なったタイヤを装着すると、4 輪アンチロック・ブレーキ・システム (4W-ABS)・TRC・ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC)・4WD など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、マツダ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 223）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

● パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め^{※1}をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと^{※2}を確認してください。

^{※1} 輪止めは、マツダ販売店で購入することができます。

^{※2} ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

 **知識****■ タイヤチェーンについて**

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。マツダ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

警告**■冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

4

運転

注意**■タイヤチェーンの使用について**

マツダ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

マツダ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。

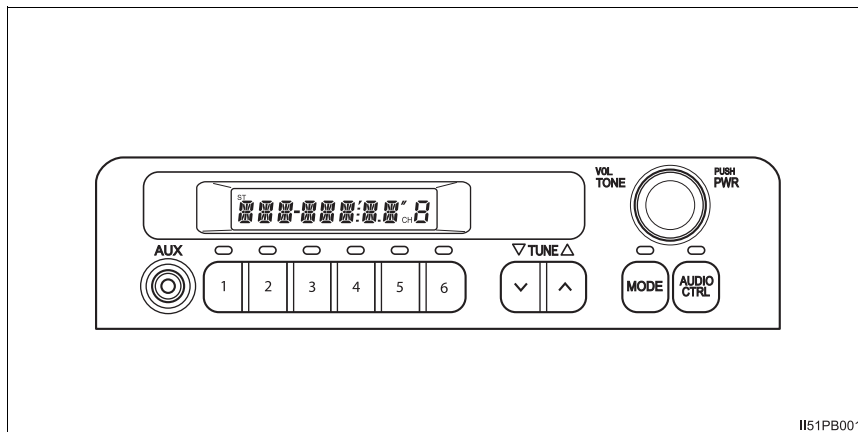
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

オーディオ**5**

- 5-1. オーディオの基本操作
 - オーディオの種類..... 178
- 5-2. オーディオの使い方
 - 快適に聞くために..... 179
- 5-3. ラジオの使い方
 - ラジオの使い方..... 180
- 5-4. 外部入力接続機器の使い方
 - AUX 端子（外部入力接続）
の使い方..... 182
- 5-5. アンテナの取り扱い
 - アンテナ 184

オーディオの種類★

AM / FM ラジオ



知識

■携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■オーディオの取り扱いについて

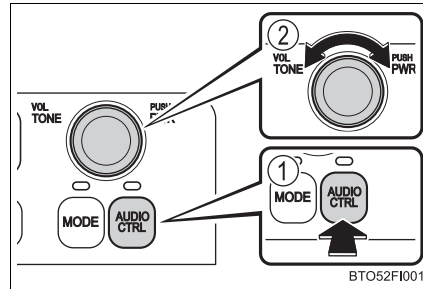
オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

快適に聞くために★

音質や音量バランスの設定を変更することができます。

- ① 調整したいモードを表示する
- ② 音質と音量バランスの設定を変更する
5 秒間操作を行わないと、画面がもどります。
最適な音質と音量バランスで聞くために設定を変更することができます。




設定を変更するには

■ 調整モードの切りかえ

 を押して調整したいモードを選ぶ

“BAS” ・ “TRE” ・ “BAL” の設定を変更できます。

■ 音質・音量バランスの調整

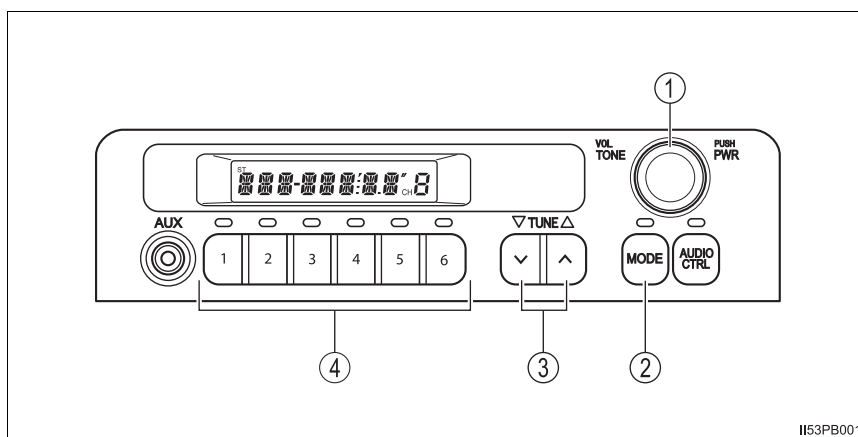
 をまわして、音質・音量バランスのレベルを調整します。

調整モード	表示	レベル	左にまわす	右にまわす
低音	BAS	- 5 ~ + 5	弱	強
高音	TRE	- 5 ~ + 5		
左右音量 バランス	BAL	L7 ~ R7	右側小	左側小

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ラジオの使い方★

ラジオを聞くために“RADIO”、“AM”または“FM”が表示されるまで **MODE** を押してください。









II53PB001



- ① 電源の ON / OFF : 押す
音量の調整 : まわす
- ② AM / FM の切りかえ
- ③ 周波数の調整
自動選局するときは、0.8 秒以上 1.5 秒未満押す
もう一度押すと解除されます。
- ④ 選局

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

放送局を記憶させる

- 1  (高い周波数)、または  (低い周波数) を押す、または
-  (高い周波数) か  (低い周波数) を “ピッ” と音が鳴るまで押し続けて、お好みの放送局を探す
- 2 記憶させたい  ~  を “ピッ” と音が鳴るまで押し続ける

 **知識****■ バッテリーとの接続が断たれたときは**

 ~  に設定されていた放送局が消去されます。

■ 受信感度について

車の向きにより、アンテナの向きもかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合があります。

AUX 端子（外部入力接続）の使い方★

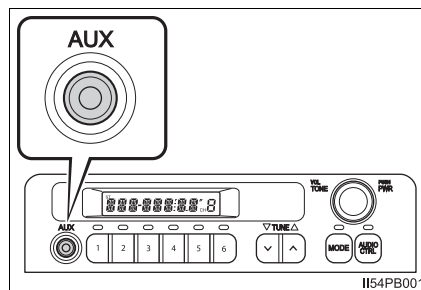
ポータブルオーディオプレーヤーを車両のスピーカーから聞くことができます。

“AUX” が表示されるまで **MODE** を押してください。

ポータブルオーディオプレーヤーとの接続

ポータブルオーディオプレーヤーを接続する

接続したポータブルオーディオプレーヤーの電源が入らない場合は、電源を入れます。



知識

■ ポータブルオーディオの操作について

音量の調整をするときは、車両のオーディオで調整してください。
その他の操作は、ポータブルオーディオで行ってください。

■ ポータブルオーディオの電源について

車両の 12V 電源ソケットに接続して使用すると、再生時にノイズが発生することがあります。ポータブルオーディオに付属のバッテリーなどを使用してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告**■ 走行中の警告**

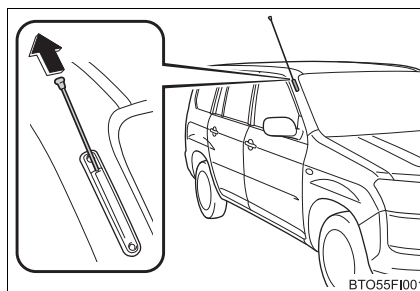
運転中にポータブルオーディオプレーヤーを操作しないでください。

⚠ 注意**■ ポータブルオーディオプレーヤーや AUX 端子の故障を防ぐために**

- 炎天下など、車室内が高温になるため、ポータブルオーディオプレーヤーを車室内に放置しないでください。
- ポータブルオーディオプレーヤーが接続されているときに、ポータブルオーディオプレーヤーの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。
- AUX 端子に異物などを入れないでください。

アンテナ

ラジオ使用時は、いっぱいまで引き出してください。



⚠ 注意

■ アンテナの損傷を防ぐために

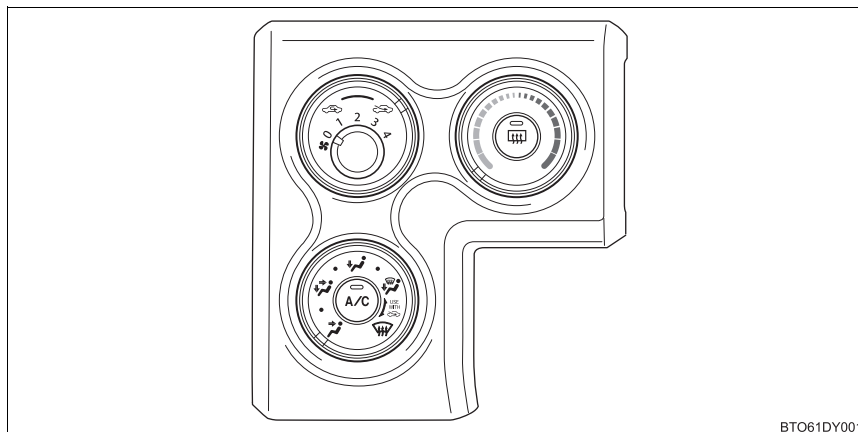
次のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき
- 自動洗車機で洗車するとき

6-1. エアコン・デフォグガーの 使い方	
マニュアルエアコン	186
6-2. 室内灯のつけ方	
室内灯一覧	192
・フロントルームランプ・ リアルームランプ	193
6-3. 収納装備の使い方	
収納装備一覧	194
・センタートレイ (ドリンクホルダー付)	196
・マルチホルダー	198
・インパネトレイ	201
・開閉式 ワイドフリーラック	202
・センターボックス	202
・カップホルダー・ ボトルホルダー	203
・オープントレイ・ ポケット	205
6-4. その他の室内装備の使い方	
その他の室内装備	206
・サンバイザー	206
・時計	207
・12V 電源ソケット	208
・インパネテーブル	209
・コートフック	211
・デッキサイドポケット	211

マニュアルエアコン

エアコン操作について




BTO61DY001


■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは  を右に、下げるときは左にまわす

エアコン（冷房・除湿機能）の ON・OFF を切りかえるには  を押します。

 が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

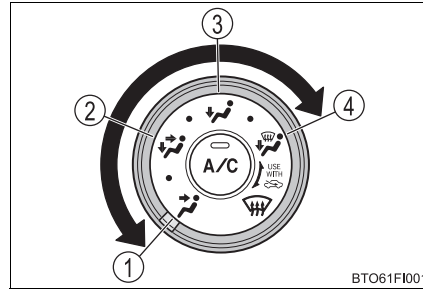
風量を増やすときは  を右に、減らすときは左にまわす

送風を止めるときは、ダイヤルを 0 の位置にします。

■ 吹き出し口を切りかえる





- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る



ダイヤルの位置を各吹き出し口のあいだにすると、吹き出し口を細かく選択できます。

その他の機能**■ 内気循環／外気導入を切りかえるには**


内気循環にするには、ダイヤルの位置を  にします。

外気導入にするには、ダイヤルの位置を  にします。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

 を押してエアコン（冷房・除湿機能）を ON にすると、曇りが早く取れます。

■ リアウインドウデフォグラー&ヒートッドアミラー★

リアウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときにお使いください。



リアウインドウデフォグラーとヒートッドアミラーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

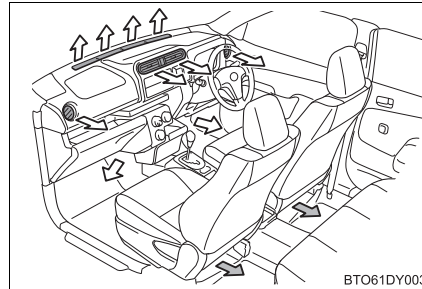
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

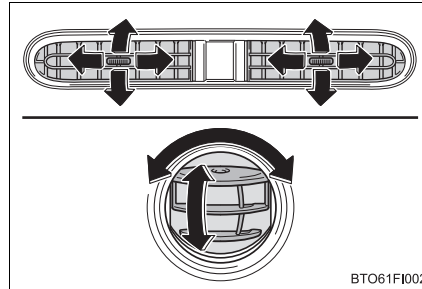
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

← : 寒冷地仕様車のみ

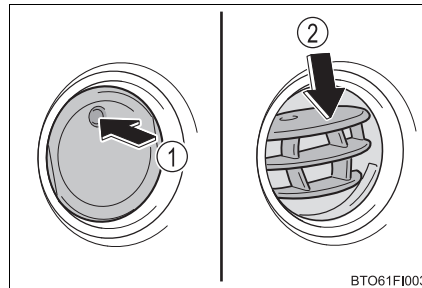


■ 風向き調整





■ 吹き出し口の開閉

- ① 開ける
- ② 閉じる



 知識


■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、 を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
-  を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 内気循環／外気導入について

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

■ 外気温度が0℃近くまで下がったとき

 を押しても除湿機能が働かない場合があります。



■ 換気とエアコンの臭いについて

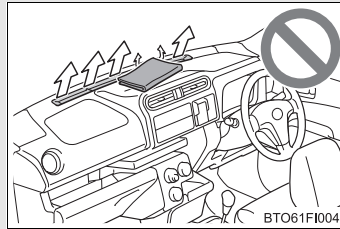
- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■ エアコンフィルターについて

→ P. 229

警告**■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 を  の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。

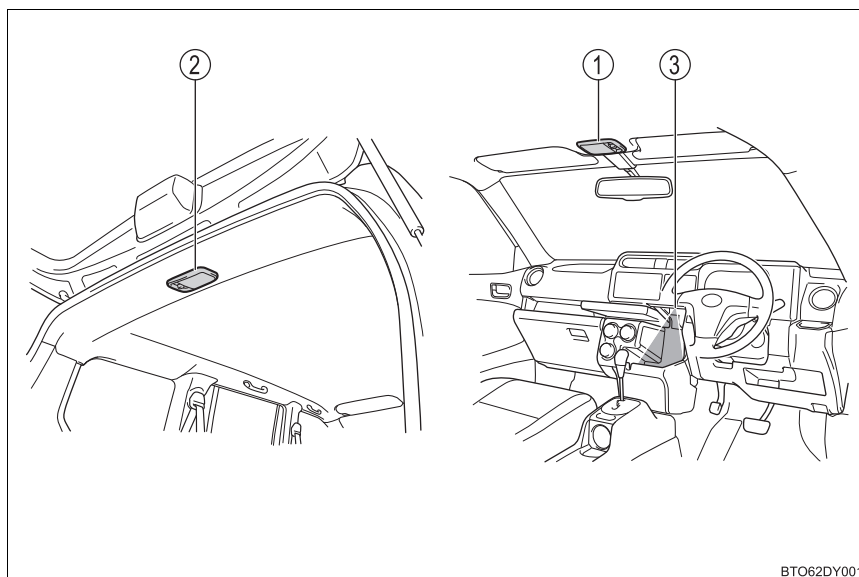
**■リアウインドウデフォグター&ヒートドアミラー作動中の警告
(ヒートドアミラー装着車)**

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意**■バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

室内灯一覧



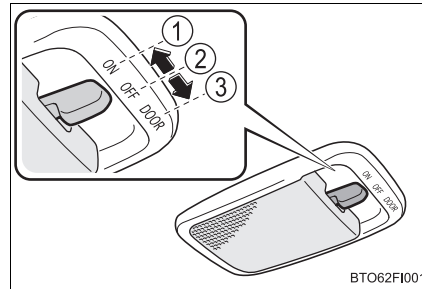
- ① フロントルームランプ
- ② リアルームランプ

- ③ センタートレイ（ドリンクホルダー付）照明
（車幅灯が点灯しているとき）

フロントルームランプ・リアルームランプ

- ① ランプを点灯する
- ② ランプを消灯する
- ③ ドアの開閉作動に連動して、ランプの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

リアルームランプは、バックドアの開閉作動にのみ連動します。



BTO62FI001

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチの位置により、フロントルームランプが自動的に点灯・消灯します。

■バッテリーあがりを防ぐために

半ドア状態でフロントルームランプのスイッチがドアポジションのときに、フロントルームランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■カスタマイズ機能

イルミネーテッドエントリーシステムの消灯までの時間などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 295）

注意

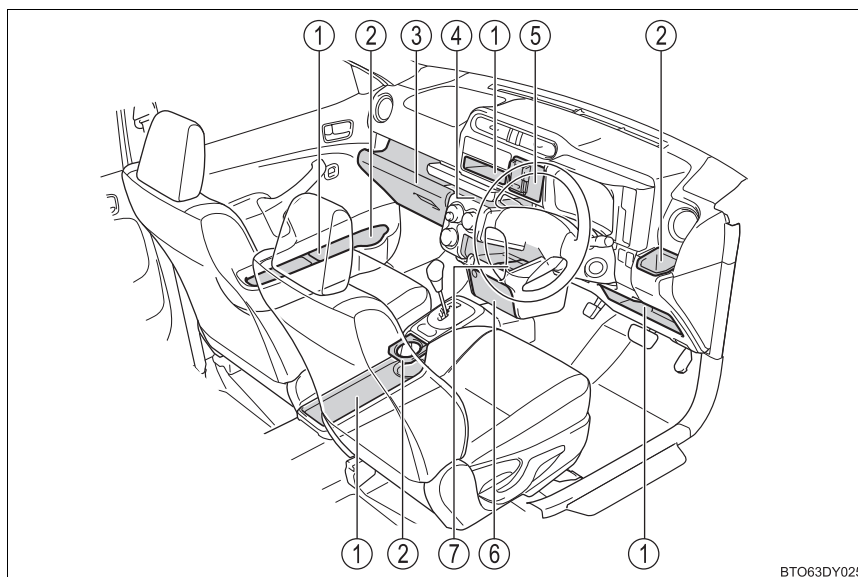
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

6

室内装備・機能

収納装備一覧



- ① オープントレイ・ポケット (→ P. 205)
- ② カップホルダー・ボトルホルダー (→ P. 203)
- ③ 開閉式ワイドフリーラック (→ P. 202)
- ④ インパネトレイ (→ P. 201)
- ⑤ マルチホルダー (→ P. 198)
- ⑥ センターボックス (→ P. 202)
- ⑦ センタートレイ (ドリンクホルダー付) (→ P. 196)

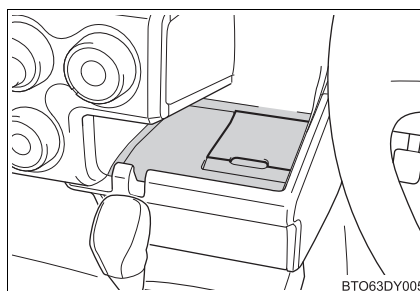
警告

- メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままですと、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、必ずフタを閉じたり、格納してください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタや収納装備に体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

センタートレイ（ドリンクホルダー付）

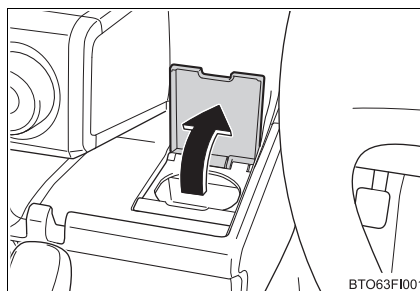
■ オープントレイとして使う

フタを閉める



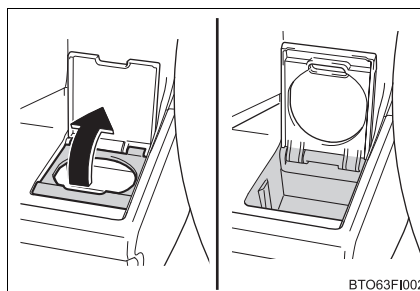
■ カップホルダーとして使う

フタを開ける



■ 1L紙パックホルダーとして使う

フタとカップホルダーを開ける



 知識

■ カップホルダーとして使うときは

→ P. 204

■ 1L 紙パックホルダーとして使うときは

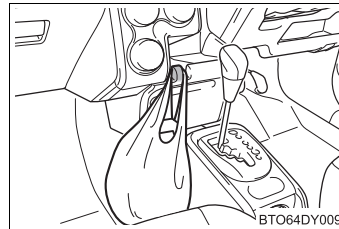
- 紙パックのフタを閉められるものは、必ずフタを閉めてから収納してください。
- 紙パックの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

■ センタートレイ（ドリンクホルダー付）照明

車幅灯が点灯しているとき、照明が点灯します。（→ P. 192）

■ 買い物フック

センタートレイ（ドリンクホルダー付）左側のフックには、袋などをかけることができます。


 警告

■ オープントレイとして使うときは

→ P. 205

■ カップホルダーとして使うときは

→ P. 204

■ 1L 紙パックホルダーとして使うときは

1L 紙パックホルダーには紙パック以外のものを置かないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。

 注意

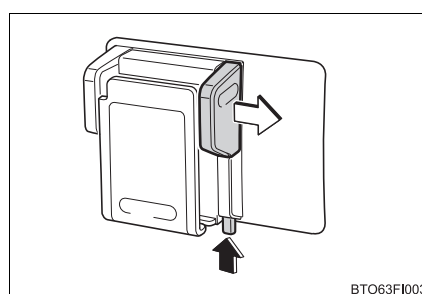
- 1L 紙パックホルダーとして使うときは、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。
- 破損を防ぐために、センタートレイ（ドリンクホルダー付）左側のフックに 3kg をこえるものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

マルチホルダー

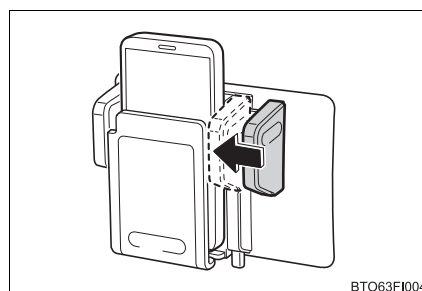
マルチホルダーは、スマートフォンなどの携帯機器やメモ用紙などを収納するための装備です。
携帯機器などを固定して画面を見たり操作するための装備ではありません。

■ スマートフォンなどの携帯機器やメモ用紙などを置く

- 1 ボタンを押す
アジャスターが開きます。



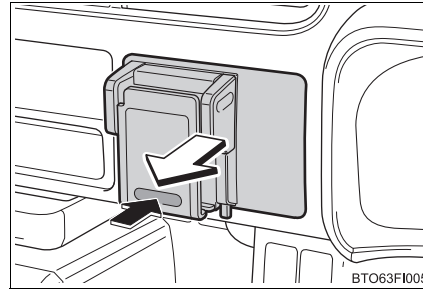
- 2 アジャスターを閉める
置いたものの大きさに合わせて閉めてください。



■ 小物入れとして使う

1 押して開ける

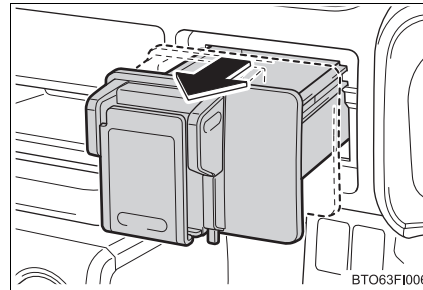
小物入れが少し開きます。



BTO63FI005

2 手前に引く

ストッパーにあたり止まるまで、小物入れを引き出すことができます。

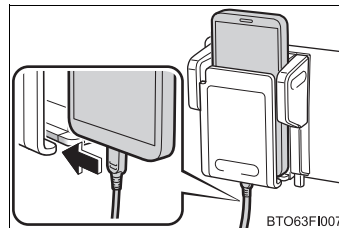


BTO63FI006

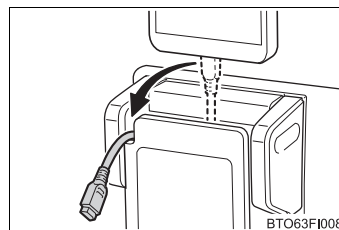
知識

■ スマートフォンなどの携帯機器を置くときは

- 携帯機器に接続したケーブルは、マルチホルダー下部のスリットから出しておくことができます。ケーブルは、スリット右側から通すことができます。
- マルチホルダーから携帯機器を持ち出すときは、はずしたケーブルをホルダー左上のくぼみに引っかけておくことができます。



BTO63FI007



BTO63FI008

⚠ 警告

- アジャスターの操作時などマルチホルダーを使用するときは、ワイパー&ウォッシャースイッチに手があたらないように気を付けてください。手があたりワイパー&ウォッシャーが不意に作動すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- マルチホルダーを小物入れとして使う場合、走行中は必ず閉じてください。開いたマルチホルダーに手が当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

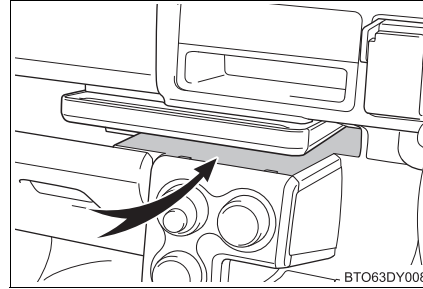
⚠ 注意

- エアコンの使用状況や車室内外の温度・湿度によっては、マルチホルダーに置いたスマートフォンなどの携帯機器内部が結露するおそれがあります。それぞれの携帯機器に付属の取り扱い説明書もお読みください。
- マルチホルダーを小物入れとして使う場合、重いものを入れないでください。引き出しにくくなったり、変形するおそれがあります。

インパネトレイ

A4 サイズまでのバインダーや書類などを入れることができます。

A4 サイズのものは、横向きに入れてください。



⚠ 警告

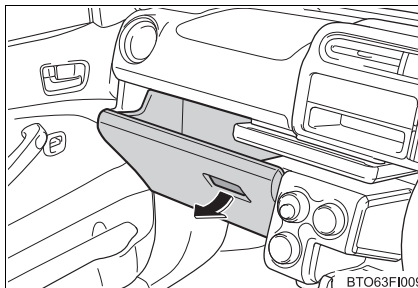
インパネトレイには、トレイから大きくはみ出るようなものや、転がりやすいものを置かないでください。
急ブレーキ時などに、はみ出した部分に体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

インパネトレイには、トレイから大きくはみ出るようなものを置かないでください。
インパネテーブル (→ P. 209) を引き出したときにあたり、破損するおそれがあります。

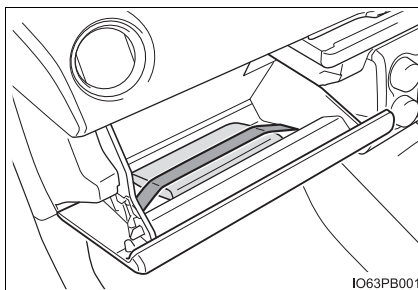
開閉式ワイドフリーラック

開口部を広げるには、レバーを引き上げる



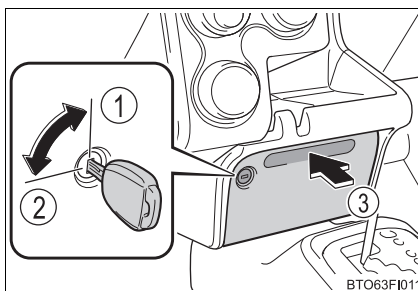
■ 車検証入れや取扱書などの収納

ラック内側のゴムバンドで留めることができます。



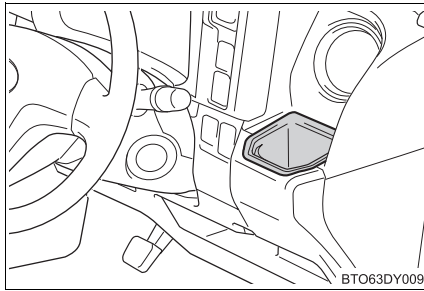
センターボックス

- ① 施錠
- ② 解錠
- ③ 押して開ける

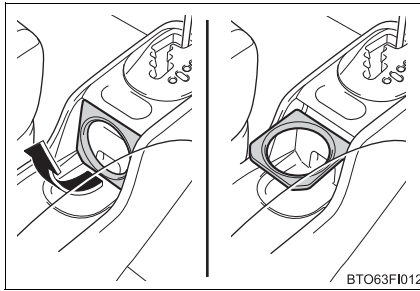


カップホルダー・ボトルホルダー**■ カップホルダー**

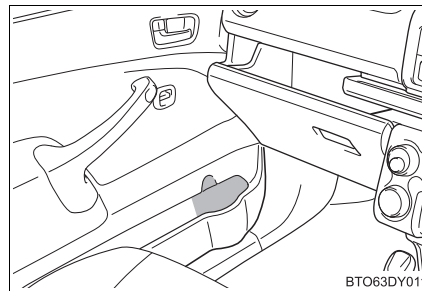
▶ 運転席右側



▶ センターコンソール



使用するときには、引き起こす

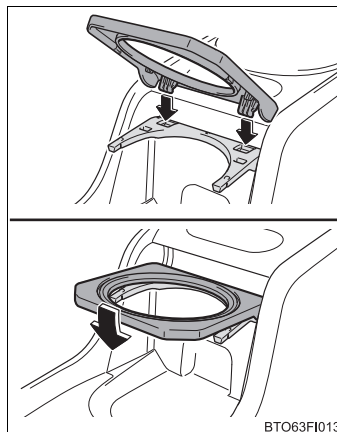
■ ボトルホルダー（助手席ドア）

6


室内装備・機能

 知識

- フタを閉められるものは、必ずフタを閉めてから収納してください。
- カップ・缶・ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。
- センターコンソールのカップホルダー部は、はずれてしまっても、再び取り付けて使用することができます。

 警告

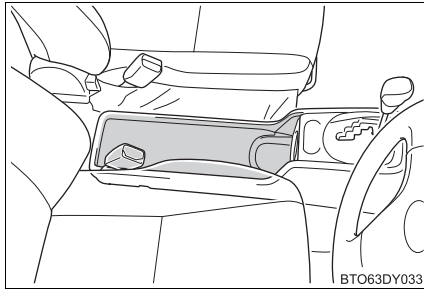
カップホルダー・ボトルホルダーにはカップ・缶・ペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

 注意

- センターコンソールのカップホルダーに手をついたり、ホルダーを足で踏んだりしないでください。
- 助手席ドアのボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

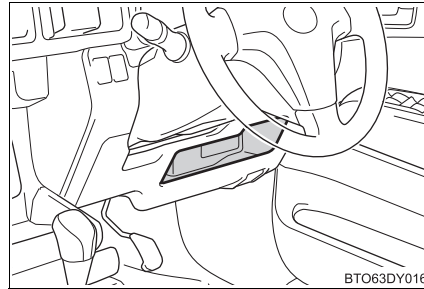
オープントレイ・ポケット

▶ センターコンソールトレイ



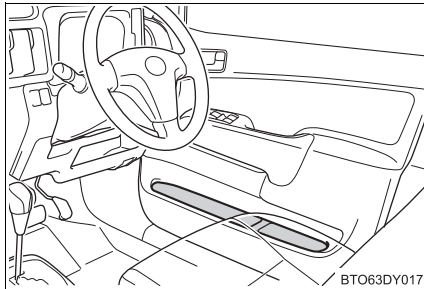
BTO63DY033

▶ 運転席ロアポケット



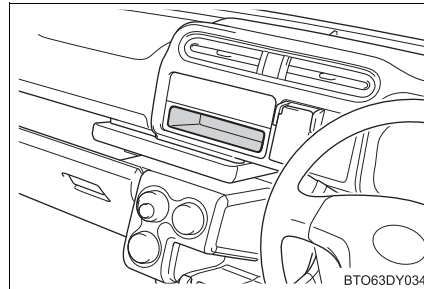
BTO63DY016

▶ ドアポケット



BTO63DY017

▶ 1DIN ポケット★



BTO63DY034

⚠ 警告

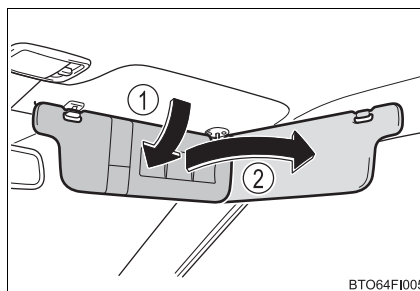
- 次のことをお守りください。
お守りいただかないと、急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出すなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- センターコンソールトレイには、転がりやすいものなど不安定なものを置かない
 - センターコンソールトレイにかばんなどを置く場合、走行中やブレーキをかけたときなどに、不安定にならないようにする
 - ポケットには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

その他の室内装備

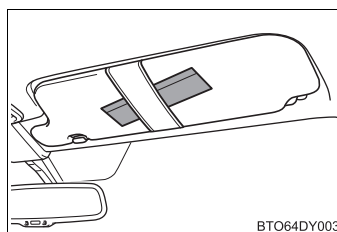
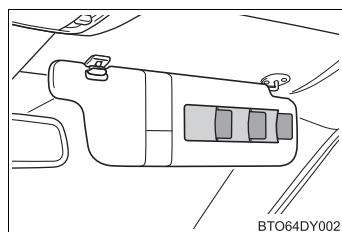
サンバイザー

- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



知識

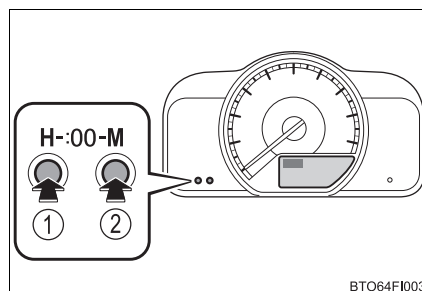
■ チケットホルダー（運転席側）



時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

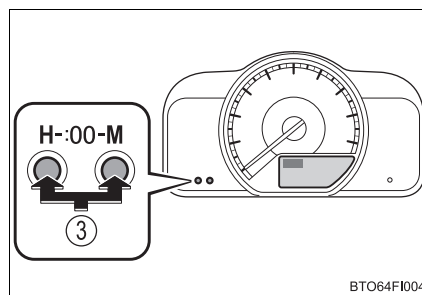
- ① “時” を調整する
- ② “分” を調整する



- ③ “分” を 00 にする ※

時計調整ボタンを同時に 1 秒以上押し続けます。

※ (例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00
1:30 ~ 1:59 → 2:00

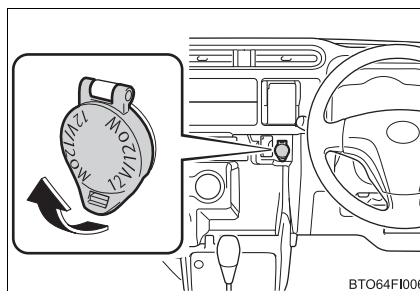
**知識**

- エンジンスイッチが “ON” のとき、時刻が表示されます。
- バッテリー端子の脱着を行うと、時刻はリセットされます。

12V 電源ソケット

次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以下の電気製品
フタを開ける



知識

- エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき使用できます。
- アイドリングストップ機能装着車：アイドリングストップ機能の作動により、エンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的に 12V 電源ソケットを使用できないことがあります。異常ではありません。

注意

■ ショートや故障を防ぐために

挿し込み口に異物が入ったり、飲料水などがかかたりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）をこえる電気製品を使用しないでください。

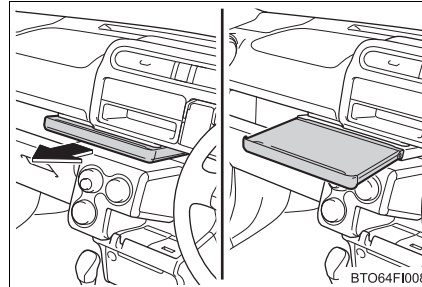
■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、12V 電源ソケットを長時間使用しないでください。

インパネテーブル

引き出す

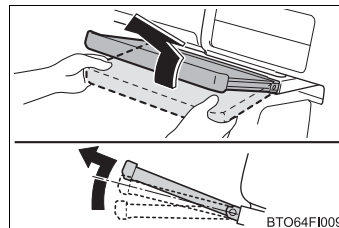
停車しているときに、引き出して使用してください。



知識

- インパネテーブルは、弁当の置き場所、車内での伝票書き、小型パソコンでの作業などに使用できます。
- インパネテーブルは、次のように取りはずすことができます。

- 1 テーブルをすべて引き出す
- 2 テーブル手前の両端を持って、上げながら引き抜く



 **警告**

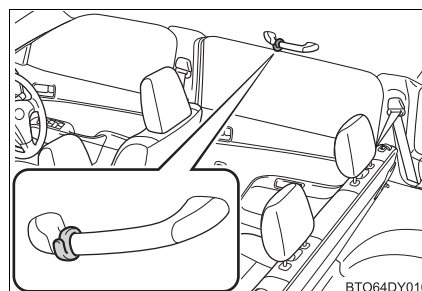
- 走行中は、インパネテーブルを必ず格納してください。
急ブレーキや急旋回時などに、テーブルに体があたったり、テーブルの上に置いているものが落ちたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- インパネテーブルにもたれかからないでください。
テーブルが破損し、けがをするおそれがあります。

 **注意**

- 破損を防ぐために、インパネテーブルに 10kg をこえるものを置いたり、過度の負荷をかけないでください。
- コインやカードなどを上に置いたまま、インパネテーブルを格納しないでください。
コインやカードなどが中に入り込んで取れなくなるおそれがあります。

コートフック

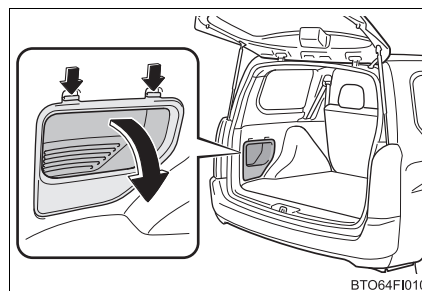
リアの運転席側に付いています。



デッキサイドポケット

ラゲージルームの助手席側にあります。

取りはずすときは、ツメを押しながらはずす



⚠ 警告

- デッキサイドポケット裏側のスペースには、換気用の弁が取り付けられています。次の理由から荷物などを収納しないでください。
 - ・ 荷物が弁をふさぎ、換気性能が悪化し、ドアの閉まりが悪くなるおそれがあります。
 - ・ 荷物で弁が押し開かれたままの状態になり、車内に排気ガスが侵入したり水が浸入するおそれがあります。
- デッキサイドポケットを取りはずして使用したあとは、必ず取り付けておいてください。

お手入れのしかた**7****7-1. お手入れのしかた**

外装の手入れ.....	214
内装の手入れ.....	217

7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	219
ガレージジャッキ.....	221
ウォッシャー液の補給	222
タイヤについて.....	223
タイヤ空気圧について	227
エアコンフィルターの 交換	229
リモコンキーの電池交換	232
ヒューズの点検・交換	234
電球（バルブ）の交換	237

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかけてください。(およそ体温以下を目安としてください)

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、マツダケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはマツダ販売店にお問い合わせください。

 知識

■ 自動洗車機を使うときは

- ドアミラー・アンテナを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗浄機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

 警告

■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意**■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使うときは

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラ★やカメラ周辺に直接水をあてないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクター類に近付けすぎないでください。水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により性能が劣化したり、部品が損傷するおそれがあります。
 - ・ 駆動系部品
 - ・ ステアリング部品
 - ・ サスペンション部品
 - ・ ブレーキ部品

■ アンテナの損傷を防ぐために

→ P. 184

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→ P. 29)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオ★やフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ リアウインドウガラスの内側を掃除するときは

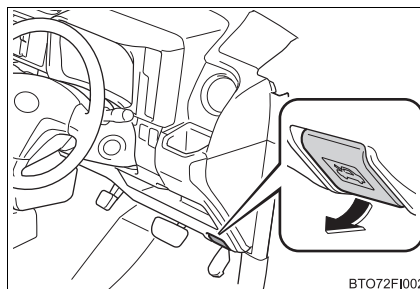
- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

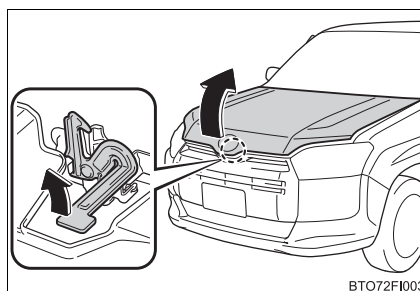
ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

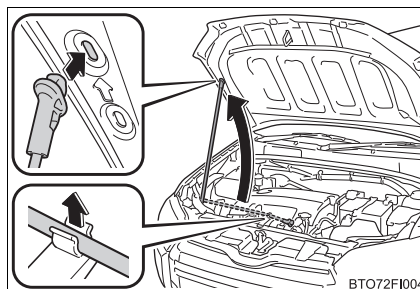
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



7

お手入れのしかた

警告**■ 走行前の確認**

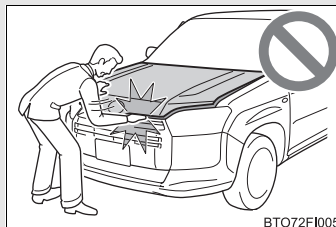
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

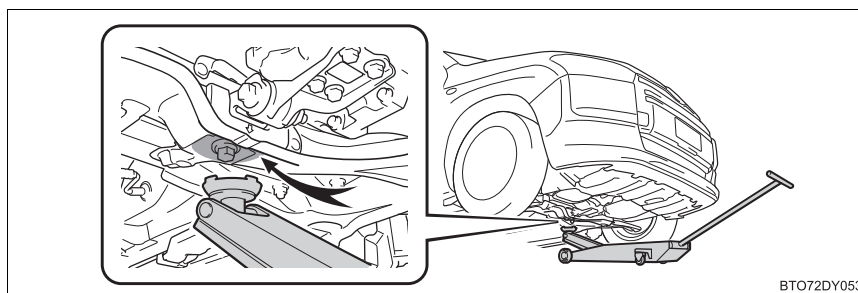
**注意****■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

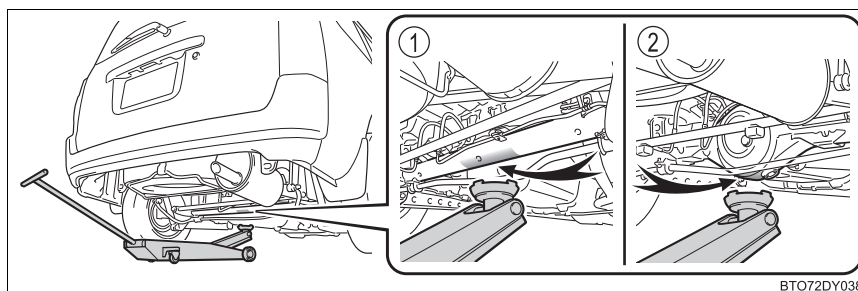
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

◆ フロント側



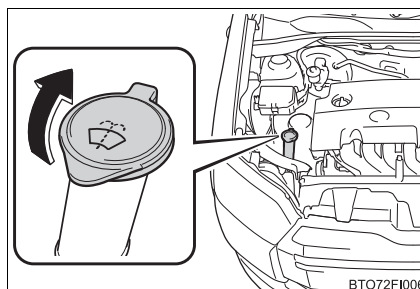
◆ リア側



- ① FF 車
- ② 4WD 車

ウォッシャー液の補給

タンク側面から液量を確認し、不足しているときは、キャップを開けてウォッシャー液を補給する



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補給するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション(タイヤ位置交換)を5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無

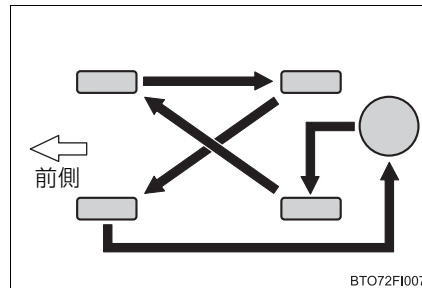
- タイヤの溝の深さ

- タイヤの異常摩耗(極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど)の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、マツダは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



7

お手入れのしかた

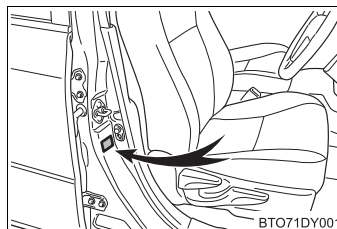
 知識

■ タイヤ空気圧の数値

	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)			
	前輪		後輪	
	空荷時	積荷時 [*]	空荷時	積荷時 [*]
FF 車	220 (2.2)	240 (2.4)	220 (2.2)	290 (2.9)
4WD 車			230 (2.3)	

* 100kg 以上または 4 名乗車以上

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。


■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、マツダ販売店にご相談ください。

警告**■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

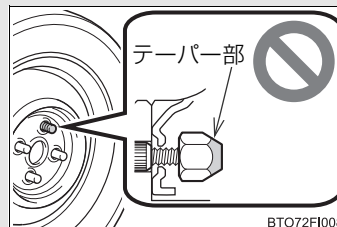
■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。
テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ 走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。(→ P. 293)

□ 知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、マツダ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。


- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

 **警告****■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 **注意****■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

1 エンジンスイッチを“LOCK”にする

2 開閉式ワイドフリーラックの開
口部を広げ、上部・下部のツメを
はずして取りはずす

- ① 上部左側のツメを取りはずす
- ② 上部右側のツメを取りはずす
- ③ 下部のツメを取りはずす

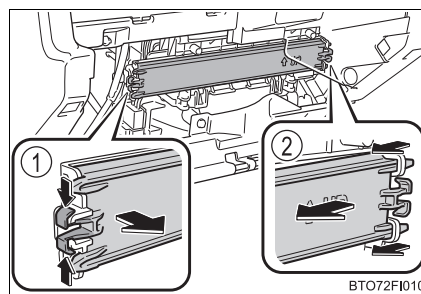
上部のツメをはずすときは、開閉式ワイドフリーラック側面の「PUSH」の部分の内側に押してください。

上部左側のツメをはずした状態で、上部右側のツメをはずしてください。



3 フィルターカバーを取りはずす

- ① カバーの固定を解除する
- ② カバーを矢印の方向にずらして抜く

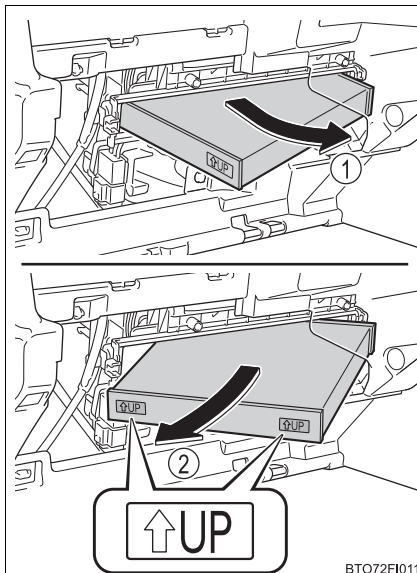


7

お手入れのしかた

4 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する**①** 車両内側へまわすように引き出す

フィルターの左側面がすべて出るまで引き出してください。

② 車両外側へまわすように取りはずす**5** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付け

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

知識**■ フィルターの交換について**

フィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km [10,000km^{*}] ごと

^{*} 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを交換してください。

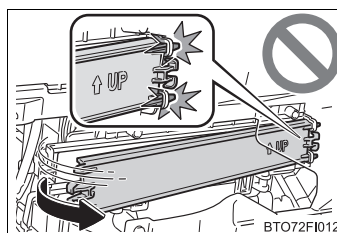
⚠ 注意**■ エアコンを使用するときの注意**

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■ フィルターカバーを取りはずすときは

フィルターカバーの固定を解除するために矢印の方向に動かすときは、カバー右端を固定している部分に無理な力がかからないよう注意してください。

破損するおそれがあります。



リモコンキーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

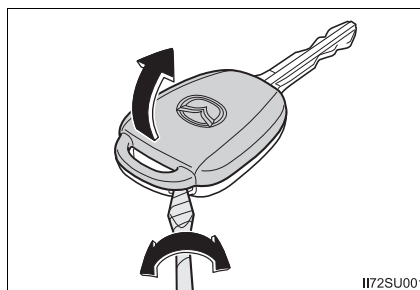
- マイナスドライバー
- リチウム電池 CR2016

電池交換のしかた

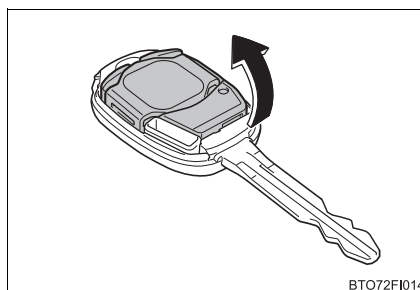
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ボタン側を下向きにしてカバーをはずしてください。上向きにするとボタンがはずれるおそれがあります。

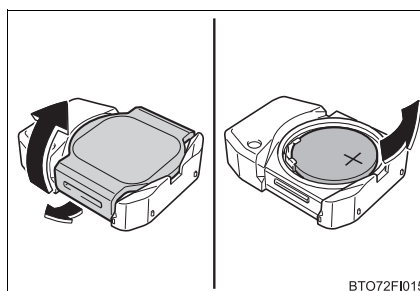


2 モジュールを取り出す



3 モジュールカバーをはずし、消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

 知識

■ リチウム電池 CR2016 の入手

電池はマツダ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電池が消耗していると

次のような状態になります。


- リモコン機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

 警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

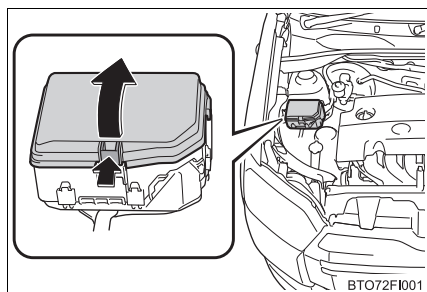
- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

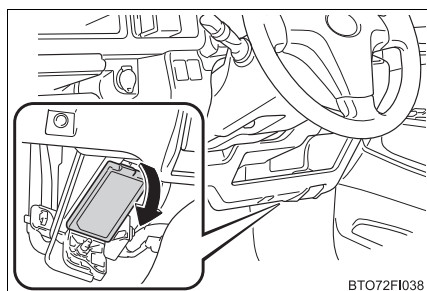
- 1 エンジンスイッチを“LOCK”にする
- 2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（運転席側）



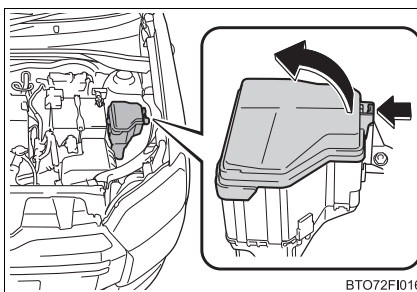
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ 運転席足元



カバーをはずす

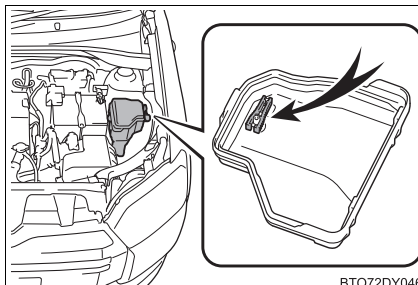
▶ エンジンルーム（助手席側）



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

3 ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

ヒューズはずしは、エンジンルーム（助手席側）にあるヒューズボックスのカバーに付いています。



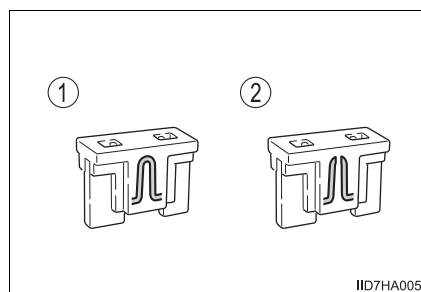
BT072DY046

4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



I1D7HA005

知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 237）
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

7

お手入れのしかた

⚠ 警告**■車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずマツダ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意**■ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

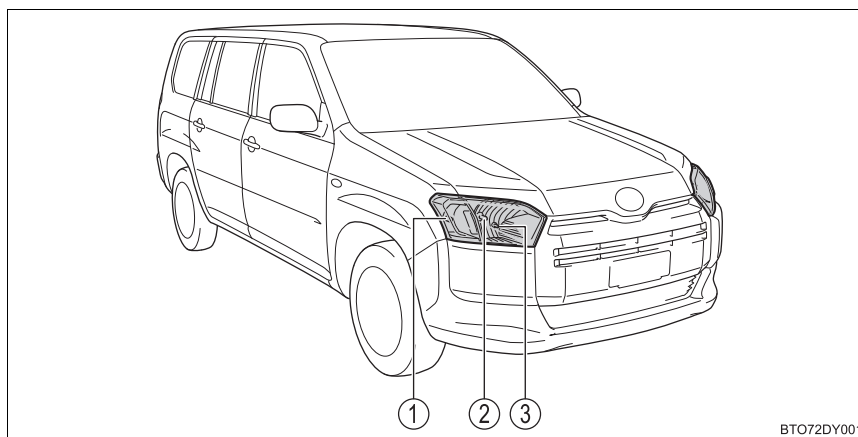
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、マツダ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 294）

バルブ位置

■ フロント



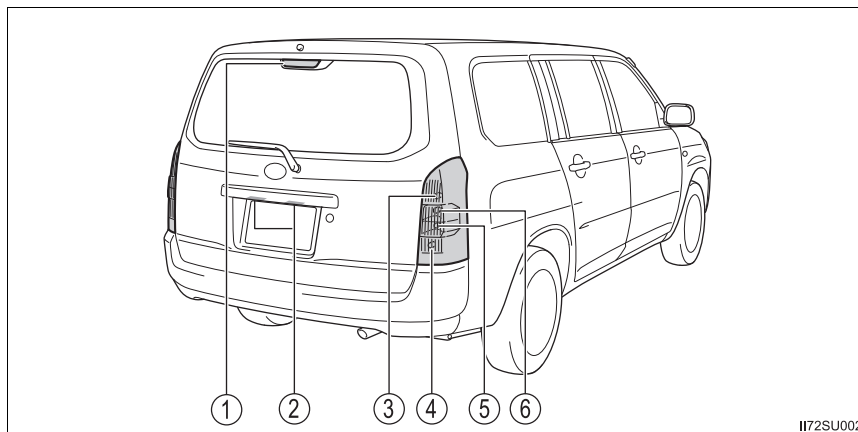
① フロント方向指示灯／
非常点滅灯

② ヘッドランプ
③ 車幅灯

7

お手入れのしかた

■ リア



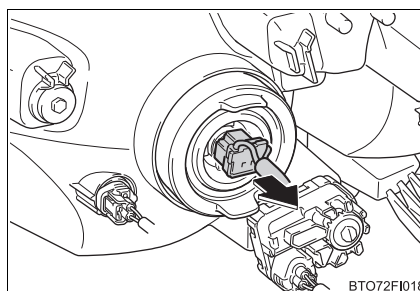
- | | |
|-----------------|-----------------|
| ① ハイマウントストップランプ | ④ リアフォグランプ★ |
| ② 番号灯 | ⑤ 後退灯 |
| ③ 制動灯／尾灯 | ⑥ リア方向指示灯／非常点滅灯 |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

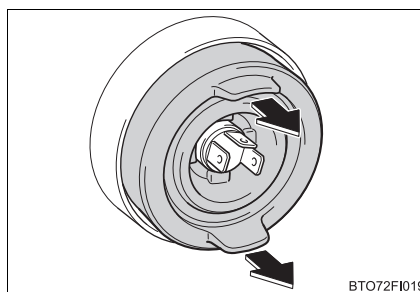
電球交換のしかた

■ ヘッドランプ

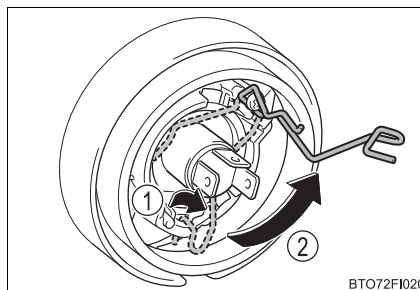
- 1 ボンネットを開け、コネクタを取りはずす



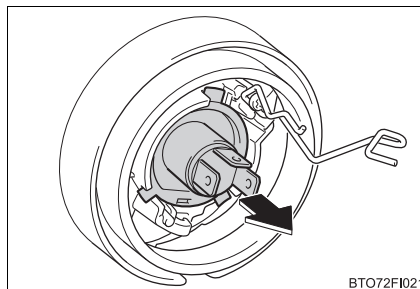
- 2 ゴムカバーを取りはずす



- 3 留め金をはずす
① フックからはずす
② 開く



- 4 電球を取りはずす



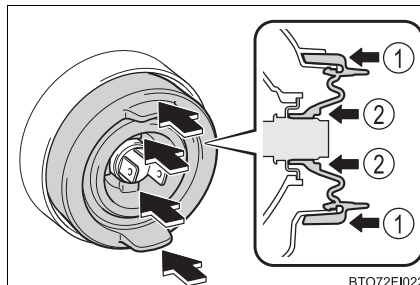
- 5 新しい電球を取り付け、留め金をかける

7

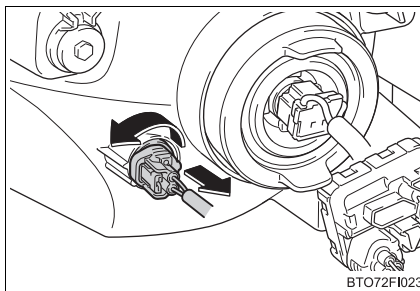
お手入れのしかた

6 ゴムカバーを取り付ける

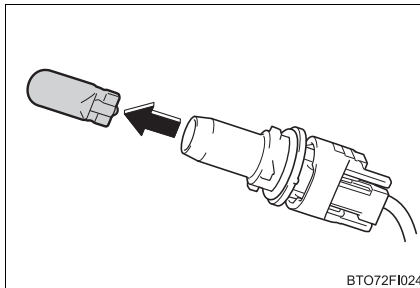
- ① 外周をしっかりとはめ込む
- ② 内周（電球まわり）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込む

**7** コネクターを取り付け、ボンネットを閉める**■ 車幅灯**

- 1** ボンネットを開け、ソケットを取りはずす



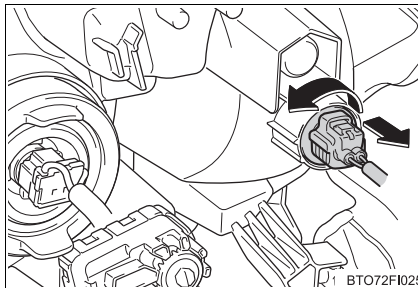
- 2** 電球を取りはずす



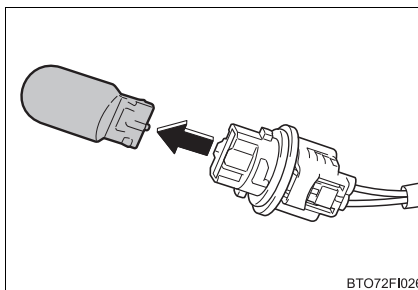
- 3** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

- 1 ボンネットを開け、ソケットを取りはずす



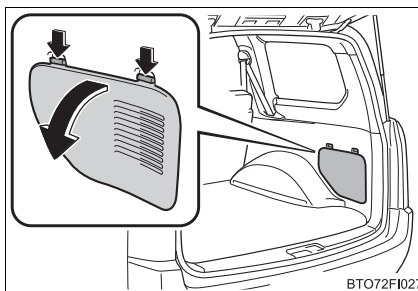
- 2 電球を取りはずす



- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

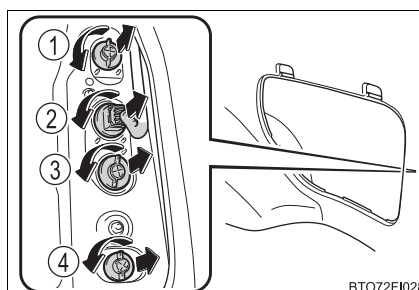
■ 制動灯／尾灯・リア方向指示灯／非常点滅灯・後退灯・
リアフォグランプ★

- 1 バックドアを開け、カバーを取りはずす



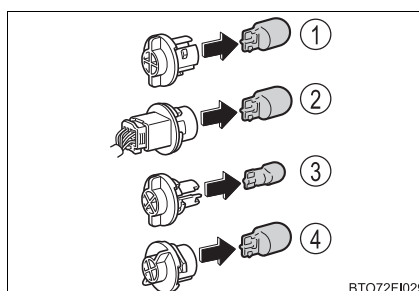
- 2 ソケットを取りはずす

- ① 制動灯／尾灯
- ② リア方向指示灯／
非常点滅灯
- ③ 後退灯
- ④ リアフォグランプ



- 3 電球を取りはずす

- ① 制動灯／尾灯
- ② リア方向指示灯／
非常点滅灯
- ③ 後退灯
- ④ リアフォグランプ



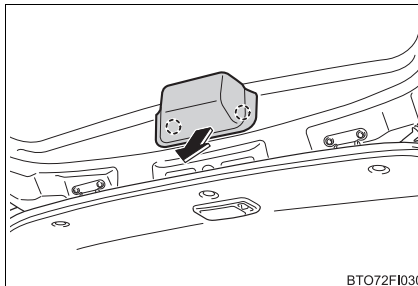
- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

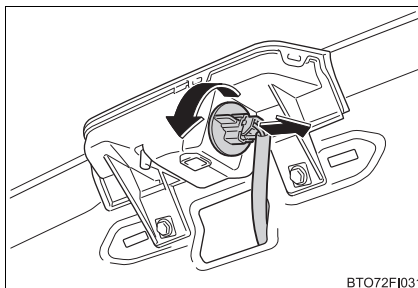
■ ハイマウントストップランプ

- 1 バックドアを開け、カバーを取りはずす

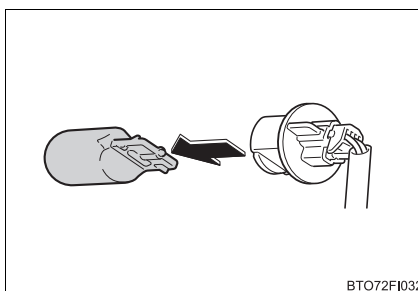
カバー裏に固定具（2個）があります。



- 2 ソケットを取りはずす



- 3 電球を取りはずす



- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

7

お手入れのしかた

■ 番号灯

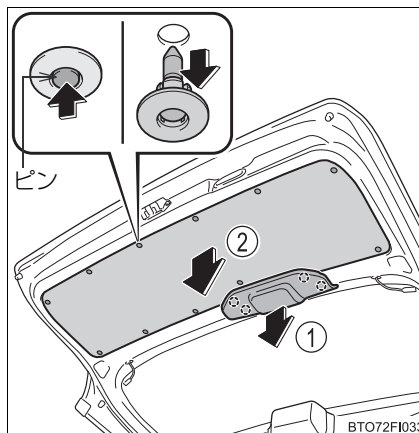
1 バックドアを開け、カバーと内張りを取りはずす

① カバー裏に固定具（4 個）があります。

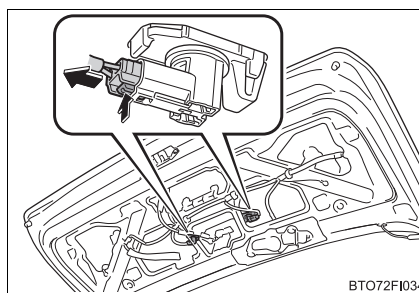
② ピンを押し込んで、クリップ（11 個）をはずします。

ピンを必要以上に強く押し込まないでください。ピンがクリップからはずれ、抜けなくなるおそれがあります。

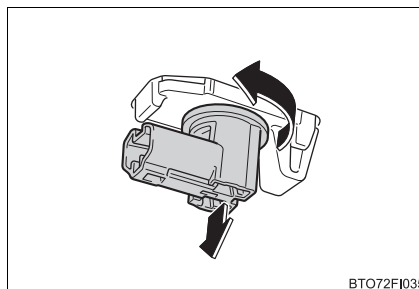
クリップをはずすときは、内張りが落下しないように、手で支えてください。



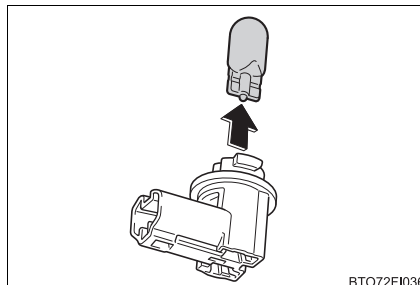
2 コネクターを取りはずす



3 ソケットを取りはずす



- 4 電球を取りはずす

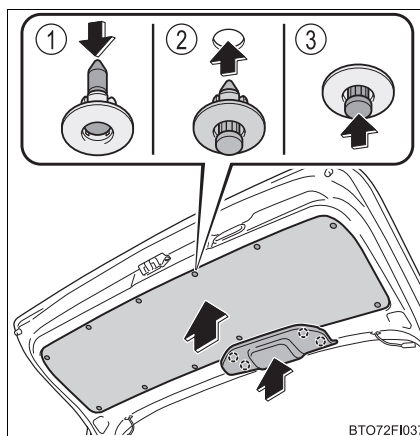


- 5 新しい電球を取り付け、ソケットを取り付ける

- 6 コネクターを取り付ける

- 7 内張りとカバーを取り付け、バックドアを閉める

- ① 押し込まれたピンを反対方向に押し、先端を出す
- ② クリップを挿し込む
- ③ ピンを押す



- サイド方向指示灯／非常点滅灯の電球が切れたときは
マツダ販売店で交換してください。

知識

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、マツダ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

警告

■ 電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万が一の場合には

8

8-1. まず初めに

- 故障したときは248
- 非常点滅灯
(ハザードランプ)249
- 発炎筒250
- 車両を緊急停止するには252

8-2. 緊急時の対処法

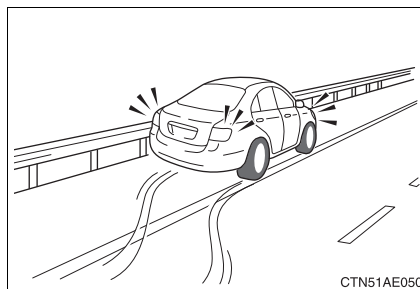
- けん引について253
- 警告灯がついたときは260
- パンクしたときは265
- エンジンが
かからないときは276
- バッテリーが
あがったときは277
- オーバーヒートしたときは ...281
- スタックしたときは284

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

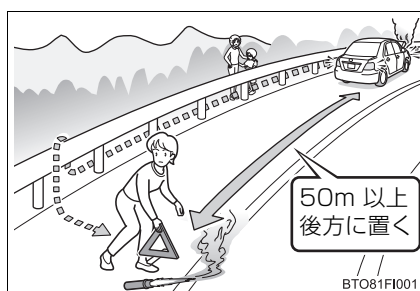
非常点滅灯（→ P. 249）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

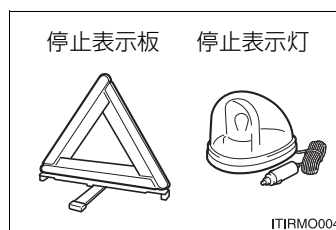
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 250）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、マツダ販売店にお問い合わせください。

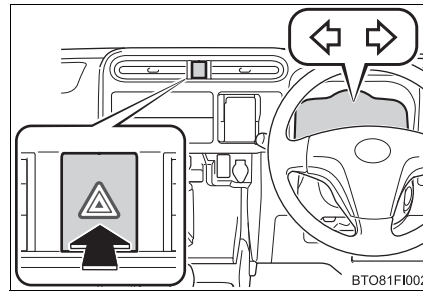


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

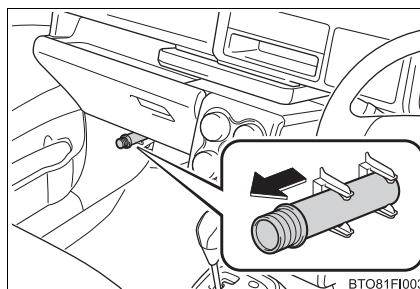
■非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

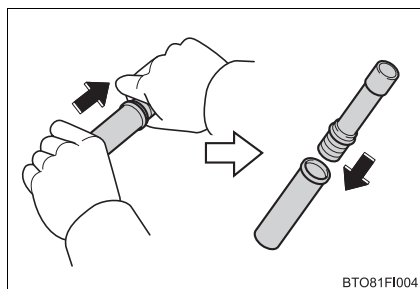
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
 (トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
 発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す

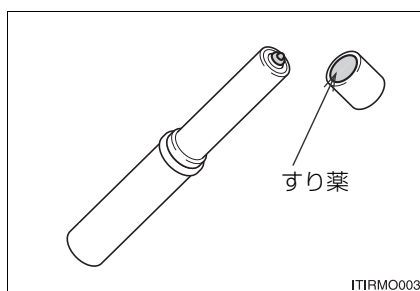


- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
 着火させる際は、筒先を顔や体に向け
 ないでください。



知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、マツダ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告**■ 発炎筒を使用してはいけない場所**

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

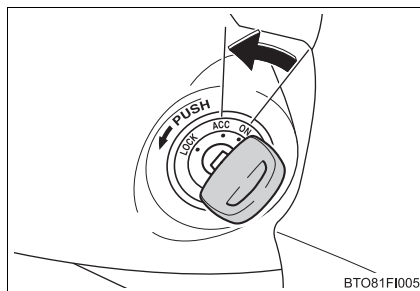
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトレバーをNに入れる
 - ▶ シフトレバーがNに入った場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 エンジンを停止する
 - ▶ シフトレバーがNに入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 4 エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

- ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

けん引について

けん引は、できるだけマツダ販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

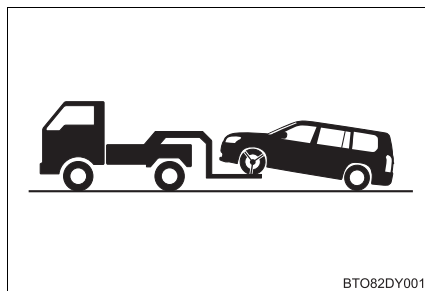
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、マツダ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音がする

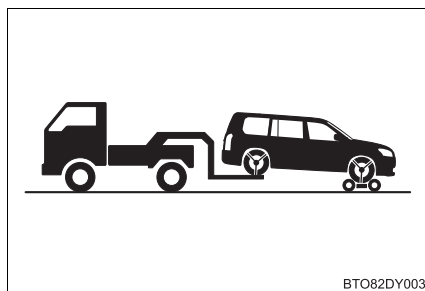
レッカー車でけん引するとき

- ▶ 前向きにけん引するときは (FF車)



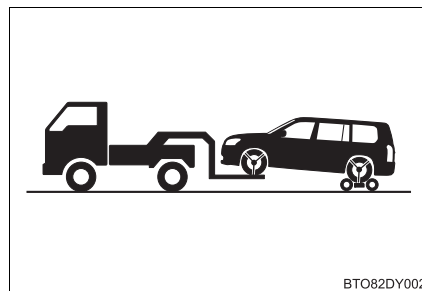
パーキングブレーキを解除する

- ▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

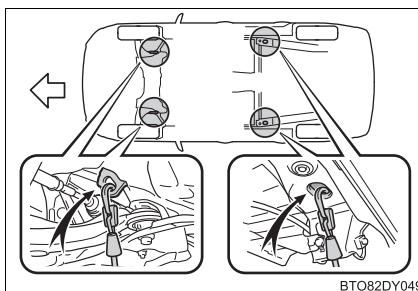
- ▶ 前向きにけん引するときは (4WD車)



台車を使用して後輪を持ち上げる

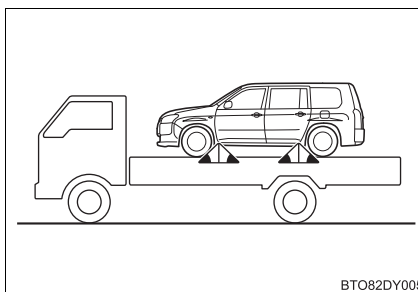
車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



BTO82DY049

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する



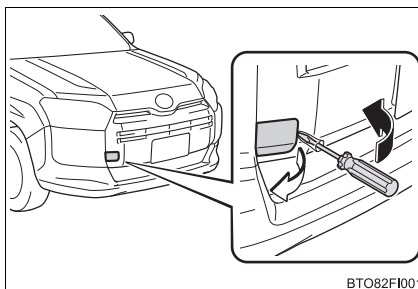
BTO82DY005

他車にけん引してもらうとき

1 けん引フックを取り出す (→ P. 266)

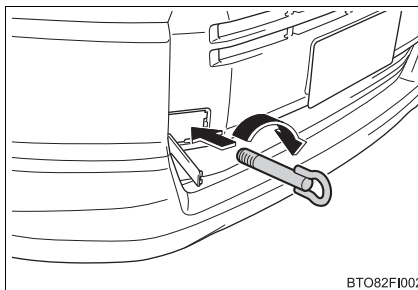
2 フタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



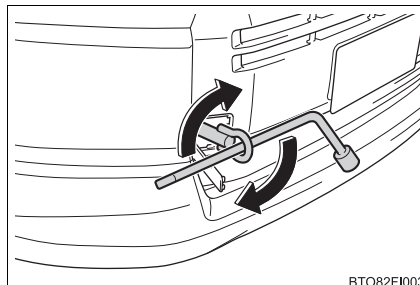
BTO82F1001

3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



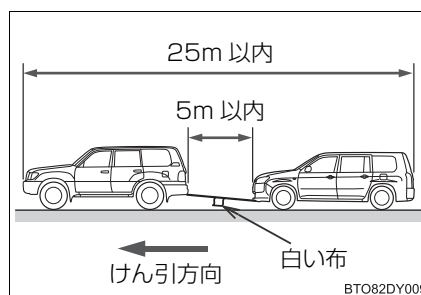
BTO82F1002

- 4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



- 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける
車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

- 6 ロープの中央に白い布を付ける
布の大きさ：
0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



- 7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける
エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを“ON”にしてください。
- 8 けん引される車両のシフトレバーをNにしてから、パーキングブレーキを解除する
けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。
シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 110

 知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

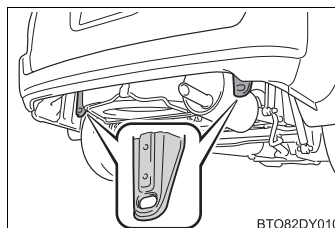
■ホイールナットレンチについて

工具袋に収納されています。(→ P. 266)

■輸送用フックについて

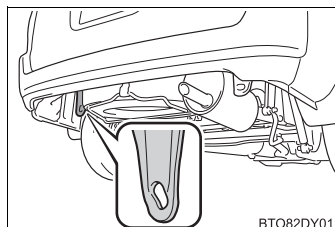
このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。

(寒冷地仕様車の助手席側は、緊急用フックとして使用することができます)



■緊急用フックについて (寒冷地仕様車の助手席側)

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。

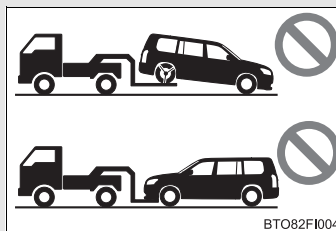


警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき**▶ FF 車**

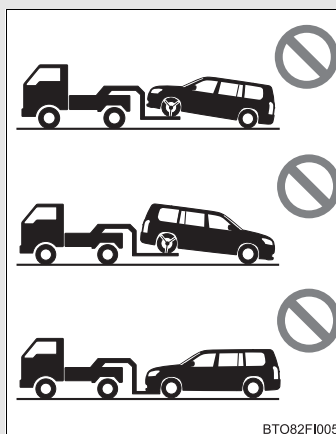
必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



BTO82FI004

▶ 4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



BTO82FI005

警告**■他車にけん引してもらうときの運転について**

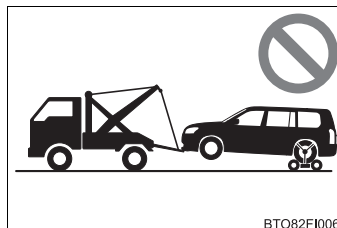
- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意**■レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**■車両運搬車に車を固縛するとき**

ケーブルなどを過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

 **注意****■ 車両の損傷を防ぐために**

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離 80m 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは**▶ FF 車**

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

▶ 4WD 車

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引して下さい。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ 輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■ 緊急用フックについて（寒冷地仕様車の助手席側）







次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。




- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。


警告灯がついたときは








警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯（警告ブザー ※1） ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	充電警告灯 充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店へ連絡してください。
	油圧警告灯（警告ブザー） エンジンオイルの圧力異常 → ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店へ連絡してください。
 (赤色)	高水温警告灯 エンジン冷却水高温異常 → ただちに安全な場所に停車し、「オーバーヒートしたときは」(→ P. 281) に従ってください。
	エンジン警告灯 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 ・ オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 → ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付シートベルトシステムの異常 → ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	<p>4輪アンチロック・ブレーキ・システム (4W-ABS) & ブレーキアシスト警告灯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4輪アンチロック・ブレーキ・システム (4W-ABS) の異常 ・ ブレーキアシストの異常 <p>→ ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>パワーステアリング警告灯 (警告ブザー)</p> <p>EPS (エレクトリックパワーステアリング) の異常</p> <p>→ ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>スリップ表示灯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 <p>ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) ・ TRC の作動時には、点滅します。(→ P. 166)</p> <p>→ ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。</p>

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	<p>プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）警告灯</p> <p>警告灯が点滅した場合（ブザーあり）： プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）の異常</p> <p>→ ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。</p> <p>警告灯が点滅した場合（ブザーなし）： 次の原因などによりプリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）が一時停止している可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前方センサー周辺のフロントウインドウガラスに汚れ（曇り、結露、凍結などを含む）や付着物がある <p>→ 汚れや付着物を取り除いてください。（→ P. 129）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前方センサー温度が作動範囲外 <p>→ センサーの周辺温度が下がるまでしばらくお待ちください。</p> <p>警告灯が点灯した場合： ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) システムまたはプリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）、もしくは両方が OFF になっています。</p> <p>→ ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム [横滑り防止機構] (DSC) システムとプリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）を ON にすると、プリクラッシュセーフティシステム（レーザーレーダー＋単眼カメラ方式）が利用可能になります。（→ P. 135, 168）</p>

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (黄色)	オートマチックハイビーム表示灯 オートマチックハイビームの異常 → ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。
 (黄色)	レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）表示灯 レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）システムの異常 → ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。
 (点滅)	アイドリングストップキャンセル表示灯★ アイドリングストップ機能の異常 (アイドリングストップ機能非作動時は点灯します。 → P. 159) → ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。
	ドライブスタートコントロール警告灯 警告灯が点滅した場合： ・ドライブスタートコントロールの異常 → ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。 警告灯が点灯した場合： ・アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれている ・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した → アクセルペダルから足を離してください。
	半ドア警告灯（警告ブザー ※2） いずれかのドアが確実に閉まっていない → 全ドアを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 7.5 L 以下になった → 燃料を補給する
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※3） 運転席シートベルトの非着用 → 運転席シートベルトを着用する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- ※1 **ブレーキ警告ブザー：**
ブレーキ液が不足しているときに車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。
- ※2 **半ドア走行時警告ブザー：**
いずれかのドアが確実に閉まっていない状態で走行し、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。
- ※3 **運転席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席シートベルトを非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席シートベルトを非着用のまま 24 秒が経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

 **知識****■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて**

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオ★の音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

 **警告****■ パワーステアリング警告灯が点灯したとき**

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 223 を参照してください)

警告

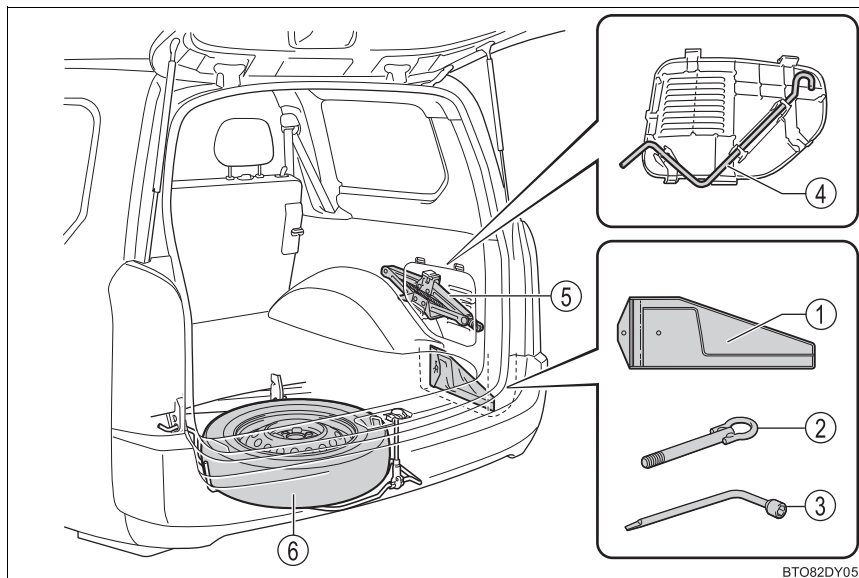
■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

スペアタイヤ・工具・ジャッキの位置



- | | |
|--------------|------------|
| ① 工具袋 | ④ ジャッキハンドル |
| ② けん引フック | ⑤ ジャッキ |
| ③ ホイールナットレンチ | ⑥ スペアタイヤ |

警告**■ ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

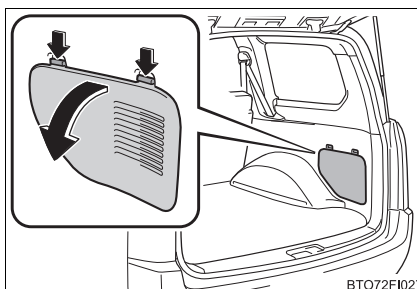
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

工具・ジャッキの取り出し方

- 1 ツメを押しながら、カバーを取りはずす

カバーの裏側にジャッキハンドルが取り付けられています。(→ P. 266)

裏側のスペースに工具袋が収納されています。(→ P. 266)

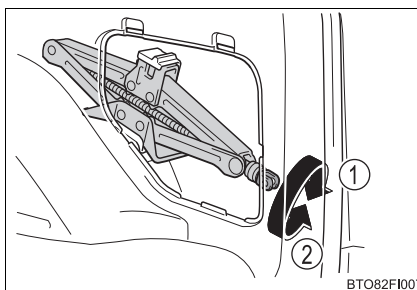


- 2 ジャッキをゆるめて取りはずす

- ① 締まる

- ② ゆるむ

使用後はもとの位置にもどし、確実に固定してください。



知識

■ 停止表示板の収納について

カバー裏側のスペースに停止表示板を収納することができます。

ただし、停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

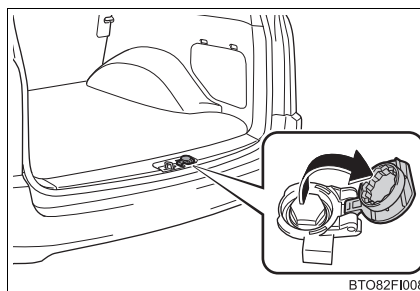
警告

■ カバー裏側のスペースについて

- カバー裏側のスペースには、換気用の弁が取り付けられています。次の理由から工具袋・停止表示板以外のものを収納しないでください。
 - ・ 荷物が弁をふさぎ、換気性能が悪化し、ドアの閉りが悪くなるおそれがあります。
 - ・ 荷物で弁が押し開かれたままの状態になり、車内に排気ガスが侵入したり水が浸入するおそれがあります。
- 工具袋は、収納スペースの最深部に横向きにして収納してください。

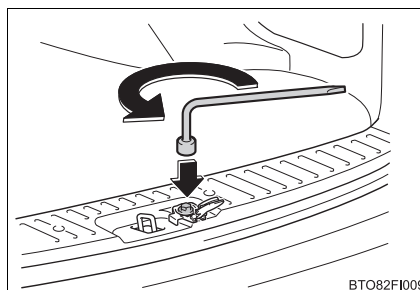
スペアタイヤの取り出し方

- 1 カバーを開ける



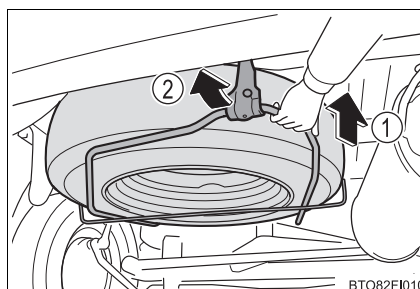
- 2 スペアタイヤ格納具がフックからはずせる程度にボルトをゆるめる

ボルトをゆるめすぎると、格納具が落下するおそれがあるため注意してください。



- 3 スペアタイヤ格納具を少し持ち上げ (①)、フックを手前に引いてはずす (②)

格納具が落下しないように、手でしっかり支えてください。



- 4 スペアタイヤ格納具を地面に降ろして、スペアタイヤを取り出す

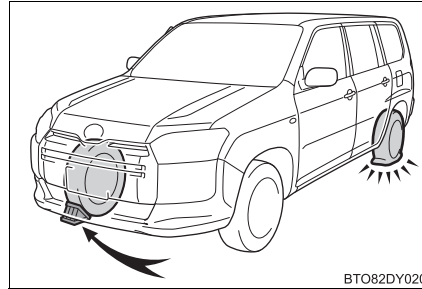
- 5 スペアタイヤ格納具をいったんもとにもどす

格納具をフックにかけ、ボルトを締め付けてもとにもどします。
 スペアタイヤを格納するときは：→ P. 274

パンクしたタイヤの取りはずし

1 輪止め※ をする

※ 輪止めは、マツダ販売店で購入することができます。

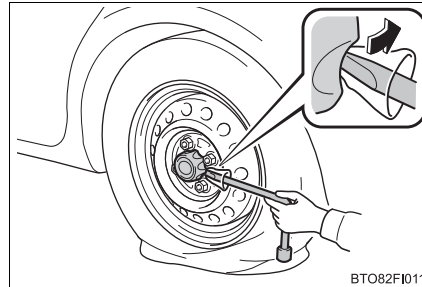


BT082DY020

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪のうしろ
	右側	左側後輪のうしろ
後輪	左側	右側前輪の前
	右側	左側前輪の前

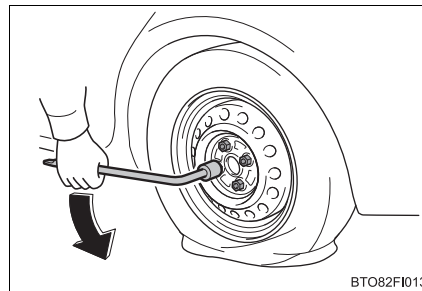
2 センターキャップをはずす

傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。



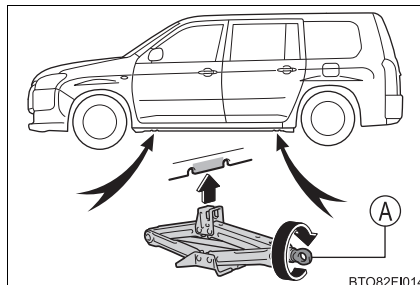
BT082FI011

3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

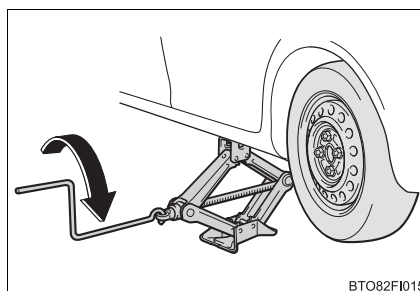


BT082FI013

- 4 ジャッキのA部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

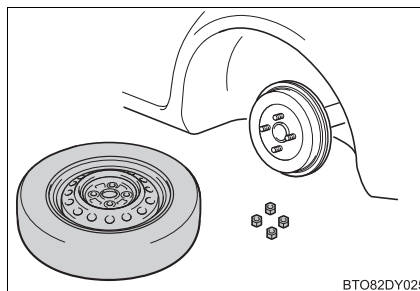


- 5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



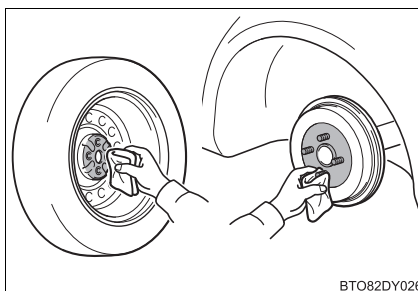
 **警告****■ タイヤ交換について**

- 次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ スペアタイヤは、ジャッキアップする前に格納具から取りはずしておく
 - ・ スペアタイヤ格納具を操作するときは、可動部分やスペアタイヤのあいだに手や足などを挟まないように注意する
 - ・ スペアタイヤ格納具を降ろす、または持ち上げるときは、足の上などに落とさないよう、手でしっかり支える
 - ・ スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す
 - ・ ホイールキャップは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
 - ・ 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ホイールの交換後はすぐに 103 N・m (1050 kgf・cm) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、マツダ販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける (→ P. 225)

タイヤの取り付け

- 1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

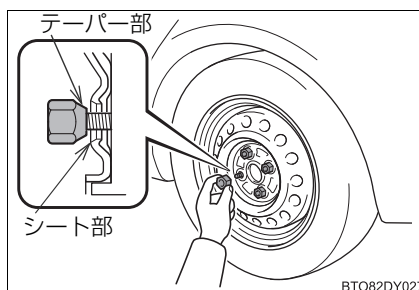


BT082DY026

- 2 タイヤを取り付け、タイヤがたつかない程度まで手でナットを仮締めする

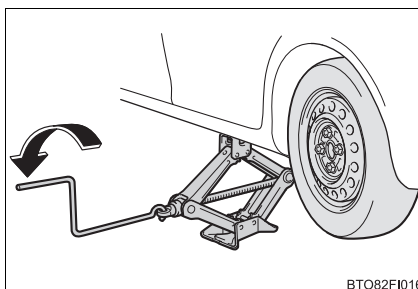
ホイール取り付けボルト・ナットのねじ部・ナットのテーパ部の汚れ、異物を取り除いてください。

ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。



BT082DY027

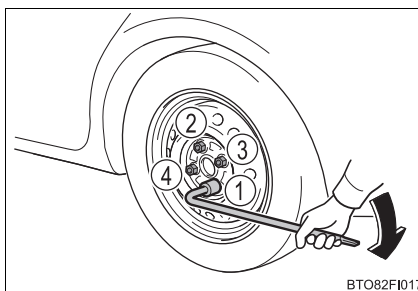
- 3 車体を下げる



BT082FJ016

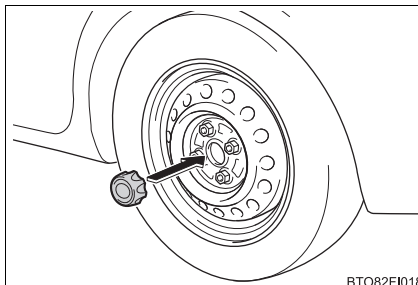
- 4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103 N・m (1050 kgf・cm)



BT082FJ017

- 5 センターキャップを取り付ける



BTO82F1018

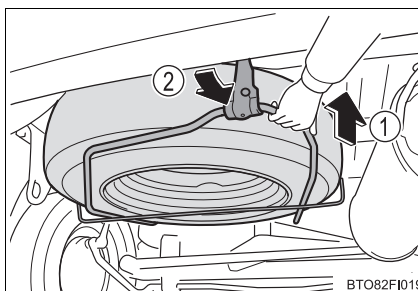
- 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを格納する

スペアタイヤの格納

- 1 スペアタイヤ格納具にタイヤを載せて持ち上げ (1)、フックをかけてボルトを締め付ける (2)

フックを格納具にかけるときは、はずした場所と同じ位置にかけてください。

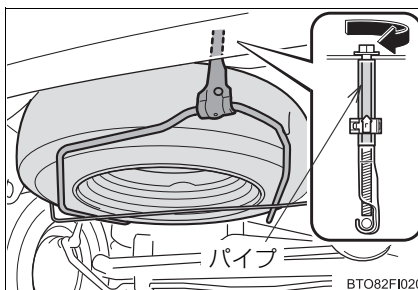
格納具に載せたタイヤががたつかないことを確認してください。



BTO82F1019

- 2 パイプががたつかなくなるまでボルトを締め付けたあと、さらに1/4回転以上締め付ける

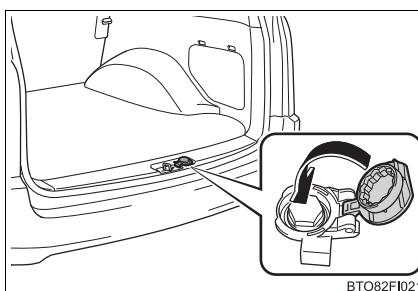
参考：締め付けトルク
16.2 N・m (165.3 kgf・cm) 以上



BTO82F1020

- 3 カバーを閉める

カバーを閉めたあとは、ボルト回転方向にゆさぶり、ボルトの先端に確実にハマっていることを確認してください。



BTO82F1021

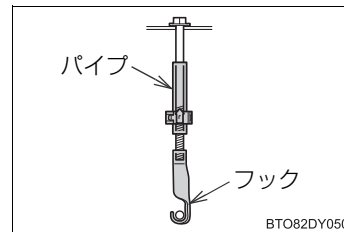
 知識

■ スペアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。(→ P. 293)

■ スペアタイヤ格納具のフックについて

スペアタイヤ格納具を降ろす際に、ボルトをゆるめすぎてフックが脱落した場合は、図のようにパイプが入っているのを確認してからフックを取り付けてください。

 注意

■ スペアタイヤを格納するときは

- タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。
- タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。
- インパクトレンチを使用する場合は、締めすぎに注意し、本締めはホイールナットレンチで行ってください。インパクトレンチで本締めを行うと、格納具を損傷するおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 105）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 105）に従って、エンジンをかけてください。

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 277）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 277）
処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、マツダ販売店にご連絡ください。

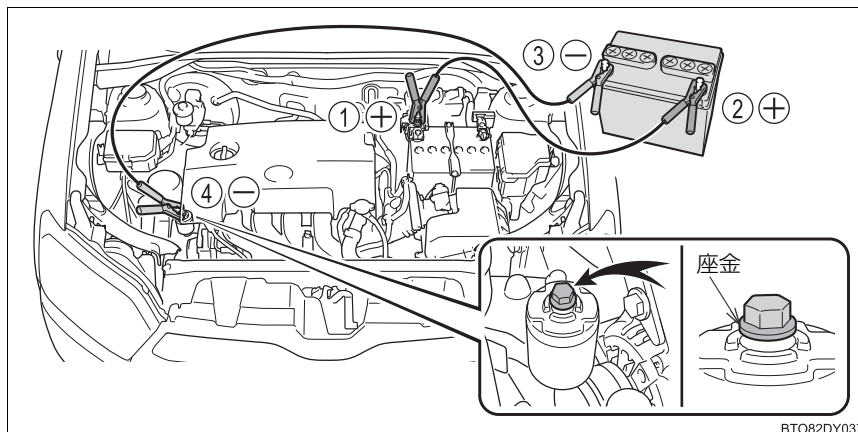
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

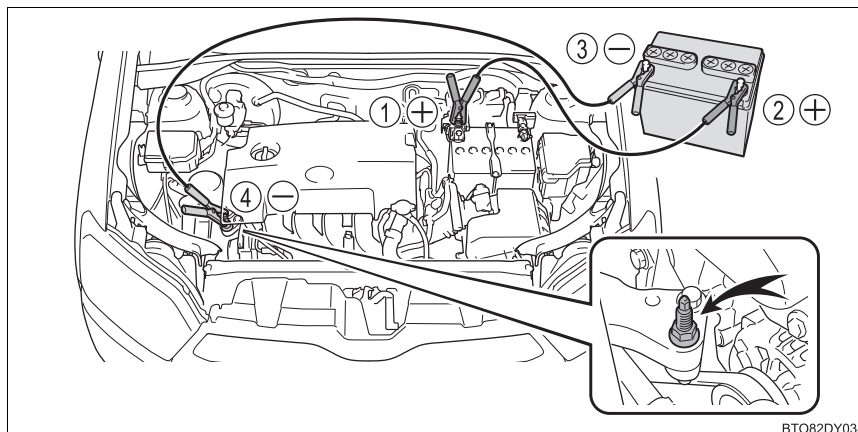
ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 ボンネットを開ける (→ P. 219)
- 2 バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

▶ FF 車



▶ 4WD 車



BTO82DY038

- ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの + 端子につなぐ
- ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの + 端子につなぐ
- ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの - 端子につなぐ
- ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ
FF 車：ボルトの座金部に確実に間違いなくつないでください。
- ③ 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
- ④ 救援車のエンジン回転を維持したまま、自車のエンジンをかける
- ⑤ 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

 知識**■ バッテリーあがり時の始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンが停止しているときは、ランプやオーディオ★の電源を切ってください。
(アイドリングストップ機能装着車は、システムによるエンジン停止中を除く)
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。
(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■ バッテリーがあがったときの留意事項 (アイドリングストップ機能装着車)

バッテリーがあがったあと、またはバッテリー端子をはずしたあとは、約 5 ～ 60 分間、アイドリングストップ機能が作動しないことがあります。

■ バッテリーの交換について (アイドリングストップ機能装着車)

装着されているバッテリーは、アイドリングストップ機能専用品です。Q-55 またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。
適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリー保護のためにアイドリングストップ機能の作動が制限されます。さらにバッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。
詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために**


バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ブースターケーブルは + 側と一側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上に、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

 **注意****■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯（赤色）（→ P. 48）が点滅または点灯したり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

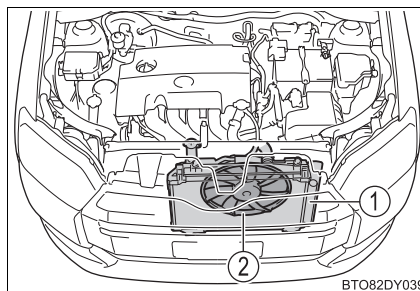
- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

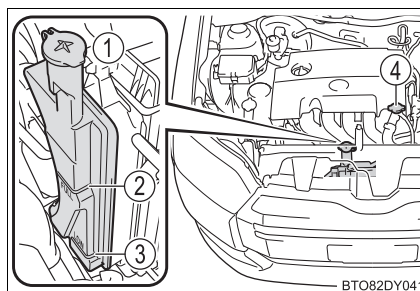
- ① ラジエーター
- ② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにマツダ販売店に連絡してください。



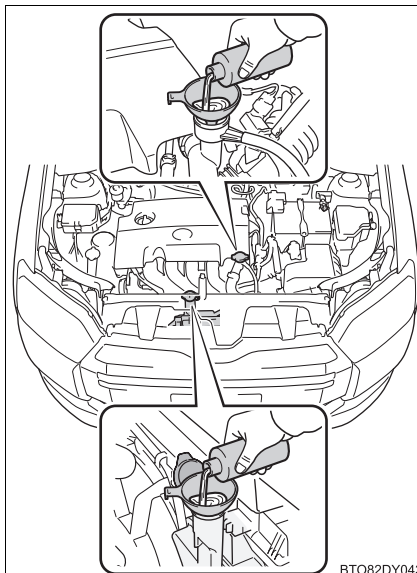
- 4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

- ① リザーバータンク
- ② “FULL”（上限）
- ③ “LOW”（下限）
- ④ ラジエーターキャップ



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、マツダ販売店に連絡する


ファンが作動している場合：
最寄りのマツダ販売店で点検を受ける

 **警告****■ エンジンルームを点検するとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

 **注意****■ 冷却水を入れるとき**

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の方法で脱出してください。

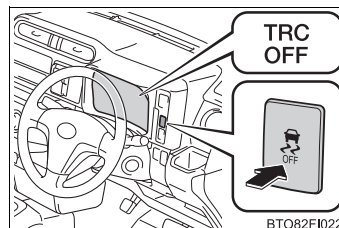
- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにして、エンジンを停止する
- 2 前輪周辺の土や雪を取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーをDまたはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいときは



を押してTRCをOFFにしてください。



警告

■脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 **注意****■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報

9

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料・
オイル量など)288

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧295

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。マツダ車には最も適したマツダ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	50

※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L] (参考値 ※1)	
	オイルのみ交換	オイルとオイル フィルター交換
純正モーターオイルゴールデンECO SN 0W-20※2 —API SN, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 純正モーターオイルゴールデン SN 0W-20※2 —API SN, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 純正モーターオイルゴールデン SN 5W-30 —API SN, ILSAC GF-5, SAE 5W-30	3.4	3.7

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

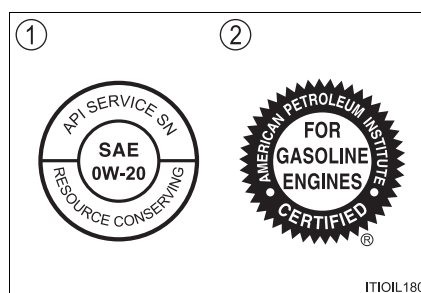
※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。

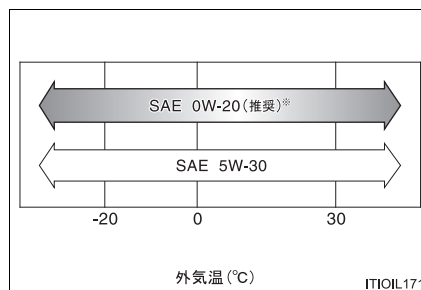
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサックサーティフィケーション) マークが付いています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



* 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について (例として 0W-20 で説明します) :

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い (数値が大きい) オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% - 12℃ 濃度 50% - 35℃	5.0

オートマチックトランスミッション (CVT)

指定銘柄	駆動方式	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正 CVT フルード FE	FF	7.47
	4WD	7.88

※ 交換が必要な際はマツダ販売店にご相談ください。

トランスファー (4WD 車)

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.45

リアディファレンシャル (4WD 車)

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	1.7

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
純正ブレーキフルード BF-3 スカイアクティブハイブリッド (DOT-3)

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間*	76

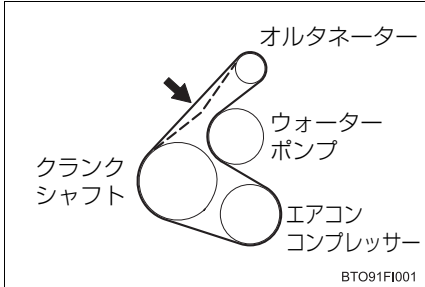
* エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 [回数]
踏みしろ 操作力 300 N (30.6 kgf) のときのノッチ* 数	10 ~ 13

* ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度 (“カチッ” という音) のことです。

V リブドベルト

項目	駆動方式	基準値 [mm]
たわみ量  オルタネーター ウォーターポンプ エアコンコンプレッサー クランクシャフト BTO91FI001	FF	自動調整式
	4WD	12.5 ~ 13.5
押力 98 N (10 kgf) (冷間時)		

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
2.3

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイール サイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)			
		前輪		後輪	
		空荷時	積荷時 [*]	空荷時	積荷時 [*]
155/80R14 88/86N LT	14×5J	220 (2.2)	240 (2.4)	▶FF車 220 (2.2) ▶4WD車 230 (2.3)	290 (2.9)

* 100kg 以上または 4 名乗車以上

電球 (バルブ) *

電球		W (ワット) 数
車外	ヘッドランプ (バルブタイプ: H4)	60 / 55
	車幅灯	5
	フロント方向指示灯 / 非常点滅灯	21
	サイド方向指示灯 / 非常点滅灯	5
	制動灯 / 尾灯	21 / 5
	リア方向指示灯 / 非常点滅灯	21
	後退灯	16
	リアフォグランプ★	21
	ハイマウントストップランプ	21
	番号灯	5
車内	フロントルームランプ	8
	リアルームランプ	8

* 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
NCP160M	1NZ-FE (1.5L ガソリン)	FF (前輪駆動)
NCP165M		4WD (4輪駆動)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてマツダ販売店で作動内容を変更することができます。また、ボタン操作により設定を変更することができる機能もあります。

車両カスタマイズ設定一覧

- ① 車両側のボタン操作で設定変更可能
- ② マツダ販売店で設定変更可能

■ メーター (→ P. 58)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
エコドライブインジケータランプの作動	ON	OFF	○	—

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→ P. 115)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ライトセンサーの感度	レベル3	レベル1~5	—	○
暗さを検知してからランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	○

■ レーンディパーチャーアラート (車線逸脱警報) (→ P. 58, 146)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
車線逸脱時の警報ブザーが鳴る感度 (警報感度)	高い	普通	○	—

■ 先行車発進告知機能 (→ P. 58, 155)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
告知機能	ON	OFF	○	—
告知タイミング	普通	早い	○	—
		遅い		

■ アイドリングストップ機能★ (→ P. 58, 157)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
アイドリングストップ時間割り込み表示	ON	OFF	○	—

■ イルミネーション (→ P. 193)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
フロントルームランプの消灯までの時間	15 秒	7.5 秒	—	○
		30 秒	—	○
解錠時のフロントルームランプの作動	あり	なし	—	○
エンジンスイッチ “LOCK” 後のフロントルームランプの作動	あり	なし	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
(症状別さくいん).....298
車から音が鳴ったときは
(音さくいん)301
アルファベット順さくいん.....302
五十音順さくいん304

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、マツダ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- キーをなくした場合、マツダ販売店でマツダ純正の新しいキーを作ることができます。（→ P. 65）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 232）
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 68）




リアドアが開かない

- チャイルドブローフがかかっていませんか？
チャイルドブローフがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドブローフを解除してください。（→ P. 68）

故障かな？と思ったら

 **エンジンがかからない**

- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 105）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 106）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 277）

 **ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーが P から動かない**

- エンジンスイッチの位置が “ON” になっていますか？
エンジンスイッチの位置が “ON” でブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 110）

 **エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった**


- 盗難防止のため、キーをエンジンスイッチから抜くとロックされます。（→ P. 105）

 **パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない
（助手席または後席パワーウィンドウ装着車）**

- パワーウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
パワーウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→ P. 91）

 **警告音が鳴りだした**

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 301）をご確認ください。

 **警告灯が点灯または点滅したとき**

- 警告灯が点灯または点滅したときは、P. 260 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→ P. 265）



立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 284）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／車から降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	エンジンスイッチにキーが挿してある	P. 106
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 115

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 264
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 112
	運転席のシートベルトを着用していない	P. 264
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 99
前方の障害物と衝突しそうになったとき	プリクラッシュセーフティシステム（レーザレーダー＋単眼カメラ方式）が作動した	P. 131
車線から逸脱したとき	レーンディパーチャーアラート（車線逸脱警報）を使用している	P. 146
前の車が発進しても停車し続けたとき	先行車発進告知機能が作動した	P. 155

アルファベット順さくいん

4WD	
(フォーホイールドライブ)	165, 294
A/C	
(エアコン)	186
ACC	
(アクセサリ)	105
ECO	
(エコノミー/エコロジー)	58, 96
EDR	
(イベントデータレコーダー)	8
EPS	
(電動リックパワーステアリング)	165, 261
FF	
(フロントエンジンフロントドライブ)	294
ILSAC CERTIFICATION	
(イルサックサーティフィケーション)	290
INT	
(インターミッテント)	118
SRS	
(サブリメンタルレストレイントシステム)	29, 260

五十音順さくいん

あ

アースポイント (バッテリーあがりの処置).....	277
アイドリングストップ機能.....	157
アイドリングストップ時間.....	56
アイドリングストップ キャンセルスイッチ.....	159
アイドリングストップ キャンセル表示灯.....	159, 263
アイドリングストップ機能....	157
アイドリングストップ 表示灯.....	157
アウトミラー (ドアミラー)	88
操作.....	88
格納のしかた.....	88
ヒータードアミラー.....	188
アクセサリモード.....	105
アンテナ	
ラジオ.....	184

い

イグニッションスイッチ (エンジンスイッチ)	
位置の切りかえ.....	105
エンジンのかけ方.....	105
位置交換 (タイヤローテーション).....	223
イベントデータレコーダー (EDR).....	8
イルミネーテッドエントリー システム.....	193
インジケーター (表示灯).....	50
インナーミラー.....	86
インパネテーブル.....	209
インパネトレイ.....	201

う

ウインカー (方向指示灯).....	111
電球 (バルブ) の 交換.....	241, 242
方向指示レバー.....	111
ワット数.....	294
ウインドウ.....	90
ウォッシュャー.....	118, 120
パワーウインドウ.....	90
リアウインドウ デフォッガー.....	188
ウォーニングランプ (警告灯).....	49, 260

ウォッシャー	118, 120
液の補給	222
スイッチ	118, 120
タンク容量	293
冬の前の準備・点検	173
動けなくなったときは (スタック)	284
運転	94
雨の日の運転	95
運転を補助する装置	165
環境に配慮した運転	96
寒冷時の運転	173
正しい運転姿勢	22
手順	94
運転席シートベルト	
非着用警告灯	263
運転席ロアポケット	205

え

エアコン	186
曇り取り (フロント ウインドウガラス)	188
フィルターの交換	229
マニュアルエアコン	186
エアバッグ	29
SRS エアバッグ警告灯	260
お子さまのための注意	30
改造・廃棄	32
作動条件	33
正しい姿勢	22
配置	29

AUX 端子	182
エコドライブインジケーター ランプ	58, 96
エレクトリックパワー ステアリング (EPS)	165
エンジン	
エンジンがかからない (エンジンが 始動できない)	276
エンジン警告灯	260
エンジンスイッチ	105
エンジンの始動方法	105
オーバーヒート	281
かけ方	105
緊急時の停止方法	252
ボンネット	219
エンジンオイル	289
冬の前の準備・点検	173
メンテナンスデータ	289
油圧警告灯	260
容量	289
エンジンスイッチ	
位置の切りかえ	105
エンジンのかけ方	105
エンジンフード (ボンネット)	
開け方	219

お

オイル（エンジンオイル）	289
応急用タイヤ	265
空気圧	293
交換方法	265
オーディオ	178
アンテナ	184
AUX 端子	182
オーディオの種類	178
音質調整	179
外部入力端子	182
ラジオ	180
オートマチックトランス	
ミッション（CVT）	108
シフトレバーがシフト	
できない	110
オートマチックハイビーム	151
オートライトシステム	
（自動点灯・消灯機能）	113
オーバーヒート	281
オープナー	
給油扉	124
ボンネット	219

オープントレイ	205
お子さまを乗せるとき	35
パワーウィンドウロック	
スイッチ	91
エアバッグ	30
お子さまの安全のために	35
キーの電池	233
子供専用シート	36
シートの取り扱いに	
関する警告	80
シートベルトの着用	26
チャイルドシートの取り付け	42
チャイルドブルーフ	68
発炎筒の取り扱いに	
関する警告	251
バックドアに関する警告	72
バッテリーに関する警告	280
パワーウィンドウに	
関する警告	92
オドメーター	
機能	56
表示切りかえボタン	55

か

カードホルダー.....	206
カーペット	
洗淨.....	217
フロアマットの取り付け方.....	20
外気温度表示.....	54
外装の電球（バルブ）	
交換要領.....	237
ワット数.....	294
開閉式ワイドフリーラック.....	202
買い物フック.....	197
カスタマイズ機能.....	58, 295
ガソリンスタンドでの情報.....	320
型式.....	294
カップホルダー.....	203
カメラ	
衝突回避支援パッケージ.....	127
ガラスの曇り取り（リア	
ウインドウデフォグガー）.....	188
ガレージジャッキ.....	221
冠水路走行.....	103
寒冷時の運転.....	173

き

キー.....	64
エンジンがかからない	
ときは.....	276
キーナンバープレート.....	64
キーの構成.....	64
キーレスエントリー.....	64
キーをなくした.....	65
電池が切れた.....	232
リモコンキー.....	64
キーレスエントリー	
ワイヤレスドアロック.....	64
給油.....	122
給油のしかた.....	122
メンテナンスデータ.....	288
緊急時シートベルト固定機構.....	26
緊急時の対処	
エンジンが始動できない.....	276
オーバーヒートした.....	281
キーの電池が切れた.....	232
キーをなくした.....	65
緊急用フック.....	256
警告灯がついた.....	260
けん引.....	253
故障したときは.....	248
車両を緊急停止する.....	252
スタックした.....	284
発炎筒.....	250
バッテリーがあがった.....	277
パンクした.....	265
非常点滅灯	
（ハザードランプ）.....	249
緊急ブレーキシグナル.....	166

く

空気圧 (タイヤ)..... 293
 空調
 フィルターの交換 229
 マニュアルエアコン 186
 区間距離計 (トリップメーター)
 機能 56
 表示切りかえボタン 55
 曇り取り
 フロントウインドウガラス... 188
 リアウインドウ
 デフォッガー 188
 クラクション (ホーン) 84
 クリアランスランプ (車幅灯) ... 113
 スイッチ 113
 電球 (バルブ) の交換..... 240
 ワット数..... 294
 クリップ
 フロアマット 20
 グローブボックス..... 202

け

警音器 (ホーン)..... 84
 計器類 (メーター)..... 52
 警告灯/表示灯 48
 マルチインフォメーション
 ディスプレイ 54
 メーター 52

警告灯.....49, 260
 アイドリングストップ機能 ...263
 SRS エアバッグ260
 エンジン260
 オートマチックハイビーム ...263
 高水温260
 シートベルト非着用263
 充電.....260
 スリップ261
 ドライブスタート
 コントロール.....263
 TRC261
 燃料残量263
 パワーステアリング261
 半ドア263
 ヒルスタートアシスト
 コントロール.....261
 プリクラッシュセーフティ
 システム (レーザーレーダー +
 単眼カメラ方式)262
 プリテンショナー260
 ブレーキ260
 油圧260
 4 輪アンチロック・ブレーキ・
 システム (4W-ABS) &
 ブレーキアシスト261
 レーンディパーチャー
 アラート (車線逸脱警報)263

警告ブザー

アイドリングストップ機能	162
キー抜き忘れ	106
シートベルト非着用	263
車線逸脱警報	146
衝突警報	131
先行車発進告知機能	155
パーキングブレーキ	
未解除走行時	112
パワーステアリング	261
半ドア	263
ブレーキ	260
油圧	260
ランプ消し忘れ	115
リバース	109
けん引	253
けん引のしかた	253
フック	254

こ

交換	
エアコンフィルター	229
キーの電池	232
タイヤ	265
電球 (バルブ)	237
ヒューズ	234
工具 (ツール)	266
光軸調整ダイヤル	114
航続可能距離	57
後退灯 (バックアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換	242
ワット数	294
コートフック	211
子供専用シート	36
選択方法	36
取り付け方	42
コンセント	208
コンソールトレイ	205

さ

サイド方向指示灯	111
方向指示レバー	111
ワット数	294
サイドミラー (ドアミラー)	88
操作	88
格納のしかた	88
ヒータードアミラー	188
坂道発進補助機能	159
三角表示板収納スペース	268
サンバイザー	206

し

シート	75
子供専用シート	36
正しい運転姿勢	22
調整	75
手入れ	217
ヘッドレスト	82
リアシートの前倒し	76
シートベルト	24
お子さまの着用	26
緊急時シートベルト固定機構	26
シートベルトインフォ	
メーション表示灯	51
シートベルト非着用警告灯	263
正しく着用するには	24
着け方・はずし方	24
手入れ	217
妊娠中の方の着用	27
シートベルト	
インフォメーション表示灯	51
シートベルト非着用警告灯	263
シートベルトプリテンショナー	25
機能	25
プリテンショナー警告灯	260
CVT	108
シフトレバーがシフト	
できない	110
室内灯（ルームランプ）	192
始動のしかた	105
シフトポジション	108

シフトレバー	108
シフトロックシステム	
（解除ボタン）	110
操作	108
リバース警告ブザー	109
シフトレバーがシフト	
できないときは	110
シフトロックシステム	109
締め付けトルク（ホイール）	273
車線逸脱警報機能	146
ジャッキ	
ガレージジャッキ	221
車載ジャッキ	266
ジャッキハンドル	266
車幅灯	113
電球（バルブ）の交換	240
ランプスイッチ	113
ワット数	294
車両型式	294
車両仕様（スペック）	288
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	252
収納装備	194
手動光軸調整ダイヤル	114
ジュニアシート	37
瞬間燃費	56
仕様（車両仕様）	288

す

水温

高水温警告灯	260
低水温表示灯	51

スイッチ

アイドリングストップ機能....	159
イグニッション	105
ウォッシャー	118, 120
エンジンスイッチ	105
オーディオ	178
オートマチックハイビーム....	151
ダイナミック・スタビリティ・ コントロールシステム [横滑り防止機構]	
(DSC) OFF	167
ドアミラー	88
ドアロック	67
ハザードランプ	249
パワーウインドウ	90
パワーウインドウロック.....	91
非常点滅灯 (ハザードランプ).....	249
フォグランプ	116
ブリクラッシュ セーフティシステム (レーザーレーダー＋ 単眼カメラ方式)	135
方向指示レバー	111
ホーン (警音器)	84
メーター表示切りかえ.....	55
ランプ.....	113
リアウインドウ デフォッガー	188
ルームランプ	193
レーンディパーチャー アラート (車線逸脱警報) ...	148
ワイパー.....	118, 120

スターター

エンジンの始動.....	105
スターターがまわらない.....	276
スタック.....	284
ステアリングホイール (ハンドル) 位置調整	84
ステアリングロック 解除できないとき.....	106
ストップランプ (制動灯) 電球 (バルブ) の交換.....	242
ワット数	294
スノータイヤ (冬用タイヤ).....	173
スピードメーター	53
スペアタイヤ	265
空気圧	293
交換方法	265
スペック (車両仕様)	288
スモールランプ (車幅灯).....	113
電球 (バルブ) の交換.....	240
ランプスイッチ	113
ワット数	294

せ

清掃	214, 217
外装	214
シートベルト	217
内装	217
制動灯	
電球 (バルブ) の交換	242
ワット数	294
積算距離計 (オドメーター)	
機能	56
表示切りかえボタン	55
先駆車発進告知機能	155
センサー	
オートマチックハイビーム	127
先駆車発進告知機能	127
前方センサー	127
ブリクラッシュセーフティ	
システム (レーザーレーダー +	
単眼カメラ方式)	127
ライトセンサー	115
レーンディパーチャー	
アラート	127
洗車	214
前照灯 (ヘッドランプ)	113
オートマチックハイビーム	151
手動光軸調整ダイヤル	114
電球 (バルブ) の交換	239
ライトセンサー	115
ランプ消し忘れ警告ブザー	115
ランプ消し忘れ防止機能	115
ランプスイッチ	113
ワット数	294

センターコンソールトレイ	205
センタートレイ	
(ドリンクホルダー付)	196
照明	192
センターボックス	202
前方センサー	127

そ

速度計	
(スピードメーター)	53

た

ターンシグナルランプ	
(方向指示灯)	111
電球 (バルブ) の	
交換	241, 242
方向指示レバー	111
ワット数	294
ダイナミック・スタビリティ・	
コントロールシステム	
[横滑り防止機構] (DSC)	165
タイヤ	223
空気圧	227, 293
交換	265
締め付けトルク	273
チェーン	173
点検	223
パンクしたときは	265
冬用タイヤ	173
ホイールサイズ	293
ローテーション	
(位置交換)	223
タイヤが空まわりする	
(スタックした)	284
タイヤチェーン	173

ち

チェーン (タイヤチェーン)	173
チケットホルダー	206
チャイルドシート	36
選択方法	36
取り付け方	42
チャイルドブルーフ	68
駐車ブレーキ	
(パーキングブレーキ)	112
操作	112
冬季の注意	174
パーキングブレーキ表示灯	50
未解除走行時	
警告ブザー	112
メンテナンスデータ	292

つ

ツール (工具)	266
----------------	-----

て

停止表示板収納スペース	268
ディファレンシャル	291
手入れ	214, 217
外装	214
シートベルト	217
内装	217
テーブル	209
テールランプ (尾灯)	113
電球 (バルブ) の交換	242
ランプスイッチ	113
ワット数	294
デッキサイドポケット	211
デフォッガー (リアウインドウ デフォッガー)	188

電球 (バルブ)

交換要領 (外装バルブ)	237
ワット数	294
点検基準値	
(メンテナンスデータ)	288
電池交換 (キー)	232

と

ドア	66
チャイルドブルーフ	68
ドアガラス	90
ドアロックスイッチ	67
バックドア	70
半ドア警告灯	263
リモコンキー	66
ロックレバー	67
ドアガラス	90
ドアポケット	205
ドアミラー	88
操作	88
格納のしかた	88
ヒートッドドアミラー	188
時計	
時刻を設定する	207
表示	54

ドライブスタート	
コントロール.....	95, 109
トラクションコントロール	
(TRC).....	165
トランスミッション	
オートマチックトランス	
ミッション (CVT).....	108
メンテナンスデータ	291
トリップメーター	
機能	56
表示切りかえボタン	55
ドリンクホルダー.....	196

な

内装	
収納装備.....	194
手入れ.....	217

に

荷物	
積むときの注意	104
リアシートの前倒し	76

ぬ

ぬかるみにはまった	
(スタック).....	284

ね

燃費	
瞬間燃費	56
平均燃費	56
燃料	288
ガソリンスタンドでの情報 ...	320
給油.....	122
種類.....	288
燃料残量警告灯.....	263
容量.....	288
燃料計.....	54

は

パーキングブレーキ	112
操作.....	112
冬季の注意	174
パーキングブレーキ表示灯	50
未解除走行時	
警告ブザー.....	112
メンテナンスデータ	292
排気ガス.....	45
ハイビーム (ヘッドランプ).....	113
オートマチックハイビーム ...	151
電球 (バルブ) の交換	239
ランプスイッチ.....	113
ワット数.....	294
ハイマウントストップランプ	
電球 (バルブ) の交換.....	243
ワット数.....	294
ハザードランプ (非常点滅灯) ...	249
スイッチ	249
電球 (バルブ) の	
交換	241, 242
ワット数.....	294

挟み込み防止機能	
運転席ドアガラス	92
発炎筒	250
バックアップランプ（後退灯）	
電球（バルブ）の交換	242
ワット数	294
バックドア	70
バックドアハンドル	71
半ドア警告灯	263
バッテリー	
バッテリーがあがった	277
バルブ（電球）	
交換要領（外装のバルブ）	237
ワット数	294
パワーウィンドウ	90
パワーウィンドウロック	
スイッチ	91
操作	90
挟み込み防止機能	92
パワーステアリング	165
パワーステアリング警告灯	261
パンクした	265
番号灯（ライセンスプレート	
ランプ）	113
電球（バルブ）の交換	244
ランプスイッチ	113
ワット数	294
ハンドル	
（ステアリングホイール）	84
位置調整	84

ひ

ヒーター	
マニュアルエアコン	186
ヒータードアミラー	188
非常点滅灯（ハザードランプ）	249
スイッチ	249
電球（バルブ）の	
交換	241, 242
ワット数	294
尾灯（テールランプ）	113
電球（バルブ）の交換	242
ランプスイッチ	113
ワット数	294
ヒューズ	234
表示灯	50
日よけ（サンバイザー）	206
ヒルスタートアシスト	
コントロール	165

ふ

ブースターケーブルの	
つながり方	277
フォグランプ	116
スイッチ	116
電球（バルブ）の交換	242
ワット数	294

ブザー	
アイドリングストップ機能.....	162
キー抜き忘れ警告.....	106
シートベルト非着用警告.....	263
車線逸脱警報.....	146
衝突警報.....	131
先行車発進告知機能.....	155
パーキングブレーキ	
未解除走行時警告.....	112
パワーステアリング警告.....	261
半ドア警告.....	263
ブレーキ警告.....	260
油圧警告.....	260
ランプ消し忘れ警告.....	115
リバース警告.....	109
フック	
買い物フック.....	197
けん引フック.....	254
コートフック.....	211
フロアマット固定フック.....	20
フューエルメーター（燃料計）.....	54
フューエルリッド（給油口）	
給油のしかた.....	122
冬の前の準備（寒冷時の運転）...	173
冬用タイヤ.....	173
ブリクラッシュセーフティ	
システム（レーザーレーダー＋	
単眼カメラ方式）.....	131
ブレーキ	
パーキングブレーキ.....	112
ブレーキ警告灯.....	260
メンテナンスデータ.....	292
ブレーキアシスト.....	165
4輪アンチロック・ブレーキ・	
システム（4W-ABS）＆	
ブレーキアシスト警告灯.....	261
機能.....	165
ブレーキ付近から	
キーキー音が聞こえる.....	99
ブレーキフルード.....	292
フロアマット.....	20
フロントシート.....	75
正しい運転姿勢.....	22
調整.....	75
手入れ.....	217
ヘッドレスト.....	82
フロント方向指示灯.....	111
電球（バルブ）の交換.....	241
方向指示レバー.....	111
ワット数.....	294
フロントルームランプ.....	193
^	
平均燃費.....	56
ヘッドランプ.....	113
オートマチックハイビーム.....	151
手動光軸調整ダイヤル.....	114
電球（バルブ）の交換.....	239
ライトセンサー.....	115
ランプ消し忘れ警告ブザー.....	115
ランプ消し忘れ防止機能.....	115
ランプスイッチ.....	113
ワット数.....	294
ヘッドレスト.....	82
ベビーシート.....	37

ほ

ホイール	
交換 (タイヤ).....	265
メンテナンスデータ	293
ホイールナットレンチ	266
方向指示灯	111
電球 (バルブ) の	
交換.....	241, 242
方向指示レバー	111
ワット数.....	294
ホーン (警告器).....	84
ポケット	205
保証	9
ボトルホルダー.....	203
ボンネット	
開け方.....	219

ま

マニュアルエアコン.....	186
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	54
アイドリングストップ機能....	163
カスタマイズモード	58
先行車発進告知機能	155
トリップ	
インフォメーション.....	56
プリクラッシュセーフティ	
システム (レーザーレーダー +	
単眼カメラ方式)	135
レーンディパーチャー	
アラート (車線逸脱警報) ...	148
マルチホルダー.....	198

み

ミラー	
アウターミラー.....	88
インナーミラー.....	86
ドアミラー	88
ヒートドドアミラー.....	188

め

メーター (計器類)	52
カスタマイズモード.....	58
警告灯	49, 260
照度調整	57
表示切りかえボタン	55
表示灯	50
マルチインフォメーション	
ディスプレイ.....	54
メーター	52
メーター照度調整	57
メンテナンスデータ	288

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能.....	295
雪道ですべて動けない	
(スタックした)	284
油脂類.....	288

よ

4輪アンチロック・ブレーキ・	
システム (4W-ABS)	165

ら

ライセンスプレートランプ	
(番号灯)	113
電球 (バルブ) の交換	244
ランプスイッチ	113
ワット数	294
ラゲージルーム	
デッキサイドポケット	211
ラジエーター	
オーバーヒート	281
メンテナンスデータ	291
ラジオ	180
ランプ	
オートマチックハイビーム	151
室内灯	192
センタートレイ (ドリンク ホルダー付) 照明	192
電球 (バルブ) の交換	237
非常点滅灯 (ハザードランプ)	249
ヘッドランプ (前照灯)	113
方向指示灯 (ターンシグナル ランプ/ウインカー)	111
ライトセンサー	115
ランプ消し忘れ警告ブザー	115
ランプ消し忘れ防止機能	115
リアフォグランプ	116
ルームランプ	193
ワット数	294
ランプ消し忘れ警告ブザー	115
ランプ消し忘れ防止機能	115

り

リアウインドウデフォグガー	188
リアシート	
クッション固定式シート	76
クッション引き起こし式 シート	77
リアフォグランプ	116
スイッチ	116
電球 (バルブ) の交換	242
ワット数	294
リア方向指示灯	111
電球 (バルブ) の交換	242
方向指示レバー	111
ワット数	294
リアルームランプ	193

る

ルームミラー	
(インナーミラー)	86
ルームランプ	193

れ

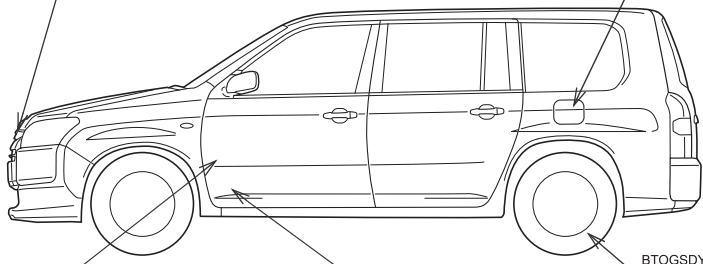
冷却水	291
高水温警告灯	260
低水温表示灯	51
冬の前の準備	173
メンテナンスデータ	291
冷却装置（ラジエーター）	291
オーバーヒート	281
メンテナンスデータ	291
レーンディパーチャーアラート （車線逸脱警報）	146
レバー	
シフト	108
ハンドル位置調整	84
方向指示	111
ボンネット解除	219
ロック（ドア）	67

ろ

ロアポケット	205
ロック	
シフトロック	109
チャイルドブルーフ	68
ドア	66
バックドア	70
パワーウィンドウロック	91
リモコンキー	66

わ

ワイドフリーラック	202
ワイパー & ウォッシャー	
ウォッシャー液の補給	222
フロント	118
リア	120
ワイパーブレード（寒冷地用）	174
ワックス	214
ワット数	294
1DIN ポケット	205

ガソリンスタンドでの情報																				
給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。																				
ボンネットフック P. 219	給油口 P. 124																			
																				
ボンネットオープナー P. 219	給油扉オープナー P. 124	タイヤ空気圧 P. 293																		
燃料の容量 (参考値)	50L																			
燃料の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン (レギュラー) ※ <p>※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン (酸素含有率 3.7%以下) を使用することができます。</p>																			
タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">前輪</th> <th colspan="2">後輪</th> </tr> <tr> <th>空荷時</th> <th>積荷時[*]</th> <th>空荷時</th> <th>積荷時[*]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FF 車</td> <td>220 (2.2)</td> <td>240 (2.4)</td> <td>220 (2.2)</td> <td>290 (2.9)</td> </tr> <tr> <td>4WD 車</td> <td></td> <td></td> <td>230 (2.3)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 100kg 以上または 4 名乗車以上</p>		前輪		後輪		空荷時	積荷時 [*]	空荷時	積荷時 [*]	FF 車	220 (2.2)	240 (2.4)	220 (2.2)	290 (2.9)	4WD 車			230 (2.3)	
	前輪		後輪																	
	空荷時	積荷時 [*]	空荷時	積荷時 [*]																
FF 車	220 (2.2)	240 (2.4)	220 (2.2)	290 (2.9)																
4WD 車			230 (2.3)																	
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 : 3.4L オイルとフィルター交換時 : 3.7L																			
エンジンオイルの種類	純正モーターオイルゴールデン ECO SN 0W-20 —API SN, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 純正モーターオイルゴールデン SN 0W-20 —API SN, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 純正モーターオイルゴールデン SN 5W-30 —API SN, ILSAC GF-5, SAE 5W-30																			